

甲子園への道 —七十年のあゆみ—

筑紫中央高等学校野球部誌

福岡県立筑紫中央高等学校 野球部OB会

甲子園への道

—七十年のあゆみ—
筑紫中央高校野球部誌



福岡県立筑紫中央高等学校
野球部OB会

甲子園への道

—七十年のあゆみ—
筑紫中央高校野球部誌



福岡県立筑紫中央高等学校
野球部OB会



校訓
至誠
自立
識見

岡部隆太郎

題字揮毫 昭和30年卒 岡部 隆太郎 (筑紫野市 助役)



校歌

作詞 後藤尚智子
作曲 森脇憲三

- 一 若草しゆる 筑紫野を
朝夕まなぶ 窓に見て
鳳雛幾百 すしやの
みどりのことに いまぞ立つ
筑紫中央高校の
空に希望の 雲も湧け
- 二 御笠と那珂の 水清く
浮かぶ月に 万葉の
遠き文化を しのびつゝ
優しくつゞく ともにぞ
筑紫中央高校の
訓はげめて 行かんがな
- 三 寧ろの梅に しくとくと
歴史は香へ 新しく
若き瞳に 宝満の
鳥嶺の雲を 仰ぐとき
筑紫中央高校の
旗もすくしく ひまがえれ

■校歌、校章制定

昭和24年9月に校章を生徒より募集して制定した。現在の校章がそれである。当時の園遊の伊勢幸平先生の御骨折りで多数の応募作品を整理して頂き、当時1年生であった藤田 邦比古(昭和27年卒)氏の作品を校章として決定した。

太平刑ゆかりの梅花を「中央」の文字で図案化しその中心に「高」を配置したものである。

同時に校歌制定の議起こり、作詞を公募する事になった。これも多数の応募作品より選抜された歌詞である。音楽の池田国雄先生の骨折りで、学大の森脇憲三教授に作曲を依頼されて、間もなく出来上がった。歌詞は後藤(田代)尚智子さんのが入賞した。

歴代野球部長



初代 昭24.5~昭30.3
小田茂生



二代 昭30.4~昭33.3
財部利夫



三代 昭33.4~昭37.3
五代 昭38.4~昭45.3
岡本利彦



四代 昭37.4~昭38.3
井上正秀



六代 昭45.4~昭50.3
嶺 知巳



七代 昭50.4~昭52.3
伴 昭彦



八代 昭52.4~昭53.3
野口峰夫



九代 昭53.4~昭56.3
桑野正夫



十代 昭57.4~昭59.3
小山一廣



十一代 昭59.4~平2.3
田中義明



十二代 平2.4~平7.3
長瀬泰信



十三代 平7.4~平8.3
伊藤修

歴代野球部長



十四代 平8.4~平9.3
野見山 一 義



十五代 平9.4~平12.4
十七代 平13.4~平14.3
永里 竜 一



十六代 平12.4~平13.3
松隈 史 郎



十八代 平14.4~平15.3
片山 英 和



十九代 平15.4~平18.3
吉岡 利 治



二十代 平18.4~平21.3
平山 篤



二十一代 平21.4~平27.3
田村 聡 弥



二十二代 平27.4~平30.3
折田 隆 志



二十三代 平30.4~平30.7
森山 博 志



二十四代 平30.7~現在
林田 忠 雄

歴代監督



初代 昭24.5~昭30.3
小田茂生



二代 昭30.4~昭33.3
財部利夫



三代 昭33.4~昭35.3
浅田和俊



四代 昭35.5~昭40.3
岡本利彦



五代 昭40.4~昭53.4
十代 昭63.4~平 5.7
十二代 平 6.4~平 9.3
渡辺 正



六代 昭53.4~昭56.3
小山一廣



七代 昭56.4~昭61.3
牛嶋洋二



八代 昭61.4~昭62.3
住吉正史



九代 昭62.4~昭63.3
荒木勝也



十一代 平5.7~平6.3
吉村成登



十三代 平9.4~平15.3
森山博志



十四代 平15.4~平16.3
片山英和



十五代 平16.4~平27.3
萩井泰之



十六代 平27.4~平30.3
永松義文



十七代 平30.4~平30.7
林田忠雄



十八代 平30.7~現在
森山博志



野球部創部70周年記念誌 発刊にあたって

OB会会長
昭和45年卒業

伊藤 徳 明

記念すべき令和元年の始まりに、野球部創部70周年という節目を迎え、約800名のOB会員とともに、この場に立ち会えることは大変な喜びです。これもひとえに、昭和24年5月に創部して頂きました初代OB会長大岡隼人様他11名の部員、マネージャーの皆様の行動力と熱意の賜物と感激致しております。

また、OB会員の皆様には記念誌発刊にあたり、ご理解ご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、母校野球部は、昭和45年春、創部21年にして第42回選抜高校野球大会に初出場を果たし、全国にわが校の名を知らしめました。それを機に、OB会活動も活発化し、その後の甲子園への道は後輩たちに託すこととなりました。また、OB会活動としましては、毎年恒例の、激励金授与に加え、平成11年に創部50周年記念誌を発刊、高校創立100周年時には、選抜高校野球大会出場記念石碑を設置するなど、その内容も充実して参りました。特に、記念石碑設置にあたりましては、学校、同窓会、保護者会、OB会歴代役員等のご臨席を賜り、甲子園出場時のOB10名が、遠くは福山、熊本から駆けつけてくれた中、除幕式を挙行することができました。

このようの中、時代は平成から令和へと移り、その記念すべき年に創部70周年記念誌を発刊できることは、大きな喜びであり、母校野球部の歴史を後世に伝え残せる機会を得た喜びと、その責任を感じているところです。

また、今回の記念誌発刊に当り、多くの法人、個人、同窓生の皆様に、ご協賛を頂きました。記念事業実行委員一同、心から感謝申し上げますとともに、今後、母校野球部が結果を出すことは勿論のこと、母校発展のため、地域発展のため、OB会発展のため、今後なお一層努力して参りたいと考えております。更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、日頃から、OB会活動にご理解頂き、ご協力くださいます鬼塚同窓会会長様はじめ、同窓会事務局の皆様方、学校関係者、保護者会関係者、更には記念誌にご寄稿くださいました歴代校長、野球部長、監督の皆様方に心より感謝申し上げます、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。



野球部創部70周年を言祝ぐ

福岡県立筑紫中央高等学校長

江口也文

筑紫中央高校野球部が創部70周年を迎えたことは誠に慶賀に堪えません。関係者の方々には心からお祝いを申し上げます。

本校は大正6年に筑紫実業女学校として発足し、昭和3年に筑紫高等女学校となり、女子教育の中核的役割を果たしました。その後、戦後の学制改革により、昭和24年に男女共学の県立筑紫中央高等学校へと改組されました。敗戦後の混乱をいち早く收拾し、新しい国家、そして新しい教育を造り上げるため、本校生徒・職員、関係の方々は文字通り全力を傾注したことと思います。そしてその同じ年に野球部が産声を上げたのであります。

そして、創部20年となった昭和45年に、選抜高校野球大会において九州地区代表として初の甲子園出場を果たしました。学校関係者、県教育委員会、野球部関係者、地域の方々の喜びはいかばかりであったろうかと拝察いたします。私はその場に居合わせませんでした。当時の新聞記事を見ると、まるで自分もその時間を共有するかのよう、信じられない程嬉々とした気持ちになります。

その後、更に50年を経て、野球部は本校部活動の中心であり、本校の生徒・職員の「夢」であります。これまで何百という野球部員が連綿として己の心と体を尽くして野球に青春を燃やしてきました。練習に勤しむ野球部員の気合いの入った大きな声はグラウンドの空気を引き締めますが、そのことにとどまらず、校内で折々に出会う野球部員たちの元気で、心のこもった挨拶は、筑紫中央高校の学校生活をより爽やかに、より楽しいものにしてきていると感じています。

時代は、知識基盤社会、情報化社会、多文化共生社会の時代であると言われる。この新しい時代を生き抜くには、知識や技能を身につけるだけでなく、その知識・技能を活用する力、思考し判断し表現する力、他人と協働して課題解決を図る力が不可欠であると言われる。厳しい時代だと思えます。しかし、そのような厳しい時代だからこそ、「夢」や「希望」といった一人一人がそれぞれの未来に向かって真っ直ぐに進むことをゆるすような、いわば「エンジン」が必要であると思っています。その「エンジン」さえあれば人は強くなれる、多少の苦労はあっても必ずや幸福な人生を送ることができると思っています。本校の野球部が、部活動が、その「エンジン」として今後も一層の発展をするよう願うものであります。

筑紫中央高校野球部の益々の発展と野球部員一人一人の幸せを願うと共に、野球部の頑張りが引いては本校発展に大いに寄与することを心から祈念いたします。

創部70周年、誠におめでとうございます。



野球部と筑紫中央高校に感謝

福岡県立筑紫中央高等学校
前校長

中 村 茂 喜

「ナイスプレー!」「ナイスバッティング!」「ナイスピッチング!」「頑張っていこう!」グラウンドには今日も、元気な大きな声がかどまし、生徒たちがいきいきと躍動しています。

平成30年度、教員生活最後の年に私の地元(太宰府)に近い100年を超える歴史と伝統ある学校、さらに私にとって思い入れがある野球部が過去に甲子園出場を果たしたこの筑紫中央高校の校長として赴任し勤務できることを、とても嬉しく思いました。4月1日に満開の桜に迎えられ、また、3月最終日には同じく桜の下を、教職員や部活動の生徒達に見送られ(その中でもより大きな声援を送ってくれたのが野球部員)感激し、嬉し涙を流しました。私が38年間の教員生活を全うできたのは、生徒たちの明るく元気な姿や、日々成長する姿に励まされたお陰であり、感謝の気持ちで一杯です。

私は野球に愛着を持っていました。というのも、教員初任校の福岡農業高校では、学校事情からいきなり野球部長をすることになりました。私は、中学から大学までバスケットボールを経験し、野球を専門的にしてはいませんが、小さな頃からスポーツが大好きで、昔から西鉄ライオンズのファンで(今はソフトバンクホークス)、毎日ラジオで野球中継を聞き、時には平和台球場へプロ野球観戦に行っていました。そんな大好きな野球に関われる嬉しさもありましたが、当時の野球部員数は非常に少なく、常にやっとチームが組める部員数でした。農業高校では、放課後の農業実習があり、練習にもなかなか人数が揃わず、私も部員の一員として練習に加わっていました。しかし、そんな状況の中でも生徒たちは野球が大好きで、毎日野球に明け暮れ、その情熱に私も、一緒に野球に打ち込みました。若さの勢いだけで、監督も兼任した時もありました。練習試合でもなかなか勝てないが、生徒たちの目標は公式戦1勝という中で、7年間で一度だけ公式戦で勝利し、大喜びしたのを今でも覚えています。筑紫中央高校とは7年間の公式戦で2回対戦しましたが、もちろん2回とも敗戦しました。筑紫中央高校は部員が沢山いて、技術も高く、甲子園出場経験校で羨ましいな一と、常に思っていました。私にとって、野球が大好きな生徒たちとともに過ごした、その生徒たちから元気をもらった7年間は、教員生活の「礎」となっており、感謝しています。

このように、野球に思い入れがある私にとって、筑紫中央高校の野球部に関われることは、幸せなことでした。放課後に野球部員が元気に頑張る姿を見ることや、試合で頑張っている様子を見ること、更に学校内で明るく元気な挨拶を励行する姿に、私自身が元気をもらい、明日からの教育活動につながるものでした。卒業生の森山博志先生が母校に帰ってきて、生徒たちは練習にも熱が入り、日増しに自信をつけ、風格が増し、「考える野球」を通して日々成長していく姿がよくわかりました。そして、先輩がなすとげた「甲子園出場」という偉業を、「夢」として常に大きな声で語るようになりました。また、何よりも心がこもった挨拶やマナーを重んじ、野球部の生徒たちがリーダーとして学校を引っ張っていく姿が、頼もしく思えました。野球を通して、苦しいことや辛いことや嬉しいこと、「チーム」としてお互いの思いを共有し、社会人としての基礎を築いていく、そんな伝統ある筑紫中央高校の野球部に、教員最後の年に関われたことを誇りに思うと同時に、とても感謝いたします。

最後になりますが、これまで筑紫中央高校野球部に関わってこられた皆様への感謝と更なるご健勝、並びに野球部の益々の発展を祈念いたします。



(私の甲子園物語)

『思い出の三軒茶屋・「妹背(いもせ)」』

福岡県立筑紫中央高等学校同窓会(鳳雛会)
第七代会長(第18回生)

鬼塚春光

昭和45年の年が明けて、間もなくの頃だったでしょうか。

東京で大学生活を送っていた私は慌ただしく故郷での正月を終え、大学紛争の影響で2年次の全く無かった授業分を取り返すべく組まれた3年次の高校生並みの時間割を消化するため、苦しみながらこのタイトな時間割に向き合っていました。

加えて、当時の私は卒業よりも大切なことは教員免許状の取得であり、こんな時間割の中での教職課程の受講はまさに大変厳しいものでした。

このような状況は、中学時代から大の親友であり、上京しても頻繁に会っていた日本体育大学の「村上恵一君」との間を少し疎遠にしていたような気がします。

それに現役で入学していた彼は、既に卒業～就職も控え、彼なりに多忙な日々を極めていたようでした。

その彼から突然電話があり、「良か話があるけん、今日一緒に飯食おう。」との誘いがありました。彼はもう既に学生時代から晩酌のような食事もしていましたし、私もそれに時々は付き合ってもいました。

今回も彼が指定したのは、「三軒茶屋の妹背」という名の小料理屋(一膳飯屋?)さんでした。今日は「二人だけ」で会おう、と言うのです。

中学時代から大学に入ってもず～っと、特に高校時代、私は生徒会長をしていた関係もあり、一人で校旗を持ち出し応援に行ったりするなど、彼の野球人生の応援団長だった私に対する恩返しの気持ちを込め、二人で、二人だけで喜び合いたかったのでしょう。

他愛もない話の向こうのテレビの画面。突然、彼が「おっ、始まった!」。

それは母校の春の甲子園出場決定のニュース、九州代表として「筑紫中央高等学校」の名前が紹介されたのです。

彼は私の顔を見、ニヤリとし、今で言うまさに「ドヤ顔」でした。

しかし、それは一瞬で、彼の目からは涙が溢れ、その画面を見て直ぐに感涙に咽(むせ)んでいた私と一緒に、あとは二人で涙、涙の異様な晩餐となりました。

この二人の学生の姿を微笑ましく見ていて、一緒に祝杯を挙げてくれた「妹背のお女将さん」の目にも涙があったことを、忘れません。

約半世紀経った今でも、母校の甲子園出場を語る時、この三軒茶屋の「妹背」の出来事を同時に思い出すのです。

そして私は3月を待ち、勇躍、岡本利彦先生、渡邊正先生とともにこの我が母校の素晴らしいナインを、OBとして率いた「村上恵一君」が待つ甲子園に向かったことは言うまでもありません。

※妹背…約50年経過しているので、「妹背」は「妹勢」、「妹せ」又は「いもせ」だったか定かではない。悪しからず!



青天の霹靂

昭和27年卒
初代主将・初代OB会会長・五十周年誌編集委員長

大岡隼人

私は昭和21年3月、旧制筑紫中学(現筑紫ヶ丘高校)を受験し入学したが昭和24年の学制改革で那珂川を堺にして二日市側に居住する生徒は全員、雑餉隈の筑紫高等女学校に編入されて筑紫中央高校になった。私は筑中野球部で甲子園を狙ったが思いがけない学制改革で女学校に編入されて、野球部は狭いグラウンドで危ないという理由で創部出来ず残念。私達は校長に野球部の創部を申し入れた。昭和24年5月に教師で一番若い小田茂生先生が部長・監督になる事で創部できた。然し乍ら野球部の練習は他部の練習が終った後、午後4時からで部員は4時になると一斉にユニホーム姿に着替えて勢揃いし陽が暮れる迄の短い時間に白いボールを投げて打って拾い走り廻った。都築校長がその練習風景を見ていた。元女学校に降って湧いた野球小僧の出現は、全校生徒に愛されていた。予算の不足は皆の協力によりアルバイトで補い、春・夏の大会は春日原野球場で開催されたので、授業を短縮して、全校生徒が応援に駆けつけた。応援スタンドは赤黄白色のパラソルが咲き、黄色い声と併せて桜の花も満開だった。翌日の新聞には写真入りで紹介された。先生方もよく協力されてよかった。これは部員が一言も文句を言わず、唯ひたすら白球を追い求め、小田・副島両先生の無言の指導方針が学校全体を協力態勢に導いたと思う。

勝負事は勝つことが全てだ。二年の秋、九州大会福岡県予選で三回戦迄勝ち進み、練習試合では大敗を喫した福岡高校と香椎球場で対戦、前半はリードされたが中堅手の滝口君がターザンのような叫び声を張り上げて全選手の気分を盛り上げ5-3で逆転勝利を呼びこんだ。“全く青春ここにあり”で大変嬉しかった。狭いグラウンドで限られた短い練習時間に大きな声を発して行動する姿は今迄の女学校では決して見れなかったシーンに声なき応援は私達の心を打ったものだ。

私達野球少年は応えきれない感謝感激であった。



野球部一回生の回顧録

昭和27年卒業 今田 敬 輔

学制改革により、現住所近くの高校に通学するという決まりになり、筑紫中学校（現筑紫丘高校）から、多くの男子生徒が、当時雑餉隈にあった筑紫女子高等学校（現筑紫中央高等学校）に転校することになった。

鉄筋コンクリートの校舎から木造校舎に変わり、三百メートルトラックを有する広い運動場から、三分の一位の狭い運動場になり、私は中学時代野球部に属していただけに、野球ができるのか凄く心配したが、暫くして野球部設置が決まり、ほっとしたことを覚えている。

しかし、後で聞いたところ、野球部を設置するまでには相当の難題があったということである。なにしろ長方形の狭い運動場で、ライト側は大きいフライは校舎に当たり、サード側は、壁の横に道路と鹿児島本線が走り、危険極まりないという最悪の立地条件であったからである。間もなくして、部活動入部希望の募集があり、早速野球部に希望を出した。折しも、時代は野球人気の始まりの頃で、男子学生で運動ができる多くの生徒が、我も我もと野球部に集まり、その数は30人を超えていた。しかし、その殆どが筑紫中学から来た気心の知れた者ばかりで、和やかなものであった。

やがて、下川順一君や大岡隼人君を中心に選手が決まっていった。野球部の人気は、多くの個人の人気もあって大変なものであった。

確か、最初の野球大会が春日原球場であった時には、多くの同級生たちが球場に押しかけ、当日の授業が成り立たなかった程だと聞いている。

しかし、我々は決しておごることなく文武両道を目指し、学問にも励み、卒業後は、関東、関西、地元の有名大学に進学した。小生は、地元の教師養成の大学に進み、卒業後は中学校の教師として、野球部の指導者として、高校時代の練習が大いに役立ったと限りなく感謝している。



野球こそ青春

昭和27年卒業 瀧口隼生

創部70周年を心より祝福いたします。半世紀以上も経過する野球部での3年間、中でも創設時の1年間は、野球こそ青春と脳裡に焼き付いています。

振り返ると、昭和21年旧制中学最後の生徒として入学、学制改革により本校4回生(男子1期生)として編入学し、初めての男女共学となる。野球部創設を目指すも狭いグラウンドの為、硬式ボールは危険と反対の声があがったが、生徒の大なる熱意のもとに条件付きで創部が認められた。

当時、本校は、旧国鉄雑餉隈駅(現南福岡駅)前に所在し、レフトはバレーコート、センターはテニスコート、ライトは校舎が、バックネットも無く、三塁の横は道路を挟んでJRの線路という環境下で、練習は午後4時からと条件付き。連日、白球が見えなくなるまで、熱血青年小田茂生先生(数学担当)が、大きな声で両手にチマメを作りながらノックして頂いた姿が、今なお目に浮かびます。

初の公式戦出場は春日原球場、創部3ヶ月で第1回夏の全国大会福岡南部予選、昭和24年7月22日出場。都築貞枝校長先生を先頭に、全校生徒が授業を繰り上げて、対久留米商高戦に一塁側スタンドいっぱい埋め尽くし、カラフルな沢山の日傘を手に黄色い声援を送る大応援団があるも、空しく14対0のスコアで敗戦する。新1年生のみではやむを得ずと、翌朝の新聞には写真入りで、女学生軍団の応援風景が掲載された。

昭和25年4月、第6回九州大会福岡大会南部予選では、準々決勝まで戦い続けた褒美でしょうか、春の全国選抜大会出場の、長崎東高校招待試合の対戦校に本校が選ばれ、武末、石川両投手の好投もあり、2対1で敗戦した懐かしい思い出もあります。

野球部3年間で特質すべき事は、培ってきた貴重な数々の体験のお蔭で、不撓不屈の精神の涵養、忍耐力、集中力、積極性、チームワークの大切さ等、社会でやっていける原動力となり、大いに役立った事は、正に宝であり関係者諸氏の皆様に感謝し、心より改めてお礼申し上げます。

現役の皆さん、70周年の大きな節目を迎える機に、野球部の新しい歴史を切り開いてください。

目次

歴代野球部長	4
歴代監督	5
野球部創部70周年記念誌発刊にあたって	筑紫中央高等学校野球部OB会 会長 伊藤徳明 7
野球部創部70周年を言祝ぐ	福岡県立筑紫中央高等学校 校長 江口也文 8
野球部と筑紫中央高校に感謝	福岡県立筑紫中央高等学校 校長 中村茂喜 9
(私の甲子園物語)『思い出の三軒茶屋・「妹背(いもせ)」』	福岡県立筑紫中央高等学校同窓会(鳳雛会) 七代会長(第18回生) 鬼塚春光 10
青天の霹靂	初代主将・初代OB会会長・五十周年誌編集委員長 昭和27年卒 大岡隼人 11
野球部一回生の回顧録	昭和27年卒業 今田敬輔 12
野球こそ青春	昭和27年卒業 瀧口隼生 13
学年の紹介	16
部長、監督時代を振り返って	十四代 監督 片山英和 七十八代 野球部長 74
福岡県立筑紫中央高等学校 野球部創部70周年に感謝を込めて	十五代 監督 初井泰之 75
子供たちの可能性を信じて	十七代 監督 林田忠雄 二十四代 野球部長 104
未来は想像したことと、言った言葉で作られる	二十三代 野球部長 十三代・十八代 監督 森山博志 105

70年のつながり	保護者会会長 (平成30年~令和元年)	中村暢男	110
野球部創部70周年記念誌発刊にあたって	現 飯塚高等学校教員 平成13年卒	藤武裕司	111
幸運に恵まれた?春の甲子園出場&本気で狙った夏の甲子園	昭和46年卒業	内山田慶弘	112
甲子園の思い出		嶺 知巳	113
福岡県大会			120
歴代校長・部長・副部長・コーチ・監督・主将一覧			134
70年のあゆみ			136
野球部OB会規約			144
OB会役員一覧			145
OB会名簿			146
第42回 選抜高校野球大会出場記念石碑設置			153
賛助広告			155
賛助者ご芳名			166



s27 1952 年卒業



遊撃手	大岡隼人
中堅手	瀧口隼生
投手	石川三雄
二塁手	今田敬輔
左翼手	大寺章弘
三塁手	下川順一
捕手	田添栄一
投手	武末尚文
一塁手	河波土弥
マネージャー	鹿兒島康裕
マネージャー	坂井浩一
マネージャー	村島洋一

※順不同



昭和24年 夏 全国大会福岡南部予選 第31回大会 0 - 14 vs 久留米商

昭和25年 春 九州地区大会福岡南部予選 第6回大会 10 - 7 vs 大牟田北

7 - 2 vs 朝倉

準々決勝 3 - 14 vs 修猷館

夏 全国大会福岡南部予選 第32回大会 7 - 3 vs 大牟田南

0 - 1 vs 三池

長崎東高 甲子園出場高校招待試合 1 - 2 vs 長崎東高

昭和26年 春 九州地区大会福岡南部予選 第8回大会 3 - 1 vs 糸島

1 - 2 vs 筑後

夏 全国大会福岡南部予選 第33回大会 5 - 11 vs 伝習館

筑後県立0000010
久留米商000014
五回コールドゲーム
筑石川 武末 河波 田添 栄一
投手 捕手 三塁手
久留米 一塁手 二塁手
久留米 三塁手 四塁手
敵先点一回打者上八を繰
出四つの四球と九安打集中し
て土京を徳試官を決定した久
商のワンサイドゲームだったが
一年のみの新チームは筑中商高
としては惜しかった(後)

筑中商の苦戦



紅い応援も空し

第二日の王巨馬御スタド
は惨しく女生水理めつした
援を止め押しかけた筑中
中商校旧筑中商の応援は
差徒の二球一球姉さんの生徒
連赤色着のバランを渡打
たながらランバッター
苗田海援のさかるとだ
が女生チームは相手久商強
過ぎ回裏は空打たれて遂
にコールドゲーム口惜しいと
告げられた



s28¹⁹⁵³年卒業



後列 吉田(2年)・永田(2年)・井上(2年)・福本(2年)
前列 小田監督・井上主将・伊藤・大坪・井上(義)・福島先生

捕手	井上	憲
投手	大坪	寿雄
遊撃手	井上	義教
左翼手	伊藤	昌平

※順不同



後列 福島副部长・井上主将・伊藤
前列 小田部長・大坪・井上(義)



昭和26年 秋 九州地区大会福岡南部予選 第9回大会 11 - 5 vs 筑紫野
2 - 3 vs 福岡商

昭和27年 春 九州地区大会福岡南部予選 第10回大会 1 - 7 vs 筑紫丘
昭和27年 夏 全国大会福岡南部予選 第34回大会 3 - 9 vs 伝習館



井上 憲
(主将)

野球部での思い出

私と野球との出会いは、小学5年生の時に始まり中学の3年間続けたが、高校(JR南福岡駅付近に在)では、あの狭いグラウンドの状況を見て野球することを躊躇していたが、6月頃入部した。主として郊外に出たファールボールを探すことや、ボールの縫い直し、水汲み、石鹸売り等雑用が野球だった。好きな打撃は少し、守備は長々と外野で前後左右に球を追っていた。たまに、先輩の大きな当たりがテニスコートに入るとヒヤッとしたものだった。ライト側には二塁手が入るだけで狭く、後ろは教室があり窓ガラスを壊さぬように気をつけて打撃練習をしていたように思う。当時はサマータイムが施行されていたので、帰りは何時も9時近く帰宅は10時頃だった。ようも草臥れ儲けの野球やって、又一回戦ボーイかいと、よく皮肉を言われたものだった。

2年生のとき夏の甲子園大会福岡地区予選が終わると、

2年生以下で新チームが結成され、私がキャプテンにされた。当時のことを振り返ると、グラウンドが暗くなるまで練習したが、一向に上手ならず、ただ汗を流すでけとといった感じであった。夏の甲子園大会福岡地区予選では一回戦、又は二回戦位で負けたように思う。(我々には何か欠けていたように思う。)

なにわともあれ、当時の懐かしいチームメイトの名を出せば次の通りである。

投手は、大坪、球は早いコントロールに難あり、ただし以後発奮、九大に進学後同野球部で投手として活躍した。

一塁手は、現株式会社間組社長 大和、福岡商業との練習試合でランニングホームランを打った強打者、ベースを全力疾走し、青い顔してハアハア激しい息をしながらベンチに戻ってきたのを思い浮かべる。

二塁手が永田、何時もにここにこしてサイドハンドから投げる姿は内野手そのものだった。

三塁手は月原、投手も出来るので第二投手をしていた。



s29 1954 年卒業



福島副部長・岡本・永田・吉田主将・井上・小田部長（上段は2年・1年）

投手	吉田博幸
捕手	井上隆
三塁手	月原一雄
遊撃手	永田季雄
一塁手	大和文哉
右翼手	岡本稔 (永眠)

※順不同



岡本 稔

公式戦

昭和27年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第11回大会	1 - 5	vs 柳川商
昭和28年 春	九州地区大会福岡南部予選	第12回大会	0 - 12	vs 明善
昭和28年 夏	全国大会福岡南部予選	第35回大会	5 - 2	vs 泰星
			0 - 3	vs 筑紫丘



吉田投手



打撃練習風景（雑餉隈時代）



左上から 井上・松雪・岡本・福本
岡部・吉田・福島先生・小田先生・永田・江登



s30 1955 年卒業



前列 高野・桑野・小田部長・岡部・福本 後列 松雪・大野・江登

三塁手	岡部	隆太郎
一塁手	福本	良治
中堅手	大野	貞俊
左翼手	江登	正宣
遊撃手	松雪	敏夫
左翼手	桑野	範久
マネージャー	高野	整一

※順不同



昭和29年 春 九州地区大会福岡南部予選 第14回大会 2 - 5 vs 博多工
 昭和29年 夏 全国大会福岡南部予選 第36回大会 2 - 1 vs 柳川商
 5 - 7 vs 浮羽

昭和29年7月24日 土曜日

ホームランハット 藤原一朗(筑紫中央)が、三塁打を打ち、ホームランを打った。

高校野球 福岡南部予選

第36回大会

手堅い戦法が奏功

筑紫中央、柳川商を倒す

筑紫中央は、柳川商を倒す。筑紫中央は、柳川商を倒す。筑紫中央は、柳川商を倒す。



s31 1956 年卒業



後列ユニホーム 井手 孜・伊藤投手・池内主将
左から2番目 財部先生

左翼手	池内	増男
投手	伊藤	光
二塁手	渡邊	正
外野手	井手	孜

※順不同



昭和30年 春 九州地区大会福岡南部予選 第16回大会
1 - 3 vs 西南学院

昭和30年 夏 全国大会福岡南部予選 第37回大会
2 - 10 vs 三池工



池内、伊藤、井手

池田 増男

165.4cm 59.4kg 右投・右打

新任の財部監督のもと、3年生の少ないチームを戦える軍団にするべく先頭を切って、全員を引っ張って練習に試合に主将としての重責を果たした。

就職難の真只中であつたが唯一1人九宏薬品に学校推薦で就職が決まった。真面目な性格と主将としての責任感が強かつた。

伊藤 光 (投手)

168.1cm 60kg 右投・右打

制球力抜群で2年生の時から主戦投手として活躍し、好成績を上げたが、最終学年は3年生が少なく、孤軍奮闘したが、前年度を越える成績には至らなかった。社会人野球界からも注目され、当時の九州ノンプロの名門、杵島炭鉱野球部からも学校訪問、投球の実技テストの結果、内定したが、直後に炭鉱界の斜陽化が始まり入団に至らなかった。福岡地区でも高く評価されていた。

渡邊 正

164cm

彼は真面目で基本を忠実に守る性格であり、普段は目立つ所がなかったが、此処一番の時は存在感があり、体育大学に進み後に母校の監督となり甲子園出場をなしえて、一躍全国に筑紫中央高校の存在を成したのも、「基本に忠実」を徹底した証しと思う。

井手 孜

派手好きで仕事にも足跡を残さず、人生の半分を闘病生活に費やしたが、その事が人を思いやる心を生じさせたと考えている。



s32 1957 年卒業



捕手	大庭茂義
中堅手	古沢誠吾
一塁手	徳重合太郎
三塁手	満生護
遊撃手	原陽三
投手	大神柳太郎
二塁手	岡部忠広 (永眠)
右翼手	山岸弘幸

※順不同



昭和30年 秋 九州地区大会福岡南部予選 第17回大会 1 - 6 vs 糸 島

昭和31年 春 九州地区大会福岡南部予選 第18回大会 2 - 8 vs 三 井

昭和31年 夏 全国大会福岡南部予選 第38回大会 0 - 11 vs 大牟田南

乙藤・山本・安河内 ▶
原・大庭・徳重
(体育大会にて)



◀大神・原・木下・宮本
大庭・満生
(於 グランド練習のとき)



▼大神・大庭 (於 宝満山にて)



▲野中・山本・財部監督・小林・
山口・金堂・大庭
(於 志賀の島キャンプ)

◀原・大庭・徳重
満生・木下



▲大神・乙藤 (於 宝満山にて)



s33¹⁹⁵⁸年卒業



左翼手	山本	徳光
二塁手	小林	義光
捕手	篠原	俊之
中堅手	金堂	守
投手	川辺	勝幸
三塁手	永田	三吉
遊撃手	吉田	功
右翼手	安河内	重光
一塁手	乙藤	和義

※順不同



昭和31年 秋 九州地区大会福岡南部予選 第19回大会 1 - 8 vs 福岡工
 昭和32年 春 九州地区大会福岡南部予選 第20回大会 1 - 16 vs 八女
 昭和32年 夏 全国大会福岡南部予選 第39回大会 6 - 7 vs 香椎



▲金堂・小林



▶小林・川辺



▲篠原



▲川辺・乙藤・篠原・小林・吉田・永田



▲金堂・永田・山本・小林・篠原・乙藤・安河内・吉田・川辺



s34 1959 年卒業



捕手	神秀
左翼手	半田了資
一塁手	大村幸彦
二塁手	野中邦彦
中堅手	篠原彰
右翼手	友池忠義

※順不同

公式戦

昭和32年 秋 九州地区大会福岡南部予選 第21回大会 3 - 9 vs 大 濠
 昭和33年 春 九州地区大会福岡南部予選 第22回大会 6 - 7 vs 福 岡
 昭和33年 夏 全国大会福岡南部予選 第40回大会 3 - 8 vs 大 川

新任紹介



岡本利彦

◇担当科目 体育教師
 ◇学 歴 日本体育専門学校
 ◇趣 味 スポーツ(何でも)
 ◇映画(特に持代劇)
 ◇住 所 福岡市薬院西川端十六番地
 ◇抱負 建設の途上にあるこの学校において、いろんなスポーツのコーチをやりながら優秀なチーム、有望な選手を多く育て上げたい。その為には運動部員は積極的に練習に参加してもらいたい。



浅田和俊

◇担当科目 国語講師
 ◇学 歴 九大国文科
 ◇趣 味 映画、演劇
 ◇住 所 福岡市三宅西大橋一三三五
 ◇抱負 自分の本当の生活を生徒に対する希望人間の善意だけを信じよう。

監督・部長の筑紫中央新任着任のとき (学校新聞から)

大 川 野 球	
本 校	01000000000000000000
【本 校】	点 02100000000000000003
安打	11101010000000000005
打点	43252222330330
中 野	藤原 平 藤山 中 藤田 亨 計
三 野	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
二 野	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
一 野	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
捕 手	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
左 翼	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
右 翼	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
打 撃	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
野 手	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
遊 撃	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
二 塁	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
一 塁	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
捕 手	三 野 一 中 右 右 左 投 遊 遊
残塁	14
失策	5
試合時間	2時間12分

全国大会(夏)一回戦敗退(学校新聞から)

野 球

五月十三日(火)福岡工業
 において行われた春季市長杯争奪戦に本校も出場したが福岡工業に惜しくも敗れた。
 福本 10000000000000
 工校 100000001000
 また五月二十四日(土)鳥栖高校で行なわれた練習試合には五人対四で鳥栖高校を破った。

春季市長杯争奪戦(学校新聞から)



s35¹⁹⁶⁰年卒業



中堅手	東	一	男
遊撃手	草野	友勝	
三塁手	竹藤	剛	
投手	藤尾	一馬	
左翼手	中島	国明	
外野手	嶋野	久	

※順不同



昭和33年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第23回大会	7 - 0	vs 福岡中央
			12 - 1	vs 水産池
			1 - 8	vs 三池
昭和34年 春	九州地区大会福岡南部予選	第24回大会	6 - 4	vs 宗像
			11 - 0	vs 明林
			0 - 2	vs 博多工
昭和34年 夏	全国大会福岡南部予選	第41回大会	1 - 0	vs 香椎
			4 - 1	vs 泰星
			1 - 0	vs 南筑
			3 - 2	vs 三池工
昭和34年 夏	全国大会福岡県大会		0 - 1	vs 小倉



憧れの硬式ボール



竹藤 剛

中学の軟式ボールから憧れの硬式ボールへの期待、然し入部はしたが練習はきつく、先輩は恐く、練習では竹バット、雨の日はゴムボール、グラブは先輩のお古と期待外れだった事が懐かしく思い出される。

然し先輩の厳しい指導はその後の人生に大変に役に立ったと感謝している今日です。

3年生レギュラーのシーズンになった時、新部員の平均身長は163センチか164センチ位だった。特に福岡工業高校・大濠高校との練習試合では相手は大きく中学生と高校生との試合の様であった。

思い出の34年の夏、全国選手権福岡県南部地区予選では、部員は小柄で未熟であったが、本大会で県大会にまで進出出来た事は岡本先生、浅田先生の厳しく適切な指導の賜ものと信じています。

近い将来母校が夏の甲子園に出場し応援に行ける事を楽しみに後輩に期待しております。

(シグナ傷害火災保険(株))



s36 1961 年卒業



一塁手	宗野文雄
左翼手	井上英視
二塁手	志賀圭介
三塁手	横溝征一郎 (永眠)
投手	牧山邦美 (旧姓 剌上)

※順不同



昭和34年 秋 九州地区大会福岡南部予選	第25回大会	2 - 1	VS 大 濠
		3 - 4	VS 三 池
昭和35年 春 九州地区大会福岡南部予選	第26回大会	1 - 0	VS 明 林
		1 - 2	VS 山 猪
昭和35年 夏 全国大会福岡南部予選	第42回大会	10 - 0	VS 修 猷 館
		2 - 3	VS 大牟田南

筑 紫 中 央 高 校 新 聞 昭和35年9月7日

野球部の発展を期して

いま実力は上昇機運にある

全国高校野球選手権大会も盛況開したが、昨年より若く成長を遂げている本校野球部は、今年一層躍進を期し、再来甲子園の全国大会進出という念願で、野球部後援会ができた。後援会長は決まっていない(九月一日発行)が、申し合わせ事項にもあるように、公団と一語に決定されることになつていませう。

現在の野球部員は、二十五年八月二十五日から二十八日まで合宿を行つた。この合宿で、選手達は、今年度の全国大会出場を期し、今年七月二十一日に福岡県大会(九月一日発行)で、八月三日協賛された結果、次のような事項を申し合わせた。

申し合わせ事項

- 一、今年度は、今年度の大会に出場する。
- 一、今年度は、一口五百円、分納も認められる。
- 一、今年度の大会出場料は、八月一日までに納入する。
- 一、今年度の大会出場料は、八月一日までに納入する。
- 一、今年度の大会出場料は、八月一日までに納入する。

以上

現在の野球部員は、二十五年八月二十五日から二十八日まで合宿を行つた。この合宿で、選手達は、今年度の全国大会出場を期し、今年七月二十一日に福岡県大会(九月一日発行)で、八月三日協賛された結果、次のような事項を申し合わせた。

後援会が誕生する

田中弥四郎氏ら発起人



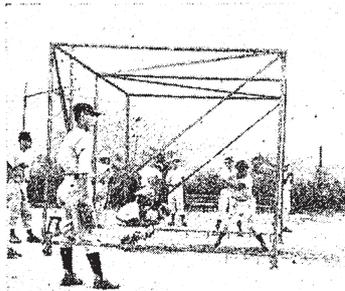
郡利 郡利
所長 大立
行 坂下 貞
福岡 福岡
福岡 福岡
福岡 福岡
福岡 福岡

九州野球大会福岡県予選は、九月二日対戦した。太玉で勝つたけれど、何となく複雑な野球であつた。本校はチャンスによく打つたが、それに對等してエラー、暴投も多かつた。次の試合は筑紫ヶ丘高校グラウンドで。

七回コードで楽勝
九州野球大会県予選

本校 1021013
水産 0100000
(七回コードゲーム)

◇二塁打(筑)進藤、園田、森村
◇投捕(筑)進藤、東、園田、松岡(水)、中村、富永、今里



後援会が誕生して、野球部の発展に力になる。後援会が誕生して、野球部の発展に力になる。後援会が誕生して、野球部の発展に力になる。

岡本監督談
この大卒地元選手達の星の方々の活躍と、この大卒地元選手達の星の方々の活躍と、この大卒地元選手達の星の方々の活躍と。



s37¹⁹⁶²年卒業



遊撃手	小 沢 重 宏
捕 手	国 武 博 志
右翼手	内 場 高 広
中堅手	信 国 征八郎 (旧姓 白水)
投 手	早稲田 邦 重
一塁手	進 藤 泰 清 (永眠)
外野手	松 田 勇 機 (永眠)

※順不同



昭和35年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第27回大会	8 - 1	vs	水 産
			0 - 3	vs	福岡第一
			0 - 1	vs	糸 島
昭和35年 秋	福岡市長杯		8 - 3	vs	電 波
			0 - 2	vs	福 岡 工

昭和36年 春	九州地区大会福岡南部予選	第28回大会	1 - 3	vs	大 川
昭和36年 春	福岡市長杯		11 - 3	vs	明 林
			1 - 0	vs	博 多 工
			14 - 8	vs	電 波
			0 - 3	vs	福 岡 工 (延長13回)

昭和36年 夏	全国大会福岡南部予選	第43回大会	7 - 0	vs	黒 木
			3 - 5	vs	福 岡 工

小 沢 重 宏 (内野手)

- 温厚な性格・精神の持ち主の主将
- 入学1年生からレギュラーで出場

白 水 征八郎 (外野手)

- ひょうきんで長打の持ち主の1番打者
- ヘルメットのサイズが合わず苦労した。

早稲田 邦 重 (投手)

- 投手以外は駄目
- 来る日も来る日も自らバッティングピッチャーを率先して投げた。
- たこ唇とゲジゲジの太い眉で相手威嚇

松 田 勇 機 (外野手) ●永眠

- 本来は柔道部、子細あって入部
- ゴツイ体に似合わず心優しい性格

進 藤 泰 清 (内野手) ●永眠

- 一発長打の持ち主
- 時には投手を兼ねる
- 四角のゴツイ顔に似合わず優しい

内 場 高 広 (外野手)

- ひょうきんで長打の持ち主の1番打者
- ヘルメットのサイズが合わず苦労した。





s39¹⁹⁶⁴年卒業



三塁手	大川重信
一塁手	緒方則明
投手	加藤 勲
遊撃手	中島喜三

※順不同



昭和37年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第31回大会	6 - 5	vs 泰 星
			3 - 2	vs 福岡第一
			8 - 1	vs 明 善
		準々決勝	6 - 4	vs 福岡工業
		準決勝	0 - 1	vs 博多工
		三位決定戦	2 - 8	vs 大 川

昭和38年 春	九州地区大会福岡南部予選	第32回大会	1 - 2	vs 福 岡 商
昭和38年 夏	全国大会福岡南部予選	第45回大会	1 - 2	vs 三 池 農

大川重信 (主将)三塁手 [二日市中学出身]

黙々とひたむきに努力する男で主将としての責任感が強かった。相手投手が自信を持って投げ込むアウトローの直球を打つのが得意で毎試合、右中間をライナーで破る三塁打は見事でした。

緒方則明 一塁手 [天徳中学出身]

左利きの一塁手で器用な選手でした。学生生活や私生活でも人望が厚く、後輩の指導にも熱心で卒業後は福岡玉屋に就職、社会人野球では好成績をあげた。営業部門の部長まで昇進したが、玉屋の廃業で新しい人生を歩くことになった。持前の信用度と人望は必ずや再起する男と確信する。

加藤 勲 投手 [那珂中学出身]

真面目な性格で野球に対する情熱は人一倍、研究熱心でした。走り込み、投げ込み、スタミナ作りは相当に厳しい内容をこなしていた。2年生の時から3年生の東投手と共に試合で投げていた。卒業後は国土館大学野球部に入部し実績をあげていた。

中島喜三 内野手 [那珂中学出身]

野球に対する意欲は満々、真面目な男である。体力的に少し不利でしたが、3年間良く努力した選手でした。

39年卒の同窓生は以上の4人ですが、1年後輩には岩本君、伊藤君、佐藤君など個性のある良い選手が活躍してくれたので新チームの時は目標以上の戦いをする事ができました。夏の大会は部員数の少なさ等で他の学校と力の差がついた様な気がします。今年では創部50周年、部員数35人、そしてOBの森山監督の指導で是非、大物喰いの伝統を発揮して下さい、祈ります。



s40¹⁹⁶⁵年卒業



遊撃手	伊藤秀一
捕手	岩本護美
一塁手	本田健善
投手	佐藤研二
二塁手	永田雅雄

※順不同

公式戦

昭和38年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第33回大会	8 - 4 vs 宗像
			3 - 5 vs 明林
昭和39年 春	九州地区大会福岡南部予選	第34回大会	2 - 3 vs 宇美商
昭和39年 夏	全国大会福岡南部予選	第46回大会	0 - 2 vs 三池農

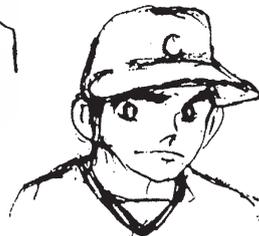
3番 センター
佐藤研二
左投、左打

もう一回り体が大きければ、プロから誘いを受けたかも知れない。とにかく、走・攻・守揃った素質を持っていた。当時は、左腕投手が極少だったので、慣れないこともあったが、左腕投手を大の苦手としていた。



7番 ファースト
本田健善
右投、右打

夏の予選、投手が好投していたのに、無死満塁の好機に、併殺をくらい敗退。今でもその時の悔しさが離れないというらしい。飛球を捕球するのは、すごく上手かったが、ゴロさばきはどうも……だった。



4番 キャッチャー
岩本護美
右投、右打

いかつい顔が印象的だった。対戦チームはビビっていたことだろう。捕手なのでマスクを付けている時間が多かったのが、我々には幸いした。ミートにやや難があったが、打球の強さと飛球の大きさはすばらしいものだった。



1番 ショートストップ
伊藤秀一
右投、右打

きゃしゃな体だったが、腰の回転を使い、ボールを遠くに運ぶ技術を持っていた。外野手の上を越すよりは、その間を抜く長打が光っていた。



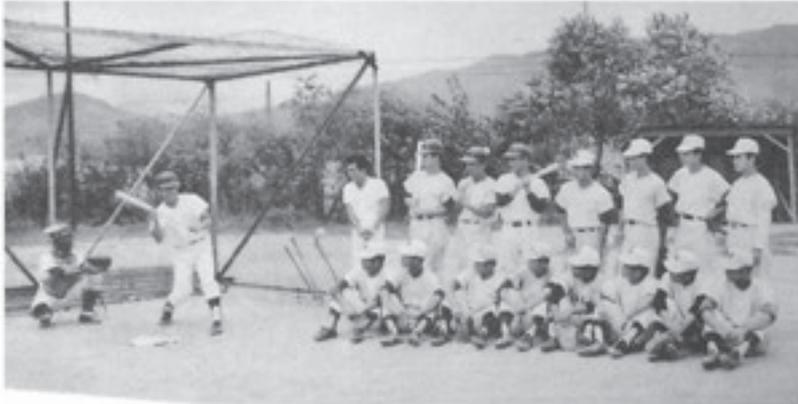
8番 セカンド
永田雅雄
右投、右打

バイクが好きで、当時としては高値の250ccを乗り回し、いつも練習をさぼっては先輩にたたかわれていた。ジョークをよく言っていたが、そのくせ練習ではキリッとしていて超マジメだった。





S41 1966 年卒業



投手	村上 恵一
左翼手	安川 明夫
捕手	川瀬 克志
三塁手	的野 福實

※順不同



昭和39年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第35回大会	0 - 10 vs 南福岡工
昭和40年 春	九州地区大会福岡南部予選	第36回大会	2 - 5 vs 香 椎
昭和40年 夏	全国大会福岡南部予選	第47回大会	7 - 6 vs 水産高校
			2 - 3 vs 古 賀

4人集まれば 今でも高校球児

(平成11年7月3日撮影)



安川・的野・村上・川瀬 (筑紫中央高校正門前で全員再会)



村上 恵一 (主将) 投手

日体大卒業後国家公務員に就職したが、長男で転勤を嫌い地元、大野城市の市議会議員に出馬し、今年選挙で通算6期18年母校の地元発展に尽力している。5期目の時は副議長の重責を果たした。息子2人は揃って日体大を卒業、現在は県内の公立高校野球部の監督として夏の甲子園を目指している。



安川 明夫 左翼手

博多織り会社の後継者として博多の伝統工芸を守り、発展のために活躍中、博多織りのお土産には是非ご用命ください。



的野 福實 三塁手

鉄壁の守備を誇った彼らしく福岡県民の生命と財産を守る福岡県警察マンとして、現在は和白派出所に勤務中。当地にお出かけの時はお立寄り下さい。



川瀬 克志 捕手

村上投手の女房役として本塁を死守した男。大変強い男だが現在は会社営業マンとして自慢のチームワークと根性を発揮してこの不況期の中を活躍中。早々と孫が誕生し、益々張り切ってサラリーマン中です。



s42¹⁹⁶⁷年卒業



遊撃手	村田秀三
中堅手	今林勝英
捕手	鹿野正治
三塁手	田辺博司
二塁手	酒井信男
一塁手	岡部一利 (永眠)
右翼手	鷺海量雅

※順不同



昭和40年 秋九州地区大会福岡南部予選	第37回大会	12 - 2 vs 福岡中央
		2 - 3 vs 博多
昭和41年 春九州地区大会福岡南部予選	第38回大会	17 - 5 vs 泰星
		1 - 3 vs 博多工
昭和41年 夏全国大会福岡南部予選	第48回大会	3 - 1 vs 九州
		1 - 5 vs 大濠



過去に戻れる喜び！

今林勝英

諸先輩氏、同級生や後輩諸君の記憶を辿るため、神に祈る思いで自宅のダンボール箱を開いたのは大学で野球を終了して、実に27～8年ぶりでした。同窓会その他での資料調達では数年に一度納戸に入りますが、野球部関係の資料に手を触れるのは実に久しぶりで胸が高鳴りました。箱の中身を確認していくうちに、同窓会とはまた違った別世界をもっていた喜びが体中に燃え出しました。『ありがたい！』体は衰えても現在の精神力を養って頂いたのは、あの腹いせで殴る先輩、このマイペースな先輩、そして愛のムチ浪花節先輩、本当に懐かしく先輩を思い出させてくれました。同級生では、何をいっても

怒らずお人好しのがんばりやピッチャー「天国の岡部君」いずれまた天国でも筑紫中央野球部と一緒に野球をやろう。ここ一番の根性をもち野球以外でも活躍した主将のショート村田君。野球の理論と分析に大変明朗なのに何故か2回もスライディングで骨折した美男子のサード田辺君。バント守備は最高と評判だった、がに股のセカンド酒井君。肩も強いし人気もあったが何故か人に背を向けるキャッチャー鹿野君。最後になりましたが調子にのったら「いけいけ」のいつも真っ黒の笑顔が懐かしい鷺海君。全ての思い出に感謝したい。また会えばすぐ元の高校野球選手になるでしょう。私事ですが高校時代の3年間「野球は人生道」として鍛えて頂き、深く感謝しております。お陰さまで箱を開いたその日は一日中笑顔の中年高校性でした。

(株)今林鉄工所



S44¹⁹⁶⁹年卒業



左翼手	久永正範
三壘手	小松孝行
二壘手	北橋正広
中堅手	今村光秀
左翼手	中野高幸
捕手	井上芳博
遊撃手	白壁秀敏 (永眠)
一壘手	宮原勝美

※順不同



昭和42年 秋 九州地区大会福岡南部予選 第41回大会 0 - 4 vs 福岡第一

昭和43年 春 九州地区大会福岡南部予選 第42回大会 2 - 1 vs 宗 像

0 - 1 vs 大 濠

昭和43年 夏 全国大会福岡南部予選 第50回大会 0 - 9 vs 南 筑





s45 1970 年卒業



投手	平山啓治
一塁手	伊藤徳明
二塁手	北崎恭則
左翼手	小館克仁
三塁手	堺均
捕手	弓削裕正

※順不同



昭和43年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第43回大会	3 - 0	vs 糸島
			5 - 0	vs 九州産業
			5 - 2	vs 水産
		準々決勝	1 - 5	vs 三池工

昭和44年 春	九州地区大会福岡南部予選	第44回大会	6 - 3	vs 浮羽工
			3 - 2	vs 柳川商
			8 - 1	vs 三池農
		準々決勝	3 - 5	vs 大牟田

昭和44年 夏	全国大会福岡南部予選	第51回大会	3 - 0	vs 東福岡
			1 - 0	vs 南筑工
			4 - 3	vs 八女工
		県大会	2 - 1	vs 九州工
		準々決勝	0 - 9	vs 飯塚商



「野球との出会い」

北崎 恭 則

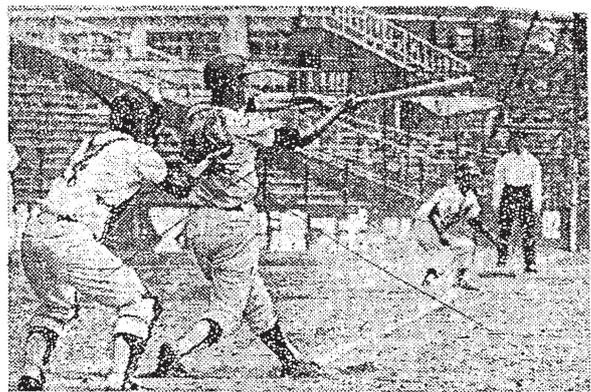
昭和45年卒の北崎です。私は、幼い頃から野球が好きで、いつも夕方まで泥んこになって、よく母に叱られたものです。家族が陸上一家で、足が早く筑紫郡では、中学までは有名だったかも？その私が高校野球に憧れ、入部したのが2年の夏、入部の時は、反対され家出も「2日間」した。苦しい、辛い練習のお陰で大学、社会人と野球が生き、今でも、野球を楽しんでいます。

現在47歳、3年前に独立し、今では社長と呼ばれていますが、これも野球と出会い、いろいろな方々と出会い、教えられ、自分がしっかりと考えを持って、プラス思考で明るく行動できる人間になれたからだと思います。

「たった一回しかない人生、たった一人しかない自分の人生」を、どう楽しく生き活きと心豊かに、生きられるかが、人間として一番大切だと思います。野球と言う、スポーツに出会えた事に、感謝！！

(有)ワイ・ケイ・ジー代表)

八工一〇〇二〇〇〇〇〇一〇〇
 筑中央一〇〇一〇〇〇一〇〇一
 (延長10回) 4 3
 伊藤が殊勲の三塁打
 硬直一回一死後、筑中央は平
 山の中前安打についで伊藤が左翼
 フォンスに抜ける両打でスコ
 ーを伸ばした。一塁は伊藤が北陸の
 右中間三塁打と高剛の犠飛で1点
 を先行すると、三回、八女は三番
 石橋が右翼席へ2点本塁打して
 逆転した。四回には筑紫が3連続



【福岡工業一福島】七回表福島一死二、三塁の好機に藤島、右前タイムリーの同点打をたたき三連敗部、捕手松水(平和台)

6	遊撃手	内山田慶弘
5	三塁手	北崎恭則
4	二塁手	伊藤徳明
3	一塁手	弓削裕正
2	投手	平山啓治
1	監督	村上恵一

筑紫中央高校

四球で満塁とし、筑紫のスライバ
 で同点とした。
 その後、八女が押し寄せて筑
 紫を追い、八回右翼席の右中間一
 塁打で1点をあげ、試合を決めた
 かも思われたが、その裏、筑紫は
 四球で出塁の福島が犠飛で二
 塁、筑紫の安打で一、三塁とし、
 内山田の三塁ゴロで再び同点に
 した。九回表の無死一塁は強攻が
 突如に終わったが、十回に三、四
 番の安打で筑紫は最大大会出場を決
 めた。
 (20日、延命操)



s46 ¹⁹⁷¹年卒業



一 壘 手	武 末	巨
捕 手	渡 辺	利 勝
投 手	内山田	慶 弘
左 翼 手	田 中	博

※順不同



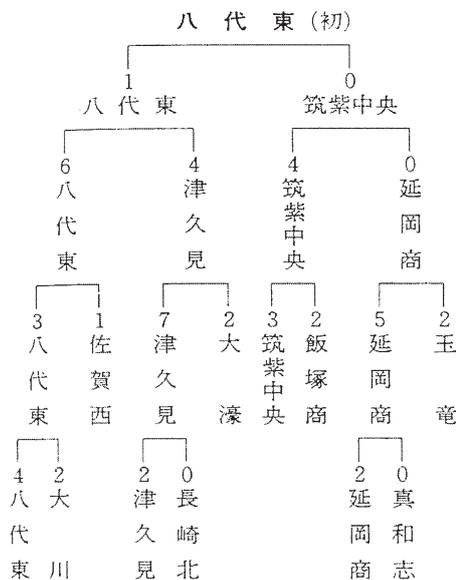
昭和44年 秋 九州地区大会福岡南部予選	第45回大会	7 - 6	vs	福 岡
		3 - 2	vs	博 多 商
		1 - 0	vs	三 池 工
	準決勝	6 - 11	vs	大 濠
	3位決定戦	2 - 0	vs	三 池
		3 - 2	vs	飯 塚 商
		4 - 0	vs	延 岡 商
	決勝	0 - 1	vs	八 代 東

九州大会 (平和台)

昭和45年 春 選抜高校野球 (甲子園)	第42回大会	1 - 6	vs	堀 越 高
昭和45年 春 九州大会	第46回大会	0 - 1	vs	海 星
昭和45年 夏 全国大会福岡南部予選	第52回大会	2 - 0	vs	九州産業
		2 - 1	vs	浮 羽
		5 - 0	vs	山 門
	県 大 会	2 - 1	vs	嘉 穂 尾
		1 - 0	vs	折 尾
	準々決勝	3 - 4	vs	博 多 工

第45回九州大会

11月14日~17日・23日
(福岡平和台)

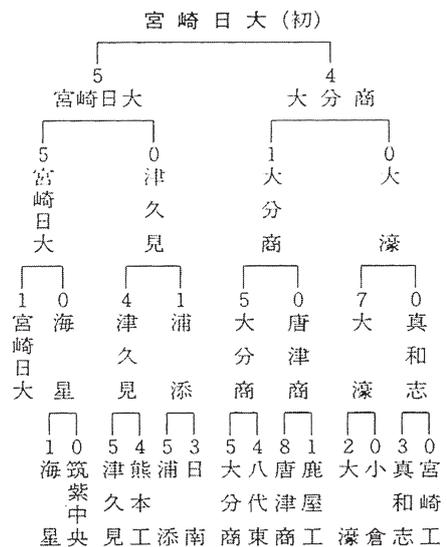


【1 回 戦】

飯塚商、筑紫中央、大濠 (不戦勝)

第46回九州大会

5月2日・4日・5日・9日~12日
(宮崎県営・高鍋・日南天福)





s47 1972 年卒業



昭和45年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第47回大会	9 - 8 vs 福岡第一
			1 - 2 vs 筑紫工
昭和46年 春	九州地区大会福岡南部予選	第48回大会	6 - 9 vs 東福岡
昭和46年 夏	全国大会福岡南部予選	第53回大会	8 - 0 vs 三 瀨
			8 - 0 vs 福岡商
			4 - 7 vs 博多工

派手さはないが攻守に堅実、唯一の向こう傷は2年生当時、夏の準決勝、両翼100mの大谷球場でサヨナラトンネルランニングホームランか、然も責められるべきはあの無反省男センターの高田のバックアップミスである。

監督との険悪な関係で衝突こそなかったがチームメイトをハラハラさせていた。多分にこれはあの知る人ぞ知る、バット殴打未遂事件の流れか？

剣道部出身で腕節が強くツポにはまれば長打も期待できたが…多くを語るまい。

守るポジションがなく(失礼)高2の夏に唐突にピッチャーに指名され更にエースになるというシンデレラボーイ。平均レベルの高校生なら十分に通用するまでに成長したが惜しむらくは経験不足か。

小柄で俊敏でそれなりのセールスポイントはあったが、2年間もレギュラーの座にありながら彼が試合でヒットを打ったのを誰も記憶していないと言う。スコアブックが手元にないのが残念だ。

野球のルールを知らなくてもレギュラーに成れるという新分野を開拓した選手で未経験者にも希望を与えた事である。その後彼がルールを理解したという話は聞いていないが。

唯一の左投、左打ちであったが今一つ生かしきれず監督の「ハナキレ」と言う意味不明の罵声だけが記憶に甦る彼が何故、野球部の門を叩いたのか未だその謎は深まるばかりだ。

イージーゴロよりもダイビングキャッチを得意とするのかと疑いたくもなる様な思い切りの良い守備ではあったが……。こういう選手はどう評価すればよいのか。

陸上部出身という事で入部して暫くは砲丸投げの癖が抜けず未だにそのイメージが払拭されない。第一印象の恐ろしさを知る。

二 塁 手	瀬 利 信 行
捕 手	高 田 信 彦
セン ー タ ー	斉 藤 浩 司
投 手	藤 渡 雄 志 郎
遊 撃 手	内 川 孝
一 塁 手	松 尾 雅 文
レ フ ト	平 島 聖 治
ラ イ ト	橋 辺 三 紀 雄 (旧姓 春野)
外 野 手	武 末 義 則
三 塁 手	古 賀 信 行



s48 1973 年卒業

入佐 一博 (投手)

一番下手で、渡辺先生の叱られ役を努めていた。野球センスに乏しく、ほかにやれるポジションがないのでピッチャーをさせられていた。

中村 健二 (中堅手)

キャプテンのよき補佐役として明るく下級生にも慕われていて、3番打者としてチャンスに強いバッティングでチームを盛り上げ、外野手としても抜群のセンスを発揮して長野と共にチームを引っ張っていた。

長野 徹郎 (捕手)

キャプテンとして野球部全体をよく纏め、大人しそうな外見に似ずチームの要キャッチャーで4番打者としての重責を十二分に果たしていた。

木庭 英二 (左翼手) (永眠)

4人の中で一番控えめで割合無口な方だったが、快速の一番打者として相手の脅威となっていた。また、レフトとしての守備も華麗で、足を活かした守備範囲の広さを誇っていた。

※順不同



高知県
南予野球
選手権

— 4日目 —

筑紫中央が猛打

立花(商)の本塁打むなし

点	3	1	0	2	0	1	1	0	3	0	1
安打	2	3	0	2	2	1	1	1	1	0	1
打数	3	4	3	4	4	2	2	2	1	1	3
併打											1
犠打											1
失点											1
盗塁											1
犠牲打											1
立花											1
入野											1
野											1
球	4	4	1	0	10	29	14	12			
振球	2	6	1	5	2	6					
本塁打											1
長野											1
野											1
野											1
野											1
野											1

夏の雲は晴れ 甲子園を目指す54校

<8>

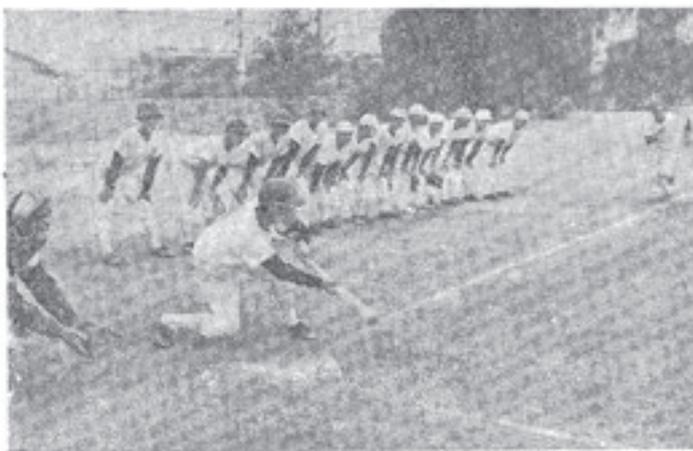
ソツがなくチャンスに強い

筑紫中央

打率四割の中村、左右に打分け
る木庭、しぶとい天野などを平均してよく打つ。短打法をとっているため、ソツがなくチャンスに強い。バント・エンドラン、スクイズなどなにもこなす。しかし、

投手が試合巧者だと、実力が出しきれず、かたくなることが多い。入佐は下手投げで制球力もある。サインプレーで二塁の走者をけん制で刺すのがうまい。長野は肩がよく、盗塁を許さない。外野陣は緊張感に欠け、ハラハラさせるところは多い。

ことしはグラウンドが整備され、練習時間が多くなった。いままでは排水が悪く雨が降ると三日



入佐・中村・長野・木庭

スクイズの練習をする筑紫中央チーム



s50¹⁹⁷⁵年卒業

部員九人のチームで



大廣 申一
(主将)

昭和48年、夏の全国大会予選が終わり2年・1年生主体の新チームを結成して新たなスタートをきる訳ですが、当時、渡辺正監督のもと私達2年生が6人・1年生が3人全員で9人の部員でのスタートでした。試合ができる最低の部員数でしたが、全員がレギュラーであり私達は切羽詰まった感じも無く気楽で楽しく、練習に試合にと野球活動を送っていた様に思います。そんな訳ですから戦績の方は声を大にして言える様なものではありませんでしたが。

翌年、新入部員が入部して来ましたが、それでも全部員数14・5人の弱小チームには変わりなく、練習・公式試合でも負け数が上回る状態でした。この様な私達を、渡辺監督は根気強く、時に厳しく、また優しくご指導頂いた事々が、今は懐かしく思い出されます。

最後になりますが、50年史編纂に関わる皆様のご苦勞に感謝致しますとともに、ご成功を心よりお祈り申し上げます。
(UCC上島珈琲(株))



昭和48年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第53回大会
	1 - 3	vs 福岡第一
昭和49年 春	九州地区大会福岡南部予選	第54回大会
	6 - 1	vs 九州産業
	3 - 5	vs 博多工
昭和48年 夏	全国大会福岡南部予選	第56回大会
	4 - 6	vs 宗 像

捕 手 大 廣 申 一

キャッチャー、キャプテンで4番。文字通りチームの中心選手で、みんなをよく引張っていった。人望があり責任感が強く、練習等で渡邊カントク不在の時は「軽くやって早くあがるうぜ」という雰囲気になりがちだったがそんなときは必ず彼のきびしい叱咤があった。普段は穏やかで、優しい性格であったが、野球部の活動に関しては、常に前向きで厳しい態度だったのが印象的。

遊 撃 手 前 田 展 宏

打順1番、チーム一の俊足で、盗塁成功率9割を超える。

右 翼 手 有 吉 周 策

打順3番、渡辺監督仕込みの変則打法でチャンスに強く、芸術家肌。

投 手 龍 田 修 二

打順5番、コントロール主体のピッチングが持ち味。女子マネージャーのあこがれの的。

一 塁 手 富 永 輝 夫

打順2番、小技が冴えるスマートな奴。チーム内では龍田とならんでモテていたのではないかな。

左 翼 手 樋 口 清 隆

打順6～7番、当たれば飛ぶパワーの持ち主で純情な面を持つ憎めない奴でした。

※順不同



s51 1976 年卒業



三人だけの夏

矢崎 信之 (旧姓 住永)

今でもふと思い出すのは、あの暑い夏の日々…。私達昭和48年の新入部員は、入部も少なく早く辞める者もいて、5月の頃には3人だけになってしまっていた。毎日朝早く部室に行き、1年生の仕事である部室の掃除に始まり用具の手入れ、ボール磨き、そしてグラウンド整備、とても3人では終わるものではない。授業の合間や昼休みも練習の準備に明け暮れていた。授業中は居眠りばかり、よく先生に叱られましたが、事情を知る先生は見ても見ぬ振りをしてくれていた。

最初の夏休み、早朝の学校には3人以外人影もなく、ただセミの声だけが無人のグラウンドに響いていた。

「上級生が来る前に、グラウンド整備を終わらせねば」と3人は黙々と固い土を相手にガリ掛けやトンボ掛けに汗を流した。太陽はジリジリと辺り一面を焦がし、練習が進むにつれ、吹き出す汗は乾ききった地面に吸い込まれ、それは帽子やユニフォームに白い粉を作った。

夕暮れ、学校の帰り道、みんなで飲んだコーラの味は格別だった。

3年生が辞め、大広主将ら2年生は6人、合わせても9人ギリギリの野球部は試合でも大変だった。他の部の部員に臨時でベンチに入ってもらったり、相手投手にデッドボールでも当てられ様ものなら、渡辺先生が大声で言ったものだった。「ウチは9人しかおらん、当てんでくれヨ!!」

その次の年も新入部員は何故か6人、又してもピッタリ9人だけの野球部の苦戦は続き、時には辞めてしまいたいと思う事もあった。しかし、こういう私をいつも引っ張ってくれたのは、誰よりも野球を愛していたガンバリ屋の藤渡君、負けず嫌いでガッツいっぱい永井君だった。

その藤渡君も今は亡き人。天国でも野球をやり続けていることだろう。

今でも夏の高校野球が始まる頃、あの暑い夏を思い出す。

(矢崎冷機製作所)

- 中堅手 永井 確
- 一塁手 矢崎 信之 (旧姓 住永)
- 二塁手 藤渡 登志郎 (永眠)
- マネージャー 土橋 美佐子
- マネージャー 松井 司 (旧姓 河内)

※順不同



高校野球県南予選



公式戦

昭和49年 秋
九州地区大会福岡南部予選 第55回大会 2 - 3 vs 大 濠

昭和50年 春
九州地区大会福岡南部予選 第56回大会 12 - 0 vs 朝 羽
2 - 4 vs 伝 習 館

昭和50年 夏
全国大会福岡南部予選 第57回大会 10 - 2 vs 西日本短大付
7 - 0 vs 大 川 工
4 - 3 vs 八 女
全国大会福岡県大会 5 - 4 vs 博 多 工
2 - 6 vs 小 倉 南

◎………部員の入部は、

筑紫中央の活躍に期待
強豪が目白押し
甲子園をめざしきよもつボール



s53¹⁹⁷⁸年卒業



三塁手	安永	豊
遊撃手	藤井	徳浩
一塁手	中嶋	光健
左翼手	沢村	真左夫
二塁手	松崎	浩治
捕手	清水	勝喜
投手	造士	聖一



昭和51年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第59回大会	5 - 2	vs 久留米工大付
			1 - 2	vs 筑紫工
昭和52年 春	九州地区大会福岡南部予選	第60回大会	10 - 3	vs 大牟田南
			2 - 6	vs 久留米商
昭和52年 夏	全国大会福岡南部予選	第59回大会	1 - 0	vs 博多工
			12 - 1	vs 三池農
			9 - 5	vs 朝倉
			3 - 4	vs 福岡工

不動の内野手6人!

53年卒業の6人は、後輩の3人の力をかりてベストナインを結成?不動の内野手6人は、全員がオールラウンドプレイヤー?で、時折守備位置を変えては試合にでていました。「なんでもこい!」の6人でしたよ?

右投げ左打ち、盗塁はおてのもの。小技のきいたショートストップ!

藤井徳浩

松崎浩治

ぎこちない動きの持ち主。グラブさばきは意表をつくうまさ! Good!

安永 豊

真面目を絵にかいたようなキャプテン!我がままな不動の6人のまとめやう!

中嶋光健

手足の長さを生かした、鋭い眼光の4番打者!サイドスローのピッチャーとしても活躍!

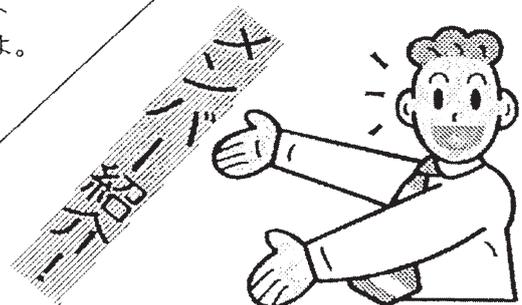
造士聖一

我がエースの造士くん!口を開けて投げる余裕は見逃せません!ストレートはなかなかのもんでしたよ。

打順	名前
1	藤井徳浩
2	松崎浩治
3	安永 豊
4	中嶋光健
5	造士聖一
6	清水勝喜

鋭い眼光とバッターを惑わすおしゃべりは天下一品!もいちど見たい強肩!

清水勝喜





s54¹⁹⁷⁹年卒業



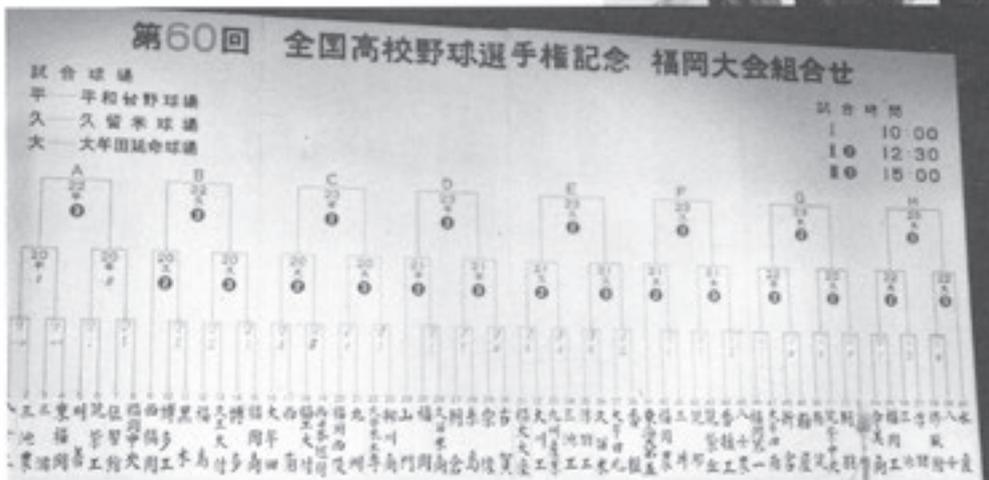
中堅手	永川良文
遊撃手	天野敏哉
三塁手	高山透
右翼手	大石修

※順不同



昭和52年 秋 九州地区大会福岡南部予選 第61回大会 7 - 0 vs 久留米高専
 7 - 5 vs 新 宮
 0 - 13 vs 伝 習 館

昭和53年 春 九州地区大会福岡南部予選 第62回大会 0 - 2 vs 福 岡 工
 昭和53年 夏 全国大会福岡南部予選 第60回大会 2 - 1 vs 南 筑 川
 0 - 7 vs 大 川





s55¹⁹⁸⁰年卒業

選手の紹介

※順不同

投 松尾幸一

1年時よりエース、豪快なピッチングで女の子にモテモテ。プロのスカウトが見学に来るほどの逸材。肩を壊さなければ、筑紫中央初のプロ選手だったかも。

捕 森山博志

不動の四番でキャプテン。強肩、打球の速さは超高校級。現在は、母校・野球部の監督。

三 古賀洋一

ファイトあるプレーはまさにサード向き。トップバッターとしても、塁に出ては高確率で盗塁を決めていた。

遊 長沢和幸

内野の要であり、俊足の好選手。腰の入ったバッティングは、驚くほどの飛距離も出た。

左 村上茂隆

中学時代は野球未経験者。こつこつと努力しレギュラー獲得。後輩に人望があり、良き先輩であった。

中 三谷信也

強肩、好打のムードメーカー。素質は大学時に花開く。モノマネ得意な芸達者、みんなの人気者であった。

右 淵上 浩

セーフティーバントの鬼。ヒットのほとんどがそれ。2アウト満塁でのセーフティーバントは今でも語り草。

マネ 鐘ヶ江 文子

わがままな選手達を支えた功労者。安らかな雰囲気は練習後の選手の疲れを癒してくれた。



昭和53年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第63回大会	4 - 2	vs 香椎工
			0 - 5	vs 福岡工
昭和54年 春	九州地区大会福岡南部予選	第64回大会	5 - 2	vs 三池農
			0 - 8	vs 大川工
昭和54年 夏	全国大会福岡南部予選	第61回大会	6 - 8	vs 明善



s56 1981 年卒業



一 塁 手	山 口 輝 昭
三 塁 手	執 行 淳 一
左 翼 手	伊 藤 幸 一
マネージャー	黒 田 典 子 (旧姓 中村)
投 手	元 樹 伸 久
二 塁 手	小 倉 徳 浩

※順不同



筑紫中央

主将の山口を中心とし、こぢんまりとしたチーム。投手力は左腕で速球、カーブを武器とする。2割9分、8勝10敗1分け。打率は

元木と、右投げの伊藤。両投手とも制球に波があるのが心配。打撃は一壘伊藤、四番山口は好調。「確実なバント、走塁戦法で相手チームをかき回し、全高野球で臨む」(小山一広監督の話)。打率

夫広久二昭浩一文一治人一之詞郎祐彦大正一仲寛輝徳淳博幸興勇浩裕一洋徳泰
野山木岡口倉行代藤藤田藤橋浜本富田藤
養小元長山小執田伊西内後江白山納池松
長巻323323222211111111
部監督捕一二三遊左中右補補補補補補補

中 点	00011000125
安打	1102100016
打点	43433433330
打数	433353444119
盗塁	31
失点	7017
盗塁	5451009
併殺	0
犠打	0
犠飛	0
三振	10
四球	0
エラー	0
凡退	10
合計	45

福工大付逆転勝ち

▽一回戦(平和台球場)

福工大付 0310100000
筑紫中央 30000000010-0



昭和54年 秋
九州地区大会福岡南部予選 第65回大会
4 - 9 vs 久留米高専

昭和55年 春
九州地区大会福岡南部予選 第66回大会
5 - 8 vs 朝 倉

昭和55年 夏
全国大会福岡南部予選 第62回大会
4 - 5 vs 福工大付



体育祭での野球部紹介



s57 1982 年卒業

《57年度・福岡四大芸部予選メンバー》

守備	打順	名前
中堅手	1	西藤 興治
外野手	9	後藤 浩一
投手	5	内田 勇人
遊撃手	3	田代 博文

※順不同

公式戦成績

昭和55年秋	九州高校野球県南大会	1回戦	4-3	vs 久留米高専
		2回戦	1-6	vs 伝習館
昭和56年春	九州高校野球県南大会	1回戦	5-8	vs 大川工
昭和56年夏	全国高校野球福岡大会南部予選	1回戦	9-3	vs 古賀
		2回戦	4-5	vs 伝習館



筑紫中央、終回到猛攻

古賀打線、無念の11残塁

筑紫中央0-102000000
古賀010000000

▽三塁打 伊藤(古)▽二塁打 西藤、小田 國武、白旗(筑)
八回まで追いつかれたのシーソーゲームを演じた。延長戦が、と思われたが、筑紫中央が九回裏に安打を集中、古賀を下した。3対3のまま迎えた九回裏、筑紫中央



筑紫中央



修猷郎、

九州、新工も2回戦へ



自球の譜

背番号「10」の激励



試合後、最後の試合に入る筑紫中央の3年生



筑紫中央の自派投手

痛恨の落球





s58¹⁹⁸³年卒業



公式戦成績

昭和56年秋	九州高校野球県南大会	1回戦	0-4	vs 九産大附属九州高校
昭和57年春	九州高校野球県南大会	1回戦	10-0	vs 香椎高校
	#	2回戦	8-9	vs 伝習館高校
	春季福岡市長杯争奪高校野球大会	1回戦	12-5	vs 福岡農業高校
	#	2回戦	3-5	vs 九産大附属九州産業高校
昭和57年夏	全国高校野球福岡大会南部予選	1回戦	1-0	vs 香椎高校
	#	2回戦	7-11	vs 福岡中央高校

筑紫中央 大野城市下大利 357 〒816 (002) 581-1470

部長 小山一廣 監督 牛嶋洋二
副部長 田中義明

1	財津隆浩	③	172	60
2	山田泰史	③	176	68
3	国武公一	③	178	59
4	松浦良一	③	169	61
5	白濱司			



《57年度・福岡大会南部予選メンバー》

守備	打順	名前
投手	7	財津 隆浩
捕手	4	山田 泰史
一塁手	5	国武 公一
二塁手	9	松浦 良一
三塁手	6	山本英一郎
遊撃手	8	白浜 司
左翼手	1	武藤 啓介
中堅手	3	小田 一人
右翼手	2	納富 洋祐
内野手		森口 宏 (主将)
外野手		鐘ヶ江 聖
マネージャー		立木由美子 (旧姓:大部)

部長 小山 一廣
監督 牛嶋 洋二

※順不同

① 投 財津隆浩

エラーをすると冷たい眼差しで見られていたのを思い出す。夏の大会では皆に足の故障を隠して出場。責任感が強い色男で、よくもてていたようだ。

② 捕 山田泰史

プロ野球選手であった父を持ち、野球センスはチーム随一。強肩で頼りになる四番打者。大学進学後も野球を続け、そこそこまで。練習嫌いでなかったらプロも…。

③ 一 国武公一

細身でありながら、そのバットコントロールと長打力で平均打率四割、中央クリーンナップの一角。チーム一の長身で、守りでもよく助けられた。

④ 二 松浦良一

中央唯一の左打者。内野の要二塁を無難にこなし、小技に長けていた。努力家で、早出&居残りのティーパーティングが夏に開花した。優しい性格の持ち主であった。

⑤ 三 山本英一郎

この当時ぐらいから世間でいわれ始めた科学トレーニングや練習方法を彼の立案から中央野球部に取り入れた。中央のホットコーナーを守る、熱いがクールな男だった。

⑥ 遊 白浜 司

投手兼遊撃手。守りの要、遊撃手を務めるなか、投手としても先発・リリーフと活躍。パワー不足の感があったが、バランスのとれた選手だった。

⑦ 左 武藤啓介

当時の広島カープ高橋を思わせる、俊足でパワーのある一番打者。変化球に脆さを感じたが、塁に出たら思いきりのいい盗塁で攻めていたのを思い出す。

⑧ 中 小田一人

この人を語るならパワーの一言。東海大五戦でバックスクリーン右に低空ライナーの一発は凄かった。守備範囲も広く、頼りになる3番・中堅手。

⑨ 右 納富洋祐

ド根性野球を好む?お調子者。バント・エンドランと器用な高打率を残した2番打者。肩は強いものがあったが、守りは不安が付きまとった。

⑩ 内 森口 宏

彼が中央の主将。自分のことより他の選手への気遣いが多いようであった。現在連絡先がわからなくなっているが、会って酒でも飲みたいたものだ。

⑪ 外 鐘ヶ江 聖

二年の夏からの球友である。明善高校でのレフト大ホームラン(120m級)・東福岡戦2ホーマー(100~120m級)と、小田に並ぶパワーの持ち主。現在の松井(巨人)とダブルのは私だけだろうか…

⑫ マネ 大部 由美子

遠慮なくズケズケ言う男達の中の紅一点。みんなのお世話をしてくれたありがたい存在。選手一人ひとりの体調などを「女のカン」の様なものでよく見抜いていた。



s59¹⁹⁸⁴年卒業



遊撃手 成田康文
 (旧姓 榎木)
 中堅手 四枝浩和
 左翼手 江渕治彦

※順不同



昭和57年 秋 九州地区大会福岡南部予選 第71回大会 3 - 11 vs 糸 島

昭和58年 春 九州地区大会福岡南部予選 第72回大会 4 - 5 vs 大 川

昭和58年 夏 全国大会福岡南部予選 第65回大会 1 - 9 vs 武 蔵 台



公式戦一勝

江 渕 治 彦

今回記念誌を発刊するという連絡を頂いた時、私は筑紫中央の野球部員であったこと

を約15年振りに思い出した気がします。

新入部員として10数名が入部したが、当時の3年生が引退される頃には約半数まで部員が減り、最終的には3名になっておりました。あと一人辞めたら全員退部しようという話をしていた事が今となれば非常に懐かしく思い出されます。結局辞める勇気が無かったのか、野球が好きで仕様がなかったのか当時の記憶は定かではありませんが、何とか3年間続けることが出来ました。

それでは各年代毎の印象深い出来事を振り返ってみたいと思います。

1年生時代

何といっても3人で行うグラウンド整備（特にガリかけは、やってもやっても終わらずに手を抜くテクニックを身に付けていた気がします。）が印象として残ってます。

2年生時代

先ずは新入部員集め。集まらない事には試合に出られないという必死な気持ちがありました。

次に公式戦唯一の勝利。俗に言う“天下”を取った後

の最初の公式戦が筑紫中央のグラウンドで行われ、同級生3人の大活躍（本当です）で勝利を収めました。能くなく考えてみると後にも先にも唯一の公式戦勝利でした。

それと忘れておりましたが、授業が終わって部室までのダッシュが無くなった時は、部室までの距離が長く感じられた気がします。

3年生時代

学校側の配慮か戦略かは定かではありませんが、3人が同じクラスになっておりました。

気が付くと3人とも技術・体力ともにレベルアップしており、継続してきた成果が確実に現れてきた矢先に故障者が発生し、夏の大会（引退試合）は3人のうち2人が部分的にしか出場できず、練習試合で一度も負けたこともない相手にコールド負けという屈辱を味わいました。正直な話この3年間は何だったのだろうかと考えさせられた気がします。

どちらかという楽しい思い出が少ないのは残念ですが、今となればそれらも全て良い思い出です。折角このような企画が発案されOBとして完成を楽しみにしております。役員の方々の御苦勞に感謝しつつ終わらせて頂きます。

(総合管理システム(株))



s60¹⁹⁸⁵年卒業



昭和58年 秋
九州地区大会福岡南部予選 第73回大会
0 - 7 vs 久留米商

昭和59年 春
九州地区大会福岡南部予選 第74回大会
4 - 2 vs 宗 像
8 - 7 vs 博 多
1 - 13 vs 大牟田

昭和59年 夏
全国大会福岡南部予選 第66回大会
3 - 5 vs 東海第五

最終戦メンバー、スコア

順	氏 名	守備	年
1	広田 繁孝	遊	3
2	児玉	二	2
3	中尾 秀治	左	3
4	蓑輪 雅裕	右	3
5	後藤 修至	捕	3
6	谷 克成	一	3
7	荒木 勝也	中	3
8	橋口 親一	三	2
9	中村 聡	投	3

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
東海大五	0	0	0	0	0	1	1	1	2	5
筑紫中央	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3

初戦でシード校の東海第五と対戦。6回に逆転をし、8回に追いつかれても負ける気はしなかった。9回は2死から2ランホームランで逆転されたが、このホームランはネット最上部に当たって入る非常にアンラッキーなもので、心に突き刺さる数センチとなった。

右翼手 蓑輪 雅 裕
投 手 中 村 聡
中堅手 荒 木 勝 也
外野手 木 村 昌 二
二塁手 田 中 典 夫
捕 手 後 藤 修 至
遊撃手 広 田 繁 孝
一塁手 谷 克 成
投 手 杉 本 勝 久
内野手 浜 辺 康 久
一塁手 仲 晋 介
二塁手 川 路 誠 治
左翼手 中 尾 秀 治
マネージャー 小 泉 清 子
(旧姓 讀井)

※順不同



川路二塁手・谷一塁手・川上マネージャー・豊増マネージャー



広田ショート・小泉マネージャー



s61 1986 年卒業



捕手	橋口	晋伊	智彦
投手	児玉	貴彦	彦彦
中堅手	松野	秀樹	樹彦
一塁手	安西	克彦	彦彦
左翼手	木村	慶太	太治
遊撃手	大塚	健治	治彦
二塁手	小川	弘樹	樹彦
右翼手	今村	勝尚	尚彦

※順不同

公式戦

昭和59年秋	九州地区大会福岡南部予選	第75回大会	8 - 4	VS	粕屋
			2 - 12	VS	東海第五
昭和59年 秋	秋季福岡市長杯争奪野球大会		4 - 1	VS	福岡農
			3 - 1	VS	福岡中央
			2 - 9	VS	糸島

昭和60年 春	九州地区大会福岡南部予選	第76回大会	10 - 0	VS	福岡商
			6 - 10	VS	修猷館
昭和60年 春	春季福岡市長杯争奪野球大会		3 - 0	VS	福岡工大付
			0 - 10	VS	筑紫工
昭和60年 夏	全国大会福岡南部予選	第67回大会	4 - 2	VS	粕屋
			1 - 3	VS	福岡



松野投手

児玉投手の投球フォーム

継投で得点守り抜く

「少ない得点を継投策で守り抜くのが戦法」と田中部長。白標手投げの松野は球速を変えて相手の打ち気をそぐが、好不振の波が大きいのをどう克服するか。一番を打ち、盗塁のこまい児玉が控え、勝負強い橋口ら中軸が並んで来たので、多彩な攻撃ができる。昨夏は初戦でシート被りに苦戦した。

筑紫中央

部長	田中	義明
監督	牛島	洋二
投手	野口	西川
捕手	小塚	大塚
一塁手	安西	克彦
二塁手	小川	弘樹
三塁手	今村	勝尚
遊撃手	大塚	健治
左翼手	木村	慶太
右翼手	橋口	晋伊
中堅手	松野	秀樹
外野手	児玉	貴彦



s 62 1987 年卒業



中堅手	真崎 浩一
投手	坂田 裕之
三塁手	首藤 雄一
遊撃手	富永 孝男
二塁手	中野 貞之
内野手	松岡 慎太郎
外野手	吉岡 幹登
マネージャー	川上 正美
マネージャー	豊増 一子

※順不同

公式戦

昭和60年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第77回大会	5 - 3	vs 南 筑
			2 - 6	vs 福 岡 商

昭和61年 春	九州地区大会福岡南部予選	第78回大会	0 - 3	vs 博 多 商
昭和61年 春	福岡市長杯		13 - 2	vs 福工大付高
昭和61年 夏	全国大会福岡南部予選	第68回大会	2 - 3	vs 久 留 米



牛嶋監督・田中部長



川上・豊増マネージャー

南部大会

久留米、悪送
球で先制2点

久留米 (久留米) 030100000
久留米 (久留米) 010010002
010000000

福岡が中前打、首脳陣が四球を出して、一塁の守備に悪送球、さらに悪送球の連発で先制。五回には連続四球の悪送球を、田中が盗塁の一打を逃がして、三塁をベースにバントした。三塁へ進塁、坂田が三塁をベースにバントした。三塁へ進塁、坂田が三塁をベースにバントした。

【久留米と筑紫中各9回、久留米が二死三塁、森(和)の右前打で二塁から百賀(敏)を走せつてアウト、川上監督



体育祭で野球部紹介



61.62.63卒全員写真





s63 1988 年卒業



昭和61年秋
九州地区大会福岡南部予選

第79回大会

7 - 0	VS	浮羽	工
9 - 0	VS	朝	羽
15 - 0	VS	三池	工
8 - 1	VS	糸柳	島川
1 - 8	VS	柳	川

準決勝

遊撃手	森田	英雄
三塁手	渡辺	順司
二塁手	園元	秀人
一塁手	高野	雄一郎
捕手	深田	克征
右翼手	藤田	秀行
左翼手	石貫	豊三郎
中堅手	隈本	英生
投手	古賀	祥一郎
左翼手	大山	清敬
左翼手	新倉	勝也
二塁手	牟田	恭司
マネージャー	吉富	直子 (旧姓 杉森)
マネージャー	荻山	美和 (旧姓 柳堂)

昭和62年春
九州地区大会福岡南部予選

第80回大会

9 - 4	VS	朝	羽
2 - 3	VS	久留米	工大付

※順不同

昭和62年夏
全国大会福岡南部予選

第69回大会

14 - 3	VS	八女	農
2 - 3	VS	福岡	

「まったくハンディがあるとは思いません」——筑紫中央の住吉正史監督は、対久留米戦で、渡辺順司君が二年生のシャープなバッティングを買って、八番、ライトの先発出場を命じた。三年生のレギュラーに代わる起用だった。

渡辺君は右目を失明している。二歳の時、母親の勤める博多織の工場で、母親がまっつと目を離したときに、ヘッドで親指をしゃぶっていた渡辺君を見た母親の同僚が、棒切れで指をはらいのけようとして誤って目を突いた、という。

筑紫中央2年 渡辺 順司君
負いながらも、渡辺君の運動神経は抜群。野球は小学校に上がる前から始めた。「練習でも試合でも、彼の後姿を見るだけで、そのフットワークがわかる」と住吉監督。器用さもまきり、どこかのポジションでも任せられるという。

右目失明のハンディ 見事克服、攻守に活躍



新チームの副主将に決まった渡辺君は、最後に新チームの主将と副主将を指名。渡辺君は副主将になった。「ほとんどの出場のために最後の試合に出られなかった先発のためにも、精いっぱい頑張ります」。目をタオルで押さえながら渡辺君はそう語っていた。

この日、渡辺君は監督の期待に十分応えた。二打席目には外角球を打ち返す流し打って左翼線への二塁打。さらにきわめつけは九回表の守備だった。得点は1点。久留米が1点リード。追加点を狙う久留米は二塁に走者を置いて渡辺君のいるライト前に快音を響かせた。二塁走者は二塁ベースを越えた。「得点はま

だ1点差。なんともなる。最後の攻撃は自分から打つ。絶対に刺してやる」。矢のような返球がキャッチャーめがけて一直線。執念の返球は間一髪、追加点を阻んだ。試合はしかし、1点差のまま惜敗。涙を流してうなだれた。

園元ランニング満塁ホームラン

△2回戦 0002090 314
△3回戦 0000003 314
△4回戦 (七回コールド)

筑紫中央 10002090 314
八女農 0000003 314

(筑) 古賀、高野、園元、深田
(八) 原、似吹、井上、原、中島
▽本塁打 園元(筑)、▽二塁打 田中、中島(八)

筑紫中央は、相手の守備の乱れと11安打、11盗塁で大量14点を奪い、圧勝した。筑紫中央は初回一死三塁から、三番高野が投前犠打で三走園元を迎え入れ先取点。六回には満塁から一番園元の走者一掃のランニング本塁打が飛び出すなど、打者12人の猛

目の不自由乗り越え

だが、「気にしなくてもあったが、踏めどまっただことありました。でも、僕にとって野球はせん」と明い精神力を鍛えることです。片目さえか返してきてい何なものない、そんな苦しい。昨秋か、アイドマンだ。福岡地区一年生大会では15打



筑紫中央の渡辺君と大田君、チームの副主将(二) 四強進出の原動力になった。年(二)つの入部したころは心配した時、事故で右目という田中義明部長は「ガッツがある。人かいはる球技いやた。小さな球を審判も率先してやる。二年になつたら主将をまかせられる選手不利と思いがちです」と渡辺君をたたえる。

福岡市博多区下月隈の自宅から七、八分十分かけて自転車で通学。勉強との両立に悩んで退部を考えた

筑紫中央高 渡辺 順司君(2年)



H元 1989 年卒業



中堅手	吉次則政
マネージャー	青山寛子 (旧姓 下川)
三塁手	瀧脇裕志

※順不同



昭和62年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第81回大会	1 - 8	vs 大川工
昭和63年 春	九州地区大会福岡南部予選	第82回大会	4 - 1	vs 博多工
			4 - 3	vs 三池工
			1 - 5	vs 筑紫丘
昭和63年 夏	全国大会福岡南部予選	第70回大会	8 - 6	vs 有明高専
			1 - 2	vs 香椎工



吉次則政



吉次則政



H2 1990 年卒業

二塁手	石井和男
遊撃手	鍋田稔
一塁手	田中真
内野手	西澤英治
左翼手	谷水城
三塁手	長崎剛
捕手	中嶋稔郎
外野手	吉田和広
投手	清水信也
右翼手	菊武直樹

※順不同



昭和63年 秋
九州地区大会福岡南部予選 第83回大会
0 - 2 vs 八女工

平成元年 春
九州地区大会福岡南部予選 第84回大会
7 - 14 vs 九州

平成元年 夏
全国大会福岡南部予選 第71回大会
4 - 8 vs 早良



谷、中嶋
西沢、鍋田、菊武
勝本、島添、石井、吉田



元年夏の大会、早良高 8-4 筑紫中央
(平和台) 敗戦後の顔
西沢、清水、谷、長崎、田中、鍋田、吉田、菊武、石井、中嶋



「筑紫中央―福岡」1回裏筑紫中央1死1三塁、渡辺の
スクイズはすたれ、三塁壘審國元(田中)探殺
|| 平和台





H3 1991 年卒業



● 島 添 貞 美 (主将 1番 ショート)

チーム一の負けず嫌いで、ガッツのある男。野球に注ぐ情熱と根性で、チームを纏めた努力の人。

● 武 藤 勝 喜 (副将 3番 ファースト)

強肩で頼りになるスラッガー、堅実なプレーと甘いマスクで女性にも人気があった。いつでも、主将を支えてくれる頼もしい存在。

● 井 上 淳 二 (5番 レフト)

最後の試合の前日に、バレーのクラスマッチで足を負傷し乍らも、最終回到代打でヒットを打つという、底力と意外性を持った男。

● 勝 木 俊 二 (2番 セカンド)

チーム1番の楽道家。要領が良く、力を抜く所と、真剣にやる所とうまくやっていたようだ。いつも、チームを盛り立てるハッスルマンであった。

● 陶 山 正 夫 (9番 ライト)

野球初心者ながらも、3年間続けた中央一のヒョウキン男。練習中に前歯を折り、今でも刺し歯。現在でもずば抜けた個性を活かし、劇団で頑張っているらしい。

● 平 野 智 子 (マネージャー)

1学年にマネージャー1名という中、男性部員を見捨てる事なく、励まし続けてくれた我らがヒロイン。今でもあの心優しい女性でいて欲しいものだ。

※順不同



平成元年 秋
九州地区大会福岡南部予選 第85回大会
8 - 1 vs 八女農
3 - 7 vs 糸 島

平成2年 春
九州地区大会福岡南部予選 第86回大会
9 - 5 vs 浮 羽

平成2年 夏
全国大会福岡南部予選 第72回大会
9 - 1 vs 柳 川
10 - 3 vs 朝 羽
2 - 3 vs 新 宮

筑紫中央
(大野城市)

筑紫中央 田原 野院 院 吉野須
業 業 業 業 業 業
三日学席学席春席学席学席学席学席学席長春平夜

223332332222221111信正
紀人盛一人美一介章夫明収史将也志亮崇泰
貴秀勝俊敬真淳泰憲正秀 寛貴進和和
本 藤本原添上村里山木永瀬久林田七川 瀬辺
松藤武勝浦島井今北陶荒日高大小牟井皆 長 長
投捕二三遊左中右補 // // // // // // 部長 監督

十年近く県
大会から遠ざ
かっており、
奮起が期待さ
れる。二年生
エース・松本
は巧打で得点
するパターン。
上手投げで速
球が武器。控
え将でチーム
のファイトマ
ン、島添が全
員を盛り立て
る。

上位打線が巧打で得点
や心配。打は
主軸の武藤、
松本、井上淳
ら上位打線が

**勝敗のカギ
投手の出来**
——筑紫中央
新チームの成績 4勝9敗
打撃成績 2割5分1厘
昭和四十五年の選抜に出
場して以来、甲子園から遠
ざかっている。主戦松本の
出来が勝敗の行方を左右す
る。直球にカーブを織り交
ぜて打たせて取る。打撃で
は武藤の長打力が得点源。
目標はまず一回戦。



H4 1992 年卒業



捕手	藤	秀	人
左翼手	北	憲	章
右翼手	日永	田	収
中堅手	蒲	原	敬
遊撃手	松	本	貴
二塁手	荒	木	秀
投手	今	村	泰
マネージャー	田	中	恵

※順不同



平成2年 秋	九州地区大会福岡南部予選 秋季福岡市長杯	第87回大会	2 - 5	VS	福岡舞鶴
			0 - 1	VS	光 陵
平成3年 春	九州地区大会福岡南部予選 春季福岡市長杯	第88回大会	24 - 0	VS	八女 農
			7 - 2	VS	玄 界
			6 - 0	VS	博多工
			3 - 13	VS	東海第五
			2 - 4	VS	広陵高
平成3年 夏	全国大会福岡南部予選	第73回大会	13 - 6	VS	玄 界
			1 - 8	VS	宗 像
			4 - 6	VS	沖 学 園



ダシの効いたチーム —— 蒲原敬人 (編集 今村泰介)

筑紫中央の歴史上、私達の代ほど素人染みたチームは曾って存在しなかったであろう。逆に言えば、普通とは違った感覚を味わえるダシの効いたチームだった。それは、一人一人の個性が絡み合ったからであり、そのチームから繰り出される様々な事件やエピソードは今現在でも生き続け、皆なで語り合うとその当時に戻ったかのような感覚に包まれる。

私達の代は、最終的に8人と厳選されたがそこに至るには、数々の名脇役も登場し、活躍し、消えていった。...

私達、8人が登場するストーリーには各々の見せ場があり、持ち場があった。それを披露する舞台が筑紫中央高校野球グラウンドだったのだ。現在は、8人各々違った舞台に立っているのだが、それも筑紫中央のグラウンドが原点であることは確かである。

そして、この強力な個性派チームは現在、パワーアップし続けている事は言うまでもない。

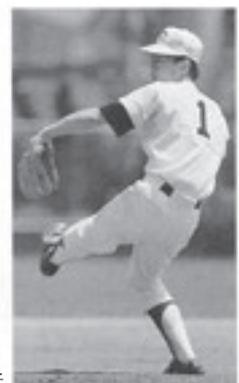
野球以前の問題が多く、それを非常に楽しんでいた現役時代。そのチームカラーを形にしようと考え、選手自身でデザインし

たユニフォームを作り上げた。そのユニフォームは嬉しい事に9年を経た今も受け継がれている。これから先何年使われるか分からないが、その時代、時代で自分達のカラーを出したいと思えば、何時でも新しいユニフォームをデザインして貰いたいと思うし、それ位勢いのあるチームがこれから先どんどん生み出されてくることを望んでいる。

最後に私達を情熱的に、指導して下さった渡辺正監督。甲子園優勝校との遠征試合を組んで下さった長瀬泰信先生。応援して下さった父母の方々に感謝致します。



今村泰介投手





H5 1993 年卒業



公式戦

平成3年 秋	九州地区大会福岡南部予選	第89回大会	0 - 7	vs 九州
平成4年 春	九州地区大会福岡南部予選	第90回大会	9 - 5	vs 西南学院
	春季福岡市長杯		6 - 8	vs 東海第五
			0 - 3	vs 博多工
平成4年 夏	全国大会福岡南部予選	第74回大会	4 - 6	vs 南筑

●小林進也 (遊撃手)

走攻守、3拍子揃った名プレイヤー、1年からレギュラーで出場。

●井上和亮 (二塁手) (永眠)

チームのモテモテ男、俊足好打の1番バッター。

●上野浩二 (右翼手)

ストレートに減法強く、常にセンター返し、天然ボケでマイペース。

●尾崎信幸 (中堅手)

美白研究家、走ること丈に命を懸けてきたダジャレ男。

●武石尚久 (左翼手)

強肩だが試合に出れば顔面蒼白、プロレスマニアでホモ疑惑？。

●平山順一 (二塁手)

一生懸命で頑張り屋!! 頼まれれば断れないお人好し。

●皆川 崇 (捕手)

通称・伊達男で「血の雨降らずせ・辞めさせていただきます」が決まり文句。

●牟田和志 (投手)

上手と下手を投げ分ける詐欺投法でバッターを翻弄する時もある。

●村山健次 (左翼手)

絶好のチャンスを何度も潰しチームに迷惑をかけた。ごめんね。

●安武清市 (一塁手)

バッティングは超一流! その他は3流。監督に殴られ大号泣。

●山内慎吾 (左翼手)

常に脱臼と戦う野次將軍。ベースランさせれば小回り君。ヒゲがよく似合っていた。

●井上暢子 (マネージャー)

独特なスロー口調とセクシーな仕種で部員達を魅了。

※順不同



H8 1996 年卒業



平成6年 秋 九州地区大会福岡南部予選 第95回大会
第2回福岡地区公立高校大会

4 - 5 vs 沖 学 園

12 - 2 vs 筑 前

8 - 3 vs 西 福 岡

2 - 1 vs 玄 界

10 - 5 vs 博 多 工

5 - 4 vs 福 岡 工

2 - 3 vs 東海第五

18 - 2 vs 筑 前

8 - 1 vs 東和大付属

3 - 1 vs 須 恵

6 - 1 vs 西 南

5 - 6 vs 早 良

優勝

秋季福岡市長杯

平成7年 春 九州地区大会福岡南部予選 第96回大会

10 - 0 vs 香 椎

7 - 0 vs 小 郡

1 - 11 vs 西日本短大付

1 - 7 vs 九 州

平成7年 夏 全国大会福岡南部予選 第77回大会

11 - 2 vs 福 岡

1 - 3 vs 柳 川

(62試合 43勝 19敗)

投 手	酒 井 栄 司
外 野 手	江 島 和 雄
二 塁 手	波 呂 英 明
投 手	今 橋 俊 裕
三 塁 手	松 下 智 昭
二 塁 手	宮 本 貴 彰
一 塁 手	木 戸 大 輔
捕 手	野 上 達 雄
外 野 手	大 山 春 樹
内 野 手	岡 圭 一
中 堅 手	林 田 直 之



※順不同

平和台球場にて



H9 1997 年卒業



年次	大会	対戦相手	結果	
平成7年 秋	九州地区大会福岡南部予選 第97回大会	10 - 3 VS 浮羽	勝	
		5 - 6 VS 大牟田	勝	
	第3回福岡地区公立高校大会	5 - 4 VS 博多工	勝	
		20 - 0 VS 宇美商	勝	
	秋季福岡市長杯	1 - 0 VS 福岡西陵	勝	
		6 - 3 VS 福岡商	勝	
		5 - 0 VS 春日	勝	
		10 - 4 VS 香椎工	勝	
		7 - 2 VS 福岡商	勝	
		8 - 6 VS 光陵	勝	
平成8年 春	九州地区大会福岡南部予選 第98回大会	2 - 1 VS 粕屋	勝	
		3 - 14 VS 柳川	勝	
	春季福岡市長杯	10 - 6 VS 博多	勝	
		3 - 6 VS 福岡	勝	
	平成8年 夏	全国大会福岡南部予選 第78回大会	11 - 2 VS 宗像	勝
			5 - 2 VS 福岡	勝
		福岡県大会	10 - 9 VS 九産大九州	勝
			1 - 6 VS 東筑	勝

投手成績

①公式戦(3年制) ②" (新チーム) ③練習試合(新チーム) ④TOTAL(①+②)

選手	試合	回	局	打	被	打	被	失	点	自	点	率
平島 慎也	20	160	680	576	1976	158	4	40	5	31	9	4.1
秋根 弘道	20	160	680	390	1976	158	4	40	5	31	9	4.1
秋根 弘道	12	87	352	241	1065	73	0	18	4	19	5	3.4
秋根 弘道	32	247	1032	891	3041	231	4	58	9	58	14	8.3

捕手成績

◎試合数 ①球 ②打撃 ③盗塁 ④失策 ⑤盗塁 ⑥盗塁 ⑦盗塁

秋根 弘道

①	19	9	0	27	6
②	17	9	0	27	6
③	15	5	0	17	2
④	32	12	0	41	8

筑紫中央

[2年]	村津 卓二	山崎 大	天前 進矢	永池 健治
[1年]	林田 洋樹	吉田 光一	平島 道雄	高木 威史
小部 智徳	扇 和彌	田中 一行	金子 久志	井上 進
吉川 真司	柳迫 茂	城戸 啓行	樋渡 和憲	
[マネージャー]	後藤 聡子 (3年)			
江濱紗也香	島田美美子	嶋津真季子	松元亜希子 (2年)	

筑紫中央

責任教師 野見山一義
監督 渡辺 正

(投)	平島 慎也◎	166	62
(捕)	秋根 弘道◎	167	64
(一)	八上 揚	176	68
(二)	野村 武司◎	174	66
(三)	野村 弘樹◎	174	65
(遊)	三田 中	167	62
(左)	小山 敬◎	173	70
(中)	不老 雅揮◎	178	70
(右)	春高 慎二◎	180	75
控	山田 健久◎	177	70
シ	池大 賀	178	68
シ	中原 健◎	182	77
シ	井手 修崇◎	180	81
シ	前田 洋介◎	160	54
シ	田島 耕平◎	170	62
シ	白鳥 辰哉◎	170	65
シ	児島 欽平◎	175	68
シ	白鳥 陽三◎	172	70
シ	児島 潤◎	167	60
シ		168	60

※順不同



H10 1998 年卒業



平成8年 秋	九州地区大会福岡南部予選 第99回大会 第4回福岡地区公立高校大会 (準優勝)	5 - 8	vs 糸 島
		2 - 1	vs 福岡工高
		7 - 1	vs 筑紫丘高
		3 - 1	vs 須 恵 高
		11 - 5	vs 粕 屋 高
		1 - 5	vs 福 岡 高
		6 - 16	vs 沖学園高
		4 - 2	vs 筑紫丘高
		6 - 4	vs 玄 洋
		7 - 6	vs 早 良 高
秋季福岡市長杯	九州地区大会福岡南部予選 第100回大会 春季福岡市長杯	9 - 2	vs 新 宮 高
		4 - 1	vs 春 日 高
		1 - 5	vs 九州産高
平成9年 春	九州地区大会福岡南部予選 第100回大会 春季福岡市長杯	3 - 6	vs 久留米商高
		5 - 1	vs 筑 前 高
		0 - 11	vs 筑陽学園高
平成9年 夏	全国大会福岡南部予選 第79回大会	6 - 1	vs 大川工高
		0 - 3	vs 西短付高

(延長10回 ⊕ 上揚)
優勝戦

決勝トーナメント

(⊕ 池永)

80周年のシンボルマークを人文字で記す

左翼手	村	津	卓	二
二塁手	大	賀	崇	之
三塁手	中	原	洋	介
遊撃手	井	手	辰	哉
一塁手	池	永	修	久
投手	小	山		徹
右翼手	永	池	健	治
投手	春	高	慎	二
捕手	山	田		健
右翼手	前	田	耕	平
二塁手	上	揚		圭
中堅手	天	前	進	矢
捕手	山	崎		大
マネージャー	江	濱	沙也	香
マネージャー	嶋	津	真	季子
マネージャー	松	元	亜	希子



筑紫中央高校グラウンド

※順不同



H11 1999 年卒業

野球部の思い出 平島道雄 (主将)



中学校時代の先輩からのすすめもあり入った筑紫中央、そして野球部。3年間は本当に楽しく、苦しいものでした。なかでも頭に浮かぶのは、5厘の事です。新チームになり見逃し3振をすると5厘にするという規則ができ、自分は1年足らずで3度の5厘を経験しました。今では坊主の生徒でも少ないのに5厘という学校中でも注目的になりました。他にも負けた試合は失点の五倍のダッシュをしたりなど、全く聞いたことのない規則ばかりがあったけど、どれも自分の発奮材料となり実際5厘に一度もなっていない奴もいるし、結果的にはいい規則だったのではないかと個人的に思うが、中にはそう思わない奴もいて、問題もたくさんあったけど、それも人生のいい経験ができたものだと思います。

最後に、本当に筑紫中央野球部にいたことを誇りに思う。

(大東文化大学)



筑紫中央

部長 永里 竜一 南
監督 森山 智徳 右 春日 陵
捕 小部 智徳 右 御 紫野
一 高木 威史 左 久志 西
二 金子 久志 左 眞司 平 野
三 林田 洋樹 左 洋樹 左 野
遊 田中 一行 左 道啓 右 東
右 井上 進 右 啓行 右 西
内 木本 聡一郎 右 和弥 右 須
外 扇 和彌 右 和弥 右 那珂川
原松 祥弘 右 介 右 学業
枝松 良一 右 恵 右 日 院
吉江 島 眞 右 二 右 春 筑
松 福 眞 右 二 右 筑 紫
春 木 裕 右 二 右 三 野
岡 嶺 太 右 二 右 那 珂 川

投 小部 智徳

中央のエースピッチャーとして活躍。特に彼の速球はすごかった。スリルのある守備だった。

捕 高木 威史

キャッチャーとしてチームを支えてきた。大牟田戦での場外ホームランはすごかった。中央の打点王。

一金子 久志

熱い男！豪快なバッティングで、2打席連続ホームランを打ったことも。

二 吉川 眞司

外野からの返球がそれると、とても恐かった。華麗なプレーをし、守備のうまさもチーム一。

三 林田 洋樹

ピッチャー以外にも、ファースト・サードと、多彩に3つのポジションを守る。

遊 田中 一行

小柄な体をいかした素早い動きの守備をする。セフティーバントがとてもうまかった。

投 平島 道雄

中央の主将。試合経験が一番多く、チームをまとめてきた。中央の欠かせない存在。色男でよくもてていた。

中 城戸 啓行

よくしゃべり、よく走り、よく打つ打率No.1男。俊足をいかした走塁をし、頼れる1番打者。

右 井上 進

主にライトを守り、エラーがとても少なかった。ハッスルなプレーが印象的。

内 木本 聡一郎

チームのムードメーカー的存在。いつもチームを盛り上げていて、よく笑わせてくれた。中央の隠れキャプテン。

内 柳 迫 茂

自分の考えをしっかりとっていて、表には出さないが、裏ではコツコツと頑張っていたようだ。

外 扇 和彌

野球の上達の早さは驚異的。よく、天然ボケぶりを発揮していた。

マネ 山野 奈緒

おしゃべり好きで、場の雰囲気やわらわけてくれた。ありがたい存在。

マネ 渡辺 千明

冷静な判断で仕事をこなしていた。部にとって必要とされる存在。

※順不同



H12²⁰⁰⁰年卒業



1991 高校野球 筑紫中央

筑紫中央 初戦を突破

【八工工】筑紫中央が初戦を突破し、準決勝に進出。決勝戦では、主戦手の川原豪介が、8回に決勝打を放ち、優勝を飾った。

8回に決勝打

【八工工】筑紫中央が初戦を突破し、準決勝に進出。決勝戦では、主戦手の川原豪介が、8回に決勝打を放ち、優勝を飾った。

筑紫中央高等学校野球部

優勝大会

筑紫中央、白熱戦制す

主戦との約束 守った決勝打

筑紫中央・川原選手

あの1打

主戦との約束 守った決勝打

筑紫中央・川原選手

あの1打

主将 川原 豪介

森山監督、部員のみんなどとの出会いは自分の人生にとって非常に大きな財産になりました!当時は練習がきつくて逃げ出したりもしましたが、野球部で過ごした3年間のおかげで精神的にも強くなりました!個人的には最後の夏の大会でクジで開幕戦を引き当てさらに5打数5安打打った事が人生の運をほとんど使ったなと思ってます。筑紫中央が甲子園に出る日を楽しみにしています!




副主将 枝松 祥弘

高校野球は自分のその後の人生に大きな影響を受けました。今は沖縄で少年野球のコーチをしていますが、生活面でも技術面でも精神面でもあの3年間で教わった事が全てです。高校の時よりも今になって気付かされる事が多いです。森山監督には感謝しありません。筑紫中央高校の甲子園出場を心から応援しています。






副主将
吉岡 誠 司

3年間の思い出といえば、練習サボってカラオケ行ったり、途中で逃げ出して辞めたり、最後の試合でエラーしたり、こんなどうしようもない事しかしてないと改めて思います。

でも、何だかんだ最後まで続ける事が出来たのも野球が好きで仲間が好きだったからだと思います。野球部の仲間達は私の永遠の誇りです!



玉 城 洋 明

70周年誠におめでとうございます。当時は一度挫折しましたが、監督、コーチ、チームメイトの支えもあり、楽しく充実した日々を過ごすことができました。甲子園を目指し頑張ってください。



松 本 雅 史

個性の強い部員の集まりで監督、先輩に迷惑をかけたしまったと思う。そんな部員達と3年間過ごせた事は今でもいい思い出です。

個人的に1番の思い出は大会で先頭打者ホームランを打った事です。



春 木 裕 久

高校1年の時にクラスでいじめにあって辛かったが、野球部のメンツだけは変わらず接してくれた。マジで救われたし、マジで感謝です!



江 島 賢 二

引退から20年経って体重も20kg増えたけどまだまだ野球楽しんでます!



岡 崎 頌 太

毎日練習がきつかった事を覚えてます。野球のセンスもないし、ついていくのもやっと、辞めたいと何度も思ったけど、同期メンバーが居たから最後まで続けられました。監督には、迷惑ばかりかけてたから謝りたいですね。

また、自分自身もっと頑張ってたらず後悔もありますが、みんなと出会えたし、筑紫中央野球部で良かったです。



米 俊 太 郎

個性的なメンバーと過ごした3年間。たまに会うと大抵同じ昔話ですが、貴重な時間を共有できてたなと、今になると思うばかりです。



吉 良 恵 一

3年の最後の大会出れなかったけど、開会試合でテレビ中継されて初戦突破出来たことかな。結局2回戦で負けてしまったけど、不思議と出れなかったことは悔しくなくて、何だかんだ言って3年間皆と一緒に野球が出来て良かったなと思う。



福 田 真 治

・剣道の防具を付けてピッチングマシンを近づけて高速でバットの先端部分でのバント練習
・クソ根性ノック
・冬練の追い抜き走
を思い出すと今仕事でしんどいときでも頑張れる!



マネージャー
村 山 友

野球が好きだけでなく、まさか自分がマネージャーになり、それも3年間続けられるとは思ってもしなかった当時、「部員の為にやってあげて。という考えではなく、すべて自分の為になるよう見方を変えてごらん。」監督のこの言葉にずっと支えて頂いていたと思います。どんなに、目立たない事でも、一生懸命頑張る事を教えて頂きました。その精神は、今の生活でも、仕事でも活かしていると思います。



H13²⁰⁰¹年卒業





セカンド 右投右打
大野中学校卒
九州産業大学卒
ホシザキ北九株式会社勤務

宍 粟 俊 太

キャプテンのくじ運のなさにガッカリした記憶が鮮明に思い出されます。最後の夏の大会1回戦、打者23.4人?あの夏の一回表は本当に長かった…あと森山監督に暴言を吐いたんですけど、理解ある監督さんで本当に良かったです…今となれば全てが思い出です!
皆さんで甲子園に応援に行きたいですね、頑張れ筑紫中央高校!!!



ファースト 右投右打
平尾中学校卒
慶應義塾大学進学
IT・システム営業

(旧姓 松田)

上 川 英 一 郎

仲間の大切さを学んだ3年間でした。今でもできないこと、苦しいことはいくらでもあり、その度に人に支えられ、また自分も人に何か還元できないかと思いながら生活していますが、それは野球部での3年間に今の考えの原点があるのだと思います。

高校卒業と同時に東京へ離れてしまいましたが、今は仕事やマラソンを楽しみながら過ごしています。



ライト 右投右打
三筑中学校卒
Sun Moon University卒
東京海上アシスタンス株式会社勤務

大 川 内 貴 信

高校3年間はとにかく野球中心で、楽しい野球・悩むのも野球・痛い事も嬉しい事も全て野球だったように感じます。毎日ハードな練習を乗り越える事で精一杯でしたが、一緒に乗り越える仲間がいたのでやり切る事ができたと思います。今では本当に感謝しています。

社会に出て仕事をしていく上でも強い精神力と思いやり、やり切る力を成長させてもらっております。大好きな野球を通して大切な事を学べましたので自分の子供達へも将来より良い形にして受け継いでいきたいと思ひます。



レフト 右投左打
大野東中学校卒
自営業

粟 田 哲 郎

私は中学でサッカー部に所属しており高校から野球部に入部しました。周りは経験者のみでしたが中学の同級生や小学校時代の先輩がおり硬式野球未経験でもとても良い環境で部活に打ち込めたと思います。今でもソフトボールをしたりしてスポーツを通して楽しく過ごしております。筑紫中央高校野球部での経験を生かして生活できることに感謝します。



ライト 右投右打
春日中学校卒
福岡大学卒
春日・大野城・那珂川
消防組合消防本部勤務

高 橋 裕 一

高校時代、はじめは特に入りのなかつた野球部に友達から誘われ入部したことを思い出します。そのような中、3年間野球部で鍛えられたことは貴重な財産になっています。あまり野球は上手くなかったですが、良き友人ができて、精神的にも強くなれたと思います。現在、私は消防吏員として勤務しておりますが高校時代の経験が活かしていると感じています。

筑紫中央高校野球部の皆さん、仲間を大切に今を一生懸命に駆け抜けてください。たとえすぐに結果が出なくてもそれが皆さんの貴重な財産になると思ひます。



大野東中学校卒
西南学院大学卒
福岡ダイハツ販売株式会社勤務

矢 野 賢 治

70周年記念、誠にありがとうございます。当時は思い返すと、野球の楽しさよりも苦しさや辛さの方が多かったと思ひます。

しかし、きっとそこでしか得なかつた貴重な経験が、社会に出ても支えとなっていると思ひます。

森山先生はじめ、貴重な仲間たちに大変感謝しております。



太宰府東中学校卒
日本体育大学卒
飯塚高等学校勤務

藤 武 裕 司

人生の中で3年間一つのことに打ち込めたこと、多くの仲間(同級生や先輩・後輩)に出会えたこと、素晴らしい指導者の方々に出会えたことに感謝いたします。



マネージャー
春日東中学校卒
久留米大学卒
主婦、パートタイマー

(旧姓 中村)

田 村 優 希

高校3年間を思い返すと、マネージャーとして部員を十分にサポートできていたかなと思うこともあります。しかし、公式戦での球場手伝いや監督達から「縁の下力持ちだった」というメッセージをいただいて良い経験だったと感じています。まさか、野球部だったことが今の仕事につながるとは思ひもせませんでした(笑)。



マネージャー
平尾中学校卒
筑紫女学園短期大学卒
主婦、パートタイマー

(旧姓 加藤)

正 田 和 美

毎日みんなが頑張っている姿を見るのが好きでした。マネージャーとしてサポート出来ているのか、不安な時期もありましたが「何気ない時のありがとうや森山監督の「加藤は加藤のままでいい」の言葉に勇気をもらいました。試合でのアナウンスも、野球に関わっている感じが楽しかったです。

マネージャーを経験して、周りをよく見て気づき動く事を学ばせてもらい、社会人になってからもその気持ちは大切にしています。





H14²⁰⁰²年卒業



背番号	氏名	ポジション	背番号	氏名	ポジション
1	荒川雄太	投手	9	平山隆司	外野手
2	石井誠	捕手	10	菊地剛史	投手
3	深水良彦	内野手	副主将 11	平井渡	投手
副主将 4	田中慎二	内野手	生徒会長 12	圓福淳一	捕手
主将 7	西村英樹	外野手	13	元村隆秀	外野手
8	金尾直樹	外野手		今長谷幸代	マネージャー



公立大会	一回戦	7-8	VS城南高等学校
福岡市長杯(リーグ戦)	一試合目	12-1	VS福岡中央高等学校
	二試合目	6-0	VS武蔵台高等学校
	三試合目	8-4	VS福岡大学附属大濠高等学校
	四試合目	5-1	VS城南高等学校
	五試合目	7-5	VS古賀高等学校
	一回戦	8-6	VS玄界高等学校
	二回戦	3-5	VS筑紫台高等学校
九州地区福岡大会	二回戦	6-0	VS三池農業高等学校
	三回戦	2-1	VS八女高等学校
	四回戦	6-4	VS福岡大学附属大濠高等学校
	五回戦	1-8	VS福岡工業大学付属城東高等学校
	九州地区福岡大会	一回戦	2-7
福岡市長杯	二回戦	3-0	VS中村学園山陽高等学校
	三回戦	2-5	VS福岡工業大学付属城東高等学校
全国高校野球福岡大会	二回戦	8-1	VS朝羽高等学校
	三回戦	5-3	VS香椎高等学校
	四回戦	2-9	VS福岡工業大学付属城東高等学校





H15²⁰⁰³年卒業



<p>監督 森山博志 言わずと知れた、メジャーステージ ゴリ押しおじさん</p>	<p>部長 片山英和 ノックの練習大変でした</p>	<p>主将 塚本祐次 時の魔道士と呼ばれる時空魔術の 使い手</p>
<p>副主将 田中 恵 右利きやったっけ、左利きやったっ け?</p>	<p>副主将 山本崇了 フランクリンの手袋が無ければ打 撃×</p>	<p>朝野 洵 マイカップ持参で口唇ヘルペス感 染予防</p>
<p>伊藤 真 伊藤ブーマコト</p>	<p>上田 勇介 中学時代卓球部からの刺客</p>	<p>岡 慎太郎 サブマリン岡と他校からカモにさ れていたとか</p>
<p>岡 泰宏 岡元気と呼ばれているが、元気が あったのかは不明</p>	<p>小澤 憲 水筒の中にはいつも、アミノバイタ ル</p>	<p>楠 祐一郎 楠くんベイバー、ザウルス楠リーナ ル</p>
<p>倉富弘和 野球部一のプレイボーイ</p>	<p>前田和寛 三塁にランナーおるのに三盗す る、パワープレイ</p>	<p>三丸 翔 強肩からのレーザービーム、数多 の女も狙い撃ち</p>
<p>本山直樹 鼻血で一日練習を休む</p>	<p>山村 匡 体は小さいが、心はでかい</p>	<p>松原誠二 野球部一の頭脳の持ち主</p>

マネージャー 松木理恵
縁の下の力持ち、今ではセレブ婚
に成功しカナダに居住



公式戦の戦績

公立大会(トーナメント)

2001年7月28日 1回戦 対武蔵台 7対0 7回コールド勝ち
 2001年8月 1日 2回戦 対春日 3対1 勝利 岡元気3塁打!
 2001年8月 6日 3回戦 対博多工業 4対10 負け 本山3塁打実らず!

福岡市長杯(リーグ戦)

2001年8月7日 対筑紫台 0対8 7回コールド負け
 2001年8月8日 対柏陵 5対12 負け マエさん2塁打!
 2001年8月9日 対香椎工業 4対0 勝ち マエさん奇跡の2試合連続2塁打!

九州地区福岡大会(トーナメント)

2001年9月16日 2回戦 対福岡舞鶴 4対5 負け マエさんここでも2塁打、マエさんが輝いていた時期

福岡市長杯(トーナメント)

2002年4月13日 1回戦 対福岡中央 8対0 7回コールド勝ち 三丸特大場外ホームラン!!
 2002年4月20日 2回戦 対宇美商業 11対3 7回コールド勝ち
 2002年4月21日 3回戦 対東和 4対3 勝ち おかしん先発!!
 2002年4月28日 準々決勝 対東海大五 8対7 延長12回サヨナラ勝ち!
 2002年4月29日 準決勝 対福大大濠 2対6 負け

全国高校野球福岡大会

2002年7月7日 1回戦 対古賀高校 4対3 勝ち
 2002年7月10日 2回戦 対中村三陽 8対2 勝ち
 2002年7月12日 3回戦 対玄海 6対4 勝ち
 延長10回勝利!この日、くす君誕生! 山本、塚本から借りた手袋でホームラン!
 2002年7月15日 4回戦 対福翔 3対1 勝ち

福岡県大会

2002年7月23日 5回戦 対九産大九産 1対5 負け



元ウメボシエンジン
 (元よしもとクリエイティブ・エージェンシー東京)



H16 2004 年卒業



メンバー

	メンバー	ポジション
	1 石橋 賢	内野手
主 将	2 緒方 賢治	捕手
副主将	3 黒木 貴博	外野手
	4 迫田 浩太	内野手
	5 末竹 康二	内野手
	6 関口 雄三	内野手
	7 柴崎 啓太	捕手
	8 高橋 龍範	外野手
	9 土山 力也	投外野手
	10 中西 遼平	外野手
副主将	11 長野 文也	内野手
	12 西森 大和	内外野手
	13 服部 勇太	内野手
副主将	14 平田 泰久	外野手
	15 深水 崇弘	投手
	16 古川 真也	内外野手
	17 松尾 祐輔	投手
	18 吉富 寛史	外野手

主 将 緒 方 賢 治

私たちが3年になった時には野球部員数が60名を超える大所帯になりました。練習メニューは副主将の平田が考え、狭いグラウンドで全員が効率良く練習できるように考えることが大変でした。「チャレンジャー」「未来をいじくれ」ということがモットーでした。

1・2年生の時は森山博志監督、3年生の時には片山英和監督にお世話になりました。当時は思うように行かず、辛いことが多かったですが今では笑い話にもなり、いい経験ができたと思っています。同級生18名と一緒に夏の福岡大会で負けるまでの間、野球ができたことが一生の思い出です。

筑紫中央野球部が甲子園で試合をする日を楽しみにしています。



公式戦 戦績

公立大会	1回戦	1	VS	8	古賀
秋福岡市長杯	リーグ戦	4	VS	2	光陵
	リーグ戦	7	VS	4	福岡
	リーグ戦	6	VS	2	西福岡
	リーグ戦	5	VS	1	香住ヶ丘
	リーグ戦	8	VS	1	西南学院
	1回戦	3	VS	2	福岡舞鶴
	2回戦	3	VS	2	筑前
	3回戦	2	VS	10	古賀
秋九州地区大会	1回戦	2	VS	2	西南学院
	2回戦	13	VS	0	浮羽東
	3回戦	4	VS	5	光陵
春九州地区大会	1回戦	2	VS	0	光陵
	2回戦	3	VS	2	玄海
	3回戦	9	VS	6	東海大五
	4回戦	1	VS	8	福大大濠
春福岡市長杯	1回戦	12	VS	11	柏陵
	2回戦	1	VS	0	玄洋
	3回戦	5	VS	7	九産大九州
全国高校野球福岡大会	1回戦	6	VS	0	大川・大川樟風
	2回戦	2	VS	4	糸島



エース 深水 崇 弘

筑紫中央高校卒業後は、東亜大学(山口県)へと進学し、エースとして明治神宮野球大会へも出場。2015年12月まで8年間社会人野球新日本製鐵広畑で投手として活躍。



部長、監督時代を振り返って

十四代 監督
十八代 野球部長

片 山 英 和

筑紫中央高校野球部創部70周年に際し、記念誌が発刊されますこと、心よりお慶び申し上げます。

平成14年度、伝統ある筑紫中央高校野球部に、森山博志監督のもと、部長を経験させていただくこととなり、多くのことを勉強させていただきました。

平成15年度からは、森山監督が転勤で、力不足の私が監督の大役につくこととなりました。ラグビー専門の私が監督であったため、優秀な選手がいるにも関わらず、生徒の力を発揮させることができず、公式戦で1勝もできなかったことは、今でも申し訳なく思っています。

当時のことを振り返ると、選手達と一緒に、森山監督のもと、「人間」として一番成長した2年間でした。一緒に走ったり、靴を揃えたり、ノックの練習をしたりなど、野球素人の私と一緒に歩んでくれた当時の選手たちにお礼を申し上げます。特に、部長として県大会に出場した時に、北九州市民球場のベンチにいらしてもらったこと、一緒に応援し、感動を共有できたことは、今でも忘れませんし、最高にうれしい思い出の1つです。

ただ、当時選手達は、他の生徒が遊んでいる時に、きつい練習をして、野球漬けの日々、野球以外の自由時間がほとんどない生活だったと思いますが、それだけ皆さんは他の生徒とは違う貴重な経験をしたことにより、野球の技術はもちろんのこと、「人間」としてかなり成長することができたと確信しています。それが、今日の人生におき、大きな自信となっていて、あらゆる方面で活躍していることと思います。

野球部顧問として2年間という短い期間ではありましたが、こんなにも貴重な体験と感動を味わわせてくれた選手に、今でも感謝しています。

また、私を支えてくれた森山監督、村上コーチ、保護者の方々、その他関わりのありましたすべての方に、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、筑紫中央高校野球部の益々のご発展を心より祈念いたします。



福岡県立筑紫中央高等学校 野球部創部70周年に感謝を込めて

十五代 監督 萩 井 泰 之

福岡県立筑紫中央高等学校野球部が創部して70周年を迎えられることに、心よりお慶び申し上げます。また、記念誌作製にあたり原稿の依頼を頂き恐縮するばかりです。

さて、振り返ってみますと私自身、高校野球の指導者として34年という時間が、過ぎました。その中でも筑紫中央高校野球部には、平成16年から平成27年まで、11年間にわたりお世話になりました。赴任した当時を今でも鮮明に記憶しています。

初めて対面した野球部の生徒諸君は、挨拶の声も大きくグラウンドでの練習では、部員全員が協力し合い、いきいきと練習に励んでいる姿に感動しました。当時のキャプテンと今後の方針などを話していく中で、「このチームは、まだ公式戦で1勝もしていません」という言葉に驚きました。赴任して1週間足らずで福岡市長杯高校野球大会(現 福岡地区高校野球大会)を迎えました。オーダーは生徒に決めさせて、筑紫中央高校野球部監督としての初戦です。中盤で4点のリードでしたが、ミスや投手の四球の連発で、あっという間に逆転され、そして敗北。残る公式戦は、3年生の引退をかけた夏の選手権大会のみです。生徒とともに残り3ヶ月間を最後の公式戦は必ず勝つという目標を掲げ練習に励みました。

そして迎えた夏の選手権大会初戦は、全校応援という中での戦いでした。生徒たちの戦いぶりは頼もしく、1点差で勝利。校歌を全校生徒の前で高らかに歌う部員の姿を見て、私も充実感が湧きました。続く2回戦も突破。パート決勝戦では、シード校に惜敗しましたが、生徒達の涙を流しながらも、充実した達成感のある表情が、今でも深く印象に残っています。

それ以来11年間、多くの筑紫中央高校野球部部員とともに過ごした日々は、私の野球人生の宝物になりました。現在、地元の中学校や県内の高校で野球部の指導者として活躍している卒業生もおり、頼もしいかぎりです。また、毎年の夏の大会前のOB会からの激励会は甲子園出場という輝かしい歴史のある野球部ということを実感し、勇気づけられました。本当に感謝申し上げます。

最後になりましたが、今後益々、福岡県立筑紫中央高等学校野球部の発展と関係者の皆様のご健勝ご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



H17²⁰⁰⁵年卒業

【メンバー】	【一言紹介】
主 将 辻 栄作	出て行けと言われて出ていく『Mr. イエスマン』泣き虫な主将だった
副 主 将 吉武 賢司	城島意識のマネージャーキラー。キャプテンの良き相談相手
// 今長谷僚一	局部にデッドボールを受けたことも。ガッツあるプレーで引っ張る副主将
// 平井幸太郎	頼もしいベンチのムードメーカー相棒のミッドはTAMAZAWA
メニュー係 平川 貴大	翼をもった名手初代四番のメニュー係
// 木原 由雄	頼れる守備でチームを盛り上げた。特技はChikuzan相撲
井手 麻貴	毎日よく走り込んでいたエース。時代の最先端を行くジャイロボーラー(笑)
才原 渡	今は肥満もフィールディングはピカイチ制球力ある投手だった
内田 達也	決め球スライダー11番をつけた我がエース
戸祭 圭策	言わずと知れた『ブルペンエース』監督から引退勧告を受けたこともあった
後藤真一郎	長身一塁手ショーバン全部捕ります当たれば打球はよく飛んだ当たれば
今村 公哉	入部後謎の手首骨折も努力の末スイッチヒッターに俊足セカンドベースマン
久保田勇氣	唯一1年からベンチ入りそう調子のりました頂きます森山先生愛の鞭を
松永紳一郎	キャプテンと仲良し? トンちゃん豚ちゃん
川島 達也	叫ぶクレーマー!! 仲間と衝突もあったが真面目な理系の努力家だった
橋本 康孝	受け継がれる那珂川シャークスのヤジ將軍体育祭では実行委員長を務める
畑中 謙亮	ダイヤモンドを駆けるハタナカハタナカヤラかし多し草むしりが得意だった
マネージャー 大石 早夏	愛し、愛されたマネージャー
// 井本 奈々	野球部を支え続けた鉄人



* お世話になった監督さん*

僕らの世代は毎年監督が代わり
3名の先生方にご指導頂きました

- 1年生時代 ⇒ 森山先生
- 2年生時代 ⇒ 片山先生
- 3年生時代 ⇒ 初井先生

当時はサインは変わるは、練習方法は変わるはで戸惑いも
多くありましたが、3名の監督のご指導の元、貴重な経験を
させて頂きました!!!



《公式戦戦績》

平成15年(2003)秋	第113回九州地区大会福岡南部予選	1回戦	●	0-7	VS	九産大九州
平成16年(2004)春	第114回九州地区大会福岡南部予選	1回戦	●	1-5	VS	東海大第五
平成16年(2004)春	福岡市長杯争奪高校野球大会	1回戦	●	7-8	VS	春日
平成16年(2004)夏	第86回全国高校野球福岡大会南部予選	1回戦	○	8-6	VS	光陵
		2回戦	○	5-2	VS	福岡翔
		3回戦	●	0-2	VS	福岡第一



野球部での思い出 _____ 辻 栄 作

公立高校に入学できれば、野球部に入部しようとなんとなく思っていました。合格が決まっていた私立の強豪校では、体の線が細い自分には到底練習についていけないと思っていたからです。しかし筑紫中央野球部に入部してこの甘い考えは間違いだとすぐに気づきました。

当時の監督は森山博志先生。結果的に私が入部したその年の先輩方は県大会まで出場し『ミラクル筑紫中央』と新聞に取り沙汰されました。先生の教育方針の元(日体大式と言うのだろうか!?)先輩後輩の上下関係もきちんとしており、先輩方も自らを律し、自分を追い込み、必死に練習に取り組んでいたのを記憶しています。合言葉は『(監督)敵は誰だ? ⇒ (生徒)自分です!!』軍隊に入部したのかと思う時もありましたが、とてもきつい厳しい練習をしていたなと今では良い思い出です。

一年生と二年生との間に1対1の親子関係たる制度を設けており、生徒一人一人に専属の教育係体制を取っていたことはとても記憶に残っています。子である一年生が何か問題を起こせば(ヤラかせば)連帯責任となり、その親(教育担当)である二年生も一緒に責任をとるというものでした。思えば単に野球をやり、技術を高めるだけでなく、社会に出て大切なことを部活を通して沢山学んでいたんだなととても懐かしく感慨深い思い出の一つです。

三年間共にした17名の同期とは、よく笑い、よくぶつかり、よく喧嘩したものですが、自分たちが三年生になり、夏の最終戦では陽岱鋼(現巨人)擁する福岡第一に惜敗し、惜しくも県大会出場まであと一歩のところまで涙を流しましたが、同期の連中と切磋琢磨し合えた時間はかけがえのない宝物です。

毎日、腹から大声を出し、仲間を鼓舞し、全力でグラウンドを駆け抜けたあの日々は、とてもきつかったですが、筑紫中央野球部に入部でき、沢山の仲間に出会えて本当に良かったです。

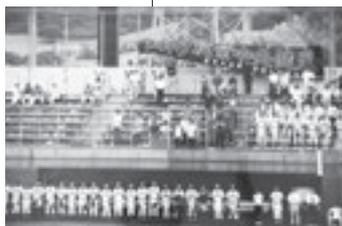
これからの筑紫中央高校野球部の活躍を期待し、甲子園応援に連れて行ってもらいたいです!!



H18²⁰⁰⁶年卒業



投手 山根浩紀
松本良弘
牧瀬康明
捕手 日高翔吾
小野健太
一塁手 松崎俊大
清村大樹
二塁手 巻田隼人
満生博和
三塁手 野口智弘
山中啓資
草場敦也
遊撃手 八尋亮介
角田英洋
外野手 八尋浩太
河野竜也
松本尚之
花田雄太郎
酒見翔太
諫山拓
黒瀬将太
藤澤祐二
マネージャー 藤井さゆり(旧姓笠原)
伊藤利菜
佐藤真子(旧姓浦川)



公立学校野球大会 1回戦 12-1 VS筑前高等学校
2回戦 12-2 VS香椎高等学校
3回戦 5-1 VS福岡高等学校
準決勝 1-4 VS福岡工業高等学校

秋季市長杯争奪リーグ 一試合目 1-8 VS福岡第一高等学校
二試合目 4-3 VS筑前高等学校
三試合目 10-3 VS玄洋高等学校
四試合目 7-1 VS福岡魁誠高等学校
五試合目 9-0 VS古賀高等学校

決勝トーナメント 1回戦 12-0 VS光陵高等学校
2回戦 4-5 VS冲学園

九州地区高校野球福岡南部大会 1回戦 3-6 VS伝習館高等学校

第116回九州地区高校野球福岡南部大会 1回戦 10-2 VS久留米高等学校
2回戦 6-1 VS大川樟風高等学校
3回戦 5-7 VS西日本短期大学付属高等学校

春季市長杯決勝トーナメント 1回戦 3-8 VS香椎高等学校

嘉穂高校野球部100周年記念大会 3-4 VS嘉穂高等学校
1-6 VS西田川高等学校

第87回全国高校野球選手権福岡南部大会 1回戦 0-7 VS筑陽学園高等学校



松崎 俊大(主将) 高校野球を通じて

私にとって「高校野球の3年間」とは、最高の思い出であり、全てにおいて成長させてもらいました。

伝統ある筑紫中央高校野球部に入部し、厳しい生活指導、厳しい練習等、今まで経験したことのないものでした。私の周りには25名の同級生がおり、同じ目標を持って歯を食いしばりながら我武者羅に頑張っていたことを思い出します。厳しい練習では、共に励まし合いながら汗を流し、試合に勝ったときは共に喜び、負けたときは共に涙を流しました。時にはミーティングで信念をぶつけ合い、喧嘩をしたこともありましたが、これも全員が「試合に勝ちたい」という気持ちがぶつかりあっていた証だと思っています。

夏の大会では実力が及ばず敗退しましたが、人生で最高に楽しい試合になりました。3年間野球漬けの毎日を送ってきた中で、同級生との固い絆・目標に向かうための努力、礼儀・礼節等人格の形成など多くのことを学ぶことができました。

私たちは今、社会に出て社会人として生活しており、きついことや苦しいことがあります。筑紫中央高校野球部で学んだことを活かし、力強く乗り越えていきたいと思っています。

筑紫中央高校野球部の仲間は一生の宝です。今後も一生の仲間として、切磋琢磨していきたいと思っています。



黒瀬 将太(副主将) 野球部3年間を通じて

高校3年間の野球生活を通じて、礼儀、挨拶、視野を広く持つこと、先輩後輩への気配り等、人として大切なことを多く学ばせていただきました。

高校生活での経験が、社会人となった今でも活かされています。

思い出に残っている試合は、3年の夏、筑陽学園との試合です。初戦敗退と悔しい思いをしましたが、最高の仲間と一緒に野球が出来たことが、いい思い出となっています。最高の仲間と共に過ごした3年間は人生の宝物です。

野球部の仲間とはこれからもう一生付き合える仲間ではないかと思います。



野口 智弘(副主将) 野球部での3年間で得たもの

30歳を越えても付き合える仲間、楽しかった思い出、3年間頑張れた自信、グラウンドの端から端まで届く大声、1球投げたら痛み出す右肩、上を向いて寝れない腰のヘルニア、段差ですくすく足首。

今の自分を構築してくれた3年間でした。戻れるなら戻りたい3年間でした。



(旧姓 笠原)
藤井 さゆり



伊藤 利菜



(旧姓 浦川)
佐藤 真子

マネージャー 野球部3年間を通して

小さい頃から甲子園を見るのが大好きだった、私たち3人は、念願だった野球部のマネージャーになりました。入部当初は、部員が60名ほどいたので、名前を覚えるのが大変だったことを覚えています。

お茶の準備から始まり、スコアの書き方、試合のアナウンス、球の縫い目の縫い直し、草むしり等さまざまな仕事がありました。その中でも、夏の大会前に準備する御守り作りと、その年のスローガンを折鶴で作成したことが今でも印象に残っており、どれも力作だったと思います。入部当初から、3年間、練習試合等

に応援に来てくれる保護者の人数の多さに驚き、いつも声を掛けてもらい、たくさんの元気をもらいました。

毎日の練習、試合、テスト前の勉強会等、高校生活のほとんどを野球部のみんなと過ごしました。部員と目指す想いも一緒に、部員のみんなの笑顔はすごく嬉しくて、悔しい場面では歯を食いしばり、ともに一喜一憂して歩んできました。

3年間、野球部の一員として過ごせたこと、仲間と出会えたことはかけがえのない宝物です。

今でも高校生たちの甲子園で輝く姿を見ると、胸が熱くなり、高校時代の思い出が蘇ります。

筑紫中央高校野球部で本当によかった、そう心から思う瞬間です。



H19²⁰⁰⁷年卒業



【筑紫中央】		打安打	数打点
遊中	河野	4	0
三捕	山西	5	1
一投	西宮	4	3
右	宮見	4	0
左	松	2	0
	竹	3	0
	阿	3	0
	野	4	0
	田	5	1
	原	4	3
	崎	4	0
	玉	2	0
	垣	3	0
	瀬	3	0
	川	4	2
	部	3	0
	幸	3	0
	祐	2	0
	大	0	0
	祐	0	0
	輝	0	0
	寛	0	0
	郁	0	0
	子	0	0
計	328	2	

【福翔】		打安打	数打点
中	高白	2	1
遊	川	4	3
捕	村	3	0
左	竹	3	0
一	上	0	0
三	尾	0	1
右	龍	1	0
投	小	1	0
	渡	1	0
	村	1	0
	宮	1	0
	志	1	0
	水	1	0
	木	2	4
	石	3	3
	村	3	3
	上	3	3
	林	2	1
	邊	1	1
	里	1	0
	賀	1	0
	水	1	0
	計	248	5

筑	6	4	4	2	2	10
福	2	8	6	2	1	8
▽三塁打						
二塁打						
川村						
白石						

主 将 松瀬 健吾 阿部 将幸 森 嘉彦
 檜垣 亨 西原 大祐 木屋 翔太
 宮崎 貴大 河野 祐輝 田中 健人
 児玉 寛 竹川 幸祐 高村 郁子



高校野球の三年間を振り返って _____ 主将 松瀬 健吾

今回、記念誌を作るに当たって、なにを書かせてもらおうかと考えた時、

「今の野球部員の3年間は、どのような毎日を送っているのだろうか?」

「オレらの10年前はどのような規則があったのだろうか?」などと、なんとなく思った。

そこで、私が過ごした高校野球の3年間を要約して、他の世代の方々に読んで頂こうと考えた。

1年生時、入部して一番初めの衝撃は、わけがわからない部内のルールの多さだった。

最も理解のできない規則は「1年生は3年生に話しかけてはいけない」だった。それは3年生に用事があるときは2年生を通じないといけないという手間のかかるものであった。他にも「一人称を自分と呼ばなければならない」など細かいしきたりがあったが、なかには「挨拶する際は、止まって荷物を降ろして頭を下げる」等、社会人になった今でも、いい習慣となっているものも当然ある。

またゴールデンウィークには、1年生全員が2年生に学校の目立たない場所へ連れて行かれ、教育という名の説教を1時間強していただいたのは、今でも鮮明に覚えている。コンクリートに正座し、実際になかったことで怒られ、勘違いから怒鳴られたりしたものだ。(その時は来年も自分達が新入生に同じことをするとは思わなかった。)

そうこうしていると夏はあつと言う間に訪れ、初めての大会では1年生は背番号も貰えず、悔し涙もでないまま夏を終えた。

そこから新体制となり、1,2年生だけの練習に励んだ。今までよりも練習は密が濃く、特に記憶に残っているのが「エラーノート」と呼ばれるもので、ノック中にエラーをした者に正の字を書いていき、1,2ヶ月で最も失策の多い者が5厘にするという体罰じみたものであった。一塁手などはキャッチングも含まれるため、送球の悪い人が守備の時は1年生がファーストをさせられていたのは今でも笑い話だ。

2年生になると、新入生が入部し「親子制度」のもと息子と呼ばれる存在ができた。

この「親子制度」と呼ばれるものは、息子になる1年生の失敗は、親である2年生の責任とされ、息子が5厘にする際は親も5厘にするというものだ。なので、2年生は真面目そうな新入生をこぞって息子にしたがるが、ポジションや出身中学などで判別されるため、こればかりは運しだいだった。ちなみに私自身はやらかしもなく、できた息子だったため5厘にする機会はなかった。

2回目の夏の終わりは、もう3年生と野球ができないという悲しみと、最上級生になるという不安でいっぱいの中、主将になりチームをまとめることとなった。

冬の練習では毎日長距離走があり、8キロか10キロは必ず走っていた。しかし、練習時間はとても短く、長距離後にTバッティングと筋トレ等をしたら帰宅できていたので、「中学校の時の方がきつかった」と、なんの自慢かわからないことをいう選手もいた。また重量級の選手は長距離が免除されており、他の部員からずるいと言われたりしていた。

3年生になると夏の大会まで残りわずかとなり、1年生にかまけている時間等はなかった。こういった意味でも「1年生は3年生に話しかけてはいけない」という規則があったのかと思わしめられた。夏の大会前は梅雨空で、雨天時は講堂をランニングや素振り、シャトル打ちなどしかすることができず、屋内練習場がある私学との差にやきもきしたものだ。

そして最後の夏の大会は初戦で福翔高校に6-3で負けてしまい、とても悔しい思いをした。そしてなにより全校応援やOBが来てくれたことに申し訳ない気持ちで胸が痛くなった。

こうして3年間を振り返ると、様々なことを繰り返してきたのだなと感慨深く思い、その中には当然技術として身に付いた事や、あまり効果の得られなかった事まで多岐に渡る。

この練習のコツはこうだな、こうすれば上手いくな、さっきまで対応できたのにできなくなった等の、ちぐはぐな成長というものが高校野球の醍醐味なのではないかと思わなくもない。

趣旨は変わるが、自分自身、現役時代は頑張っていて、やれることはやったつもりだが、一步離れて振り返るともっとできたと思うし、やってなかったことを後悔することばかりである。

現役の選手にはこういった思いをしてもらいたくないため、更なる努力をしていただきたいと切に願う。

PS役に立たないくだらない練習ほど、飲みの席では盛り上がる



H20 2008 年卒業



- 投手 植田 新
- 投手 加藤 慎也
- 投手 黒木教太郎
- 捕手 中嶋 佳晃
- 内野手 小菌 一真
- 内野手 原田 潤
- 内野手 森山 洋光
- 内野手 矢野 健史
- 内野手 渡辺 雄大
- 外野手 中元 恭平
- 外野手 橋野 克也
- 外野手 山田 貴大
- マネージャー 築地裕美子
(旧姓 中山)



1年生大会 2005.10.15 6-5 VS 筑紫台
2005.10.22 2-6 VS 城東

秋季市長杯決勝トーナメント 2006.8.16 0-7 VS 博多工業
九州地区福岡南部野球大会 2006.9.10 2-3 VS 大牟田

九州地区福岡南部野球大会 2007.3.21 6-9 VS 明善
春季市長杯決勝トーナメント 2007.4.7 6-7 VS 純真

第89回全国高校野球選手権福岡南部大会 2007.7.10 1-0 VS 早良
2007.7.12 3-4 VS 久留米筑水

※順不同



筑紫中央野球部あるある

- ① 昼休みにトンボかける
- ② 慣れたら部室の匂い気にならない
- ③ 練習後の校歌自分たちでもなんて言ってるかわからない
- ④ 一方的にサッカー部をよく思っていない(ソフト部は愛す傾向)
- ⑤ やっぱりむっちゃん万十は美味しい
- ⑥ 春日と筑紫にはなんか負けたくない
- ⑦ 正座するならコンクリートの上だ
- ⑧ ノーコンほど石を投げる
- ⑨ イニシャルであだ名つけたがる
- ⑩ 背番号1、11揉めがち(背番号4、14なぜか仲良し)
- ⑪ 主将より副主将が仕切りがち





筑紫中央野球部で学んだこと

小 蘭 一 真

今回の執筆にあたり、理系出身で文章を書くことが苦手な私は、苦楽を共にした野球部の仲間を頼ることにしました。【筑紫中央野球部で学んだこと】を仲間に関かけた結果、なぜか【筑紫中央野球部あるある】が完成しました(笑)。せっかくなのでまとめて掲載しています。

結局、自身の体験談を書くことにした私は、高校野球3年間を振り返りました。一番心に残っている試合は、高校2年秋の九州地区福岡南部野球大会2回戦大牟田高校との試合です。新チームになってもスタメンに入れず、なかばふてくされていた私は「どうせ今日もベンチスタートだろう」とコンタクトもしないまま球場入りしました。「9番セカンド小蘭」予想外のスタメン発表に困惑し、動揺したまま試合が始まりました。

1回裏の守備、無死一塁でセカンドゴロを後逸、無死一三塁と広がったピンチでまたもセカンドゴロをフィルダースチョイス、このエラーをきっかけに2点を先制されました。2回表に回った打席ではエラーを挽回するどころか高めのつり球を振らされ三振。完全な準備不足、地に足がついていませんでした。全く良いところなく交代となりベンチで泣きそうになっていた私に対し、二遊間を組んでいた森山さんから「まだ試合終わってなからうが!俺たちが逆転できんと思っとうとや!」と喝を入れられ、私に代わってセカンドの守備について矢野くんには「俺たちが絶対逆転するけん大丈夫!」と励まされました。この時、準備を怠って試合に臨んだ自分への情けなさやチームメイトへの申し訳なさで涙が止まらなくなったのを今でもはっきり覚えています。中盤、筑紫中央は2点を返したものの惜しくも3-2で大牟田高校に敗れました。私のエラーによる初回の2失点がなければ・・・そんな試合でした。「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」ムードメーカー原田くんの名言です。まさに負けるべくして負けた試合でした。

その後、大牟田高校は順調に県大会、九州大会を勝ち進み、春の選抜高校野球大会に出場しました。甲子園の大舞台で全国から注目を浴びた大牟田高校当時のエース阿部選手は、ドラフト4位で千葉ロッテマリーンズに入団しました。もしあのエラーがなければ、筑紫中央高校が春の選抜に出場し、2枚エース加藤くん植田くん、天才1番バッター森山くん、野球センスの塊山田くん、長距離砲中元くん、歴代No1美人マネージャー中山さんたちが全国から注目を浴びていたかもしれません(笑)。当時はかなり落ち込みましたが、チームメイトの励ましのおかげで、今では

「自分が阿部選手をプロにした」と冗談を言えるようになりました。

「万全の準備を怠らない」大牟田高校戦で得た教訓は、その後の人生、社会人になった今でも生かされています。私にとっては辛い思い出である大牟田高校との試合も、笑い話として語り合うことのできる13人のかけがえのない仲間を一生大切にしていきたいと思っています。



ムードメーカー原田くん他一同



H21 2009 年卒業



福元 貴大 主将	篠原 康太	畠中 勇輔	福田 雄貴
入江 洋一	新内雄一郎	津留崎勇希	福田 由樹
岩谷 侑	高野 公平	永岡 佑樹	藤木 聖也
古賀 貴之	竹崎 大貴	二宮 大樹	横田 大悟
古賀 亮祐			

～ 野球への情熱を注いだ3年間 ～

平成21年卒 主将 福元 貴大

「高校野球=甲子園」野球をやったことがない人でもそんなイメージを持つと思うが、私も小さな時から甲子園に強い憧れがあった。小学生ながらテレビ中継で流れる高校球児のひたむきなプレー、野球というスポーツから生まれるドラマティックな結末に惹かれたからだ。

強豪私学を倒して甲子園に行きたい。そんな思いで筑紫中央高校へ入学したが順風満帆にはいかない3年間だった。むしろ自分たちの代は歴代でも成績を残せなかった世代だった。それは主将であった私に大きな責任がある。卒業して10年経ったがあ那时的上手いかなかった経験、悔しさや劣等感がバネとなり社会人になって活きている。同じ時間を共有した16人の同期も皆そうだろう。今思い返すと高校野球の3年間がとても充実していて、厳しい社会を生きていくためのヒントをたくさん教わったような気がする。あの時支えてくれた同期の仲間や先輩、後輩、そして家族には感謝の気持ちが大きい。

今現役の後輩たちには是非甲子園出場を目標に励んでほしい。不可能なことなど何もないし、エネルギーを野球に燃やしてほしいと思う。そして70周年を迎えた筑紫中央高校の野球部であることに誇りを持ち、100周年へ向けて次の世代に良い伝統を繋げてほしいと切に願う。





H22²⁰¹⁰年卒業



<p>投手 田島一輝</p> <p>寡黙な表情の裏には誰にも負けない熱い闘志を持つチームの大エース。</p>	<p>投手 前川慎太郎</p> <p>下手投げの安定感抜群ピッチャー。仕事も安定感ある公務員。</p>	<p>捕手 田中壮史</p> <p>鍛えた身体でチームを引っ張る肉体派キャプテン。</p>	<p>捕手 桑原智紀</p> <p>大きな懐でチームのすべてを受け止めるゴッド・キャッチャー。</p>
<p>一塁手 渋谷典幸</p> <p>ミート力はチーム随一、高い出塁力と守備力が魅力の選手。</p>	<p>一塁手 井上哲也</p> <p>優しさが目立つオールマイティ。特にかつ独自の世界観を持つ。</p>	<p>二塁手 松本大志</p> <p>攻守ともに高レベルだったが手を抜く天才。主将の天敵。</p>	<p>二塁手 秋山誠</p> <p>ダルビッシュ有投手を部内で唯一打てると噂されたチームイチの意外性男。</p>
<p>二塁手 牛崎翔太</p> <p>野球に注いだ情熱と努力はチームトップ。好きなスポーツはゴルフ。</p>	<p>二塁手 齊藤一馬</p> <p>二・遊をこなす、小技が得意な守備職人。大学進学を機に福岡を捨てた。</p>	<p>二塁手 中田賢志</p> <p>身体は小さいが堅実な守備を誇る、練習後部室内のパン配給人。</p>	<p>三塁手 池田勇氣</p> <p>豪快なスイングと爽やかな笑顔で沸かせる長距離バッター。学年イチのモテ男。</p>
<p>三塁手 中村大希</p> <p>いやらしい打撃と堅実な守備を誇る、学内での目線が一番いやらしい選手。</p>	<p>遊撃手 深川大樹</p> <p>野球がチームで一番上手い中核選手。プレーで引っ張る副キャプテン。</p>	<p>遊撃手 馬越一喜</p> <p>細い身体の中に太い芯を持ち、チームを勝利に導く羅針。</p>	<p>左翼手 増田雄太</p> <p>突出した野球センスと甘いマスクで女子にモテモテの副キャプテン。</p>
<p>中堅手 福田大貴</p> <p>普段からいじられ放題の、頼れる切り込み隊長。野球が全てだった男。</p>	<p>右翼手 上里龍平</p> <p>助っ人外国人級の身体能力とパフォーマンス力を持つ純日本人。</p>	<p>右翼手 霜出健太</p> <p>ミスターいぶし銀。今もなお一本にかける気持ちは熱い、焼鳥屋の店長。</p>	<p>右翼手 瀬尾和明</p> <p>外野手で唯一のまともな人間。マイペースの両打ち天才バッター。</p>
<p>マネージャー 木下貴恵</p> <p>チーム屈指の野球愛。あらゆるフォローでチームを支えるマネージャー。</p>	<p>マネージャー 植田実央</p> <p>陰ながらチームを支える素敵な笑顔の持ち主。</p>		



◇主将の想い ～当時、そして現在～

高校三年生の最後の夏。

福岡県大会南部予選の第二回戦で東福岡高校戦に敗退し、私たちの代は高校野球生活を終えました。

私が今でも鮮明に覚えているのは、高校球児としての現役を終えたことを受け入れることができずに、主将としてこれまでの御礼を述べる父母会での冒頭で、次のようなことを言ったことです。

『まだ、高校野球人生が終わった実感がなく、また明日から次の大会に向けて練習を頑張っていこうという気持ちしかありません。』

そのように思ったのは、まぎれもなく私の高校生活が野球一色であり、部員と野球をする時間が何よりも充実した時間であったからだと思います。

チームメイトとは良きライバルであり、まるで兄弟のように何でも言い合いました。同じ喜びや悔しさを分かち合った私たちの絆は一生ものであり、今もなお毎年何か理由を作っては集まり、当時の思い出を酒の肴に笑い合い、野球部を卒業して10年経つ現在でも、当時と変わらない距離感で過ごしています。

高校生活の中で『野球』という一つのことから逃げ出さずに向き合ったからこそ、そこに集ったかけがえのない仲間とともに、苦楽の経験を伝統ある筑紫中央高校野球部で過ごせたことを誇りに思うと同時に、本当に感謝しています。



H23²⁰¹¹年卒業



秋季市長杯予選リーグ

一試合目	2-4	VS博多工業高等学校
二試合目	4-5	VS早良高等学校
三試合目	2-2	VS修猷館高等学校
四試合目	2-8	VS春日高等学校
五試合目	2-10	VS武蔵台高等学校

公立大会

一回戦	2-1	VS福岡中央高等学校
二回戦	0-4	VS筑紫丘高等学校

九州地区 福岡南部野球大会(秋季)

一回戦	0-7(8回コールド)	VS福岡工業大学附属城東高等学校
-----	-------------	------------------

春季市長杯

一回戦	2-1	VS城南高等学校
二回戦	9-4	VS中村三陽高等学校
三回戦	0-6	VS博多工業高等学校

第92回 全国高校野球選手権 福岡南部大会

一回戦	6-4	VS久留米学園高等学校
二回戦	0-8(7回コールド)	VS福岡工業大学附属城東高等学校



福永達也(副主将)

胸を高鳴らせて入学した高校1年の春、私は高校で野球が出来ることが楽しみで仕方なかった。入部する部活を決める仮入部の期間、野球部にもそれなりの人数が集まっていた。しかし、先輩たちから昼のグラウンド整備や校内での挨拶、その他数えきれないほどの細かい規則があることを聞かされ、入部希望者は激減。一度は入部を決めていたがその後先輩たちの指導がきつく逃げ出すものもあり、結果残ったのはたったの10名であった。その間、私も何度も辞めたいと思った。しかし、この厳しい環境の中で逃げださずに頑張れたのは、他でもない野球部の仲間のおかげである。10人という少ない学年であったが、少ないからこそその強い結束力が私たちにはあった。きつく苦しいことも多かった3年間であったが、私たちがこの3年間で野球の技術はもちろん、挨拶や周りへの気配り、道具を大切にする心、忍耐力、そういった人としての在り方を多く学ぶことができ、人間的に大きく成長できた。これからの人生何か困難にぶつかった際には、ここで得たものを糧に、何事も諦めずに挑戦していきたい。



花田健史郎(投手)

長身で小顔。明るくてみんなのムードメーカー。不動のエース。

川元崇志(投手)

右のエース。伸びのあるストレートとキレのあるスライダーで三振の山を築いた。

岡部 誠(捕手)

理系からの刺客。途中入部ながら捕手、三塁手と重要なポジションを任された。学業も優秀だが本物の天然。

山口滉樹(一塁手)

チーム一の長身。ノビのある守備とバッティングで、常にクリーンナップを牽引。

吉柳諒一(二塁手)

勝負強さはチーム一。チャンスで常に結果を残してきた。引退してかなり太ってしまう。

福永達也(二塁手)

グラウンドに轟く声は日本一。ガッツあるプレーでチームに流れを引き寄せる。口癖は「あ、いかん」。

仲尾優作(遊撃手)

野球を誰よりも愛する男。守備に定評がある選手だが、当て捕りにこだわるあまりエラーすることもしばしば。

井崎悠介(外野手)

筑中野球部の東野。高校時代はチーム一早くiPhoneを使い始めた強打の外野手。現在、針の穴を通すコントロールをもつ投手として活躍中。

水落光哉(外野手)

個性豊かな部員をまとめるキャプテン。持ち前の俊足と巧打で1番打者として躍動した。

木村正彦(外野手)

新しいバットを購入したことで爆発的な成長を遂げ、最後の夏はの大会では3番打者として活躍。

久保俊哉(外野手/一塁手)

大きな声と細かい気配りでチームを支える。何事にも真面目に全力プレー。

新内彩日(マネージャー)

みんなの優しいお姉さん。いつも笑顔で器用になんでも仕事はこなします。



H24²⁰¹²年卒業



(主将)捕手 岩見亮平

高校時代は良い思い出はあまりなく、監督やマネージャー、後輩含む支えてくれた方々にただただ申し訳ないという思いばかりです。しかし、高校時代の経験がその後の大学野球や社会人生活に活かしています。あの時にたくさん負けたからこそ大学は強いところでやりたいと考えたし、簡単に諦めることはなくなりました。高校時代を一緒に過ごしてくれた同級生、先輩、後輩に感謝しています。ありがとうございました。

(副主将)遊撃手 須藤一弥

高校野球の思い出と言えば、きつい練習やみんなでバカやってたことです。今となればきつかった練習も笑い話にできてるのもそれだけ充実した日々を過ごせていたのかなと思います。高校野球を通じて努力することの大切さ、努力しても実らないこともある厳しさ、ひとつの目標に向かって一緒に頑張れる仲間の大切さを知ることができ自分にとってとても大きな経験になりました。

(副主将)外野手 福永健司

細かい規則、厳しい先輩方からの指導を経て始まった高校野球生活。規則と指導に慣れず辞めていく部員も多かった。私も入部仕立ての頃、何度も辞めようと思ったが、仲間の励まし、支えもあり、3年間続けることができた。野球に明け暮れた3年間であったが、とても充実した高校野球生活でした。

三塁手 久保山 智弘

高校での野球生活。自分が思うようにいったことなんて少なかったと思います。それでも朝から練習し夜遅くに帰ったこと、正直今の自分には本当にそんなこととしていたのかわからないくらい野球が好きでその高校野球生活に熱中していました。結果がどうあれとかではなく上手くない中で自分なりに試行錯誤考え行動していました。それがいかに今大事なことが今だからこそ分かるし、あの時に知りたかった。今でも思い出します。あの夏に戻りたい。

外野手 中村 健太郎

二年生時夏大会終了後の新チームになる時、肺炎にかかり、最初の大会の新人戦に出られなかったこと。打つ時ほとんど当てるバッティングだったこと。
学んだこと: 挨拶や礼儀の大切さ。

外野手 姫野 翔

一年生大会。同学年のみで、試合をするのは、この大会だけ!9人で試合できたこと、それだけで思い出深い!試合は、打撃時間より、少しばかり守備の時間が長かったが、とてもいい試合だった!試合できたことに感謝!

投手 村山 健太

エース(仮)を務めてました村山です。高校時代の1番の思い出は最後の夏の大会です。初戦敗退で終わったのが悔いです。初戦を突破していれば第2戦は全校応援で、学校は公休。クラスメイトからは恨まれました。全校生徒から応援されたかったですね。私の力不足でした。高校野球があったので今も野球を続けられています。"好きこそ物の上手なれ"この言葉だけを信じて野球を続けてきました。きついことだらけでしたが、今では酒のつまみです。ありがとうございます。

二塁手 山下 仁

高校野球を通して学んだことは、日々努力を積み重ねるという事。結果が出る時もあれば、もちろん上手く行かない事もあった。いつも共に練習するパートナー(サード久保山)がいたからこそお互い切磋琢磨し、3年間努力を積み重ねていく事が出来た。その分結果が付いてきた時の喜びは大きいものだった。

捕手 秋吉 賢和

高校野球を通して学んだことは、人に言われたことをするのではなく、自分で考えて行動する力です。
このことは、高校卒業した後に生かされています。
また、苦楽を共に過ごした大切な仲間とも出会い、今でも連絡を取り合っており、楽しい時間を過ごせています。

マネージャー 川邊 美幸

今でも野球部のマネージャーになってよかったなと思うのは、すぐに思い出すことのできる楽しい思い出があることです。私がやっていたことは特別なことは何もないし、微々たるサポートだったけれど、一生懸命頑張る部員のみんを目の前で見ることができたのは学生時代の宝物だと思います。





H25²⁰¹³年卒業



<p>主将 右翼手 高橋亮丞</p> <p>チーム1熱い男で、頼れるキャプテンだった。筑紫中央グラウンドでの彼のホームランは、今でも忘れられない。</p>	<p>副主将 二塁手 村上雄馬</p> <p>不動の一番。切り込み隊長として頼りになるセカンドだが、そんな彼も一年生のときにみんなに頼られて耐え切れず泣き出してしまった過去がある。</p>	<p>投手 大部隆二</p> <p>チームの絶対的エースとして活躍。練習中は誰よりもストイックで後輩からの信頼も厚く、ユーモア溢れる性格でチームのムードメーカーでもあった。</p>	<p>一塁手 牛島直紀</p> <p>試合では持ち前の勝負強さを発揮し、常にチームの中心選手であるような頼りになる男だった。</p>
<p>三塁手 堤田光一</p> <p>サードは、俺に任せとけ。強い打球も華麗にさばく、走攻守そろった器用なムードメーカー。</p>	<p>遊撃手 岡部真也</p> <p>昭和の雰囲気を持ち味。小柄ながら複数のポジションをこなし、チームを救うマルチプレイヤー。</p>	<p>左翼手 兼安健太</p> <p>筑紫中央不動のクリーンナップ。俊足、強肩、強打にパーフェクトプレイヤー。そんな一面とは裏腹にみんなを癒すスマイル。</p>	<p>中堅手 加隈卓人</p> <p>メンバー1“左を使いこなした男”。速球、強打、強肩、走攻守兼ね備えた唯一のサウスポーで、クラスの女子の人气が絶大。</p>
<p>外野手 高倉匡平</p> <p>チーム唯一の外国人枠選手。走攻守すべてがハイレベルで、外見とプレーで対戦相手の脅威になった。</p>	<p>外野手 霜出直人</p> <p>俊足、巧打、強肩、走攻守兼ね備えた外野手。保護者層の人气が絶大。</p>	<p>外野手 鐘江勇介</p> <p>筑紫中央が誇る代打の切り札。イケメンでチームを盛り上げてくれるクールガイ。</p>	<p>投手 小出勝也</p> <p>体格には恵まれていないが、周りに気を配ることができ皆から信頼される男。</p>
<p>内野手 中島佑太</p> <p>俺らの代のムードメーカー代表。パンチ力と持久力はチーム1。笑いとK班でわからないことは中島まで。</p>	<p>外野手 福盛湧基</p> <p>外野フィールドを司る神と称えられた外野神。右手に隠し持ったボルトで男子トイレを破壊した武勇伝あり。</p>	<p>外野手 松本優大</p> <p>周りをよく見ており、仲間の相談に乗るような優しい一面もある。見た目は強面、中身は優男、その名も松本優大。</p>	<p>マネージャー 福山愛梨</p> <p>頭脳、運動神経、美貌、まさに三拍子揃った最強マネージャー。ときには、部員のオアシスとなり、またときに垣間見えるスッ気部に部員全員が虜になっていた。</p>



筑紫中央	
投捕	大高 隆二④
一	牛島 直紀③
二	村上 直雄③
三	田村 真也③
遊	岡部 兼安③
左	加藤 卓人③
中	高橋 秀平②
右	阿高 匡平③
控	高倉 直勇③
◇	霜出 江介③
◇	川崎 孝生②
◇	小出 勝也③
◇	福盛 佑太③
◇	松本 清大③
◇	重松 孝季②
◇	川山 平②
責任教師 田村 聡彦	
監督 杉井 泰之	

公式戦成績

- 平成22年 福岡地区一年生大会 1-2 東福岡高校(延長10回)
- 平成23年 公立大会 0-3 筑紫丘高校
- 秋季市長杯予選リーグ① 1-5 筑紫台高校
- 秋季市長杯予選リーグ② 0-10 冲学園高校
- 九州地区福岡南部野球大会 1-9 西南高校(8回コールド)
- 平成24年 九州地区福岡南部野球大会 9-1 大川樟風高校(7回コールド)
- 九州地区福岡南部野球大会 3-4 城東高校(延長11回)
- 春季市長杯高校野球大会 6-5 筑紫高校
- 春季市長杯高校野球大会 8-0 香椎工業高校
- 春季市長杯高校野球大会 6-7 大濠高校(延長11回)
- 第94回 全国高等学校野球選手権福岡大会南部予選 0-1 柳川高校



主将の思い出とエピソード ～今の自分があるのは～ 高橋 亮 丞

今、自信を持って言えること。「甲子園だけが高校野球ではない」、そして、死ぬ気で駆け抜けた3年間は無駄ではなかった。「野球漬けに人生ではない。でも高校生活3年間は何よりも野球に時間を費やした。」これに尽きる。

人生をスコアボードで例える。これは私が中学校の恩師に教えられた言葉。誰よりも努力したのに結果が出ないとき。思うようにチームが一つにならないとき。何もかもうまくいかないとき。高校生の私は、こんな困難なときにうまく回避できる技術なんてある訳がない。そのときは今の自分がきつい。もう自分の人生これからどうなるかなんてまで考えることもある。これがすごくちっぽけ、狭い世界で物事を捉えるなんて気付くはずもない。でもその時間を諦めずに、がむしゃらにとにかく自分と仲間を信じて駆け抜けた。「俺はできる、俺たちはやれる」と言い聞かせてとにかくやるべきことを全力でやり続けた。その日々が、勝利や甲子園よりも大きなものを得ることに繋がった。あの辛い日々があったからこそ、この先の人生で辛いことがあっても活かすことができる。この日々得たものが、紛れもなく自分の人生の大きな武器になった。

まだ私のスコアボードなんて、3回表ぐらいだ。まだまだ人生これから、逆転のチャンスはいくらでもある。試合で負けてもこれからの人生の勝負には勝てるのではないかな。

戦う準備は整った。私には、3年間で得たものがある。経験、思い出、仲間。これから立ち上がるどんな困難にも、自信を持って立ち向かおうではないか。



H26²⁰¹⁴年卒業



公式戦の戦績

2012年 福岡地区1年生大会

1回戦 10月10日 於:小郡市野球場

筑紫中央	0	0	0	8	0	0	0	0	0	8
早良	0	0	1	0	1	4	0	1	0	7

2回戦 10月15日 於:福岡農業高校

筑紫中央	1	0	0	0	0	0	0	0	1
東福岡	2	1	1	1	0	0	3x	8	

2013年 第131回九州地区高等学校野球大会

1回戦 9月9日 於:春日球場

八女農業	0	0	0	0	0	0	0
筑紫中央	0	1	5	4	x	10	

2回戦 9月22日 於:久留米市野球場

筑紫中央	0	0	0	1	0	0	0	0	1
古賀竟成館	0	0	1	0	0	0	1	0	0
								0	2
								1x	3

2014年 第132回九州地区高等学校野球大会

1回戦 3月23日 於:春日球場

春日	2	3	0	0	0	0	2	2	9
筑紫中央	0	0	0	0	0	1	0	0	1

2014年 第95回全国高等学校野球選手権大会

1回戦 7月7日 於:大牟田延命球場

筑紫中央	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
博多	0	0	0	0	0	0	2	1	x	3



阿部秀平

非凡な打撃センスを持つ
筑紫中央のヒットマン

宇津宮勇氣

投・内・外をこなす筑紫
中央きっての万能選手

川崎孝生

堅実な守備を誇る遊撃手
1番打者として活躍

川山凌平

俊足巧打の主軸打者
公式戦にめっぽう強い

神代晟治

変則サイドハンド
シュアな打撃も魅力

國分康稔

スピンの効いた直球
ストイックな努力家

重松孝季

温和な性格とシャープな
打撃が魅力の一塁手

高木 駿

当代主将
誰よりもチームを思う

能丸楓矢

神出鬼没の韋駄天
チームのムードメーカー

吉村 勝

ガッツあるプレー
チーム1持ってる男

山田 歩

小柄ながらセンスが光る
チーム1のバント職人

飯田紗彩

手際よく仕事をこなす
頼れるマネージャー



不撓不屈



H27²⁰¹⁵年卒業



全員野球



〈選手紹介〉

投手：野崎隼介・柴田聖矢(副主将)・松尾健吾

捕手：石垣智聖(主将)・岡部隼太(副主将)

一塁手：稲田雄太郎・西村祐輔

二塁手：本田悠斗・大岡篤司・山崎哲・木下大輔

三塁手：島優之

遊撃手：徳永一真・永田恭平

外野手：松木航・宮崎力汰郎・宮本賢成・横山拓也・坂本博庸

マネージャー：池江杏奈



筑紫中央

部長	田村	聡弥		
監督	梶井	泰之		
投	野崎	隼介③	春日	西
捕	石垣	智聖③	春	吉
一	稲田	雄太郎③	花	畑
二	本田	悠斗③	野	間
三	津山	史也②	春	日
遊	徳永	一真③	平	野
左	宮崎	力汰郎③	野	陵
中	松木	航③	花	畑
右	山下	將吾②	野	間
控	柴田	聖矢③	春	日
カ	松尾	健吾③	野	間
カ	宮本	賢成③	水	大
カ	西村	祐輔③	春	日
カ	大岡	篤司③	野	間
カ	島	優之③	春	日
カ	永田	恭平③	住	吉
カ	岡部	隼太③	春	日
カ	山崎	哲③	大	野
カ	吉立	幸大②	野	間
カ	横山	拓也③	学	業
			院	高
			高	宮

〈第96回全国高校野球選手権 福岡大会〉

2回戦 7-0(7回コールド) VS 有明工業高等専門学校

3回戦 8-4 VS 福岡農業高等学校

4回戦 1-4 VS 久留米学園高等学校

野球部の思い出 池江杏奈(マネージャー)

「あなたの人生で1番の出来事は?」と聞かれると、私は迷わず「筑紫中央野球部と過ごした3年間」と答える。私は高校入学後、幼少期から憧れ続けた野球部のマネージャーを目指し、迷うことなく筑紫中央野球部への入部を決意した。朝早くから響く自主練の音。校舎に鳴り響く野球部の挨拶の声。日が沈むまで響く練習の音。そんな1つ1つの日常が私の活力であった。無私無欲に駆け抜けた3年間。マネージャーの経験を通して人の為を思い行動する喜び、感謝の言葉を頂ける喜び、仲間がいるという喜び、思い通りにいかない部員との壁など、高校野球は私に様々な感動や試練を与えてくれた。今の私を作り上げたものは紛れもなく、高校野球に捧げた3年間である。そして何より“宝物”それは“仲間”である。高校野球で繋がった仲間を大切に、また野球を通じて関わらせて頂いた方々への感謝を忘れずに筑紫中央野球部員として人生を歩んでいきたい。いまでも、これからも“全員野球”で。

↓我が親分





野球部の思い出 石垣 智 聖(主将)



高校2年生の夏に先輩方が引退し、主将になりました。個性の強いメンバーが揃っており、私がチームをまとめられるか、正直不安しかありませんでした。新チーム始動後、なかなかチームは勝つことが出来ず、悩む時期もありましたが、ミーティングでの話し合いや、マネージャーのサポートのおかげで、徐々にまとまりのあるチームになってきました。チームスローガンである“全員野球”を1人1人が大切にすることで、勝てるチームになったと思います。3年間、全力で野球に取り組み、また、最高の仲間とともに戦えたことは自分の財産です。“全員野球”で培ったチームワークは歴代最高だと思います!この代で、主将としてプレーできたことを誇りに思う!ありがとう!



↑速報!甲子園への道



↑マネージャーから、ラストバレンタイン!



↑高校最後の夏in 能古島





H28²⁰¹⁶年卒業



<p>投手 古立幸大</p> <p>中央の主将。打撃では左の長距離砲として打線を引っ張り、投げでは内を攻める強気のピッチングでアウトを量産していた。マウンドはいつも甲子園。</p>	<p>投手 高田健太</p> <p>変則フォームから繰り出されるムービングボールは、真ん中に来ても芯を外される。チーム1のイケメンでありながら、体育祭のリレーで転倒するなどお茶目な一面も垣間見えた。</p>	<p>捕手 清水宏基</p> <p>入学当初は外野に打球が飛ばす悩んでいたが、三年の夏の大会では4番キャッチャーを務めた。チーム1の努力家で責任感がある。</p>	<p>一塁手 金子大真</p> <p>左の代打の切り札で選球眼がよい。チームの縁の下の力持ちであり、お父さんの存在。体育祭実行委員長を務めるなど責任感が強い。</p>
<p>一塁手 柿本大地</p> <p>チーム1大きな体から繰り出されるパワーは規格外。右打者から左打者に転向してもパワーは健在だった。野球用品にとっても詳しい。</p>	<p>二塁手 荒川大地</p> <p>中央の元気印。顔面にデッドボールが当たったり、授業で指を負傷したり、など多くの歴史を残した。五厘の回数は、28年卒の中では1位である。</p>	<p>二塁手 坂本 溪</p> <p>俊足が持ち味でセーフティバントが得意。野球以外にもその俊足は活かされていた。</p>	<p>二塁手 森 真斗</p> <p>中央の副主将でチーム1のセンスマン。野球以外の競技も得意で、彼の華麗なプレーに魅了された。彼を一言で表すならばファンタジスタ。</p>
<p>三塁手 松本和也</p> <p>内野のほとんどを守れる器用な選手。野球をするのも好きだが、見る方がもっと好きである。</p>	<p>遊撃手 津山史也</p> <p>小柄な体を生かし、素早い守備ができる。1年生の頃からベンチ入りするなど非常に野球センスが高い。しかし、恥ずかしがり屋である。</p>	<p>左翼手 武本雅大</p> <p>絶大なミート力とここぞという勝負強さを兼ね備えたバッティングが持ち味。しかし、大事な場面で転んでしまう守備もあった。</p>	<p>左翼手 町田和生</p> <p>チームを和ませるワードセンスと雰囲気をも併せ持つ。恵まれた体格による強肩とスイングは一振り相手をねじ伏せるものだった。</p>
<p>中堅手 山下将吾</p> <p>デッドボールのプロフェッショナルだった。差し出す時の軌道は誰も真似することができない。ルールのギリギリを狙ったデッドボールは、かの有名な達川捕手のようなだった。</p>	<p>中堅手 中谷 仁</p> <p>足が速くランニングホームランを打ったことがある。お菓子作りが趣味でよく美味しいお菓子を作って持って来てくれた。</p>	<p>右翼手 佐藤諒平</p> <p>俊足の持ち主。外野ではその足を生かした守備を見せていた。バッティングでは華麗な右打ちを披露してくれた。一言で笑わせるセンスを持っておりチームの笑顔にも貢献した。</p>	<p>右翼手 水谷竜也</p> <p>ヘッドスライディング技術はチーム1。数々の名言と逸話を残したチームの盛り上げ役。赤いタオルを使いアントキの猪木のモノマネをよく披露していた。</p>
<p>マネージャー 松尾 かつり</p> <p>部員のお母さんの存在である。手作りのパンナコッタがとても美味しい。部員のことを一番に考えていた。</p>			



公式戦の成績

平成25年 秋 福岡地区一年生大会 0-7 筑前高校
 平成26年 秋 第1回福岡地区高校新人野球大会 0-9 香椎高校
 第135回九州地区高校野球 福岡南部大会 2-0 伝習館高校
 2-11 沖学園高校
 福岡地区公立高校野球大会 6-0 筑紫高校
 18-2 福岡農業高校
 4-0 光陵高校
 1-5 香椎高校(第3位)
 平成27年 春 第136回九州地区高校野球 福岡南部大会 6-1 八女農業高校
 1-6 玄洋高校
 福岡地区高校野球大会 0-7 福岡高校
 夏 全国高校野球選手権 福岡大会南部地区 10-11 筑紫高校



平成28年度卒 主将 古立 幸大(福岡大学)

はじめに、この記念誌の作成などにご尽力頂いたOBの方々に感謝申し上げます。また、私たちが現役の頃様々な形で支援をして頂いたことにつきましても心より感謝申し上げます。

平成28年度卒 野球部一同

私が、高校生活の三年間で得たものは素晴らしい仲間と悔しさです。

私たちの代は、17名で一人一人の個性が強すぎて幾度となく衝突していました。1人は、その強い好奇心と負けん気から色々なところで厄介ごとを起こし、1人は、部をまとめる役職でありながら持ち前の自由奔放さで私を困らせ、1人は、目を離すとすぐに手を抜くといったまとめるのに骨が折れる者たちの集まりでした。しかし、ここが踏ん張りどころという時の集中力は他の代の方々にも劣らない力があつたのではないかとそう感じています。

このような素晴らしき仲間を持ちながら、三年最期の大会では、練習試合では必ず勝っていた相手に初戦で敗退するというなんとも後味の悪い負け方で私たちの高校野球は、終わりを迎えました。最期の大会が終わった後の数週間は、負けた実感が湧かずにいました。私が、主将でなければこのチームはもっと勝てたし、もっとまとまりがあり強かつたのではないかと、そんなことをずっと考えていました。悔しさを、思い出して一人で泣いた日もあつたかもしれません。しかし、さすが三年間ともに戦ってきた素晴らしき仲間、「お前が主将でよかったよ。」と声をかけてくれて、とても嬉しかったことを忘れることはありません。本当にありがとう。

このような素晴らしい経験を積ませてくれた筑紫中央高校に、そして野球部にさらなる発展が訪れることを心より願っております。



H29²⁰¹⁷年卒業



主将	投手	三浦	功大
副主将	三塁手	近藤	大諒
副主将	外野手	今田	祐貴
副主将	捕手	佐藤	僚大
	一塁手	伊賀上	誠司
	三塁手	五十嵐	駿牙
	二塁手	池口	健人
	投手	伊藤	巧生
	三塁手	上田	倅清
	外野手	緒方	功輝
	二塁手	貝田	虎秀
	一塁手	片田	健太
捕手	一塁手	久保内	哲史
	外野手	市山	尚己
	外野手	杉本	燎基
	外野手	中村	祐晃
	投手	樋渡	洵平
	二塁手	森山	斗奈
投手	外野手	吉積	
	二塁手	毛利	
マネージャー		小川	



あっという間だった高校野球

平成29年卒 主将 三浦 功大

本当に高校3年間があっという間だった。野球に勉強、そして学校行事。色んなことがあったが、やはり1番充実していたのは高校野球。毎日の練習、試合が今となってはとても充実していたものだと実感が湧く。

僕は、2年生の頃から投手として投げさせてもらっていた。まだ2年生という立ち位置もあり先輩達がいるおかげでのびのびと野球が出来た。結果、福岡地区の公立高校大会ながら投手として投げ、ベスト4という成績も残せた。先輩達が引退し、自分達の代。僕は主将となった。投手として、そして主将として責任を持ってやり切ることを決意した。初志貫徹というチームテーマのもと日々練習した。しかし、そう上手くはいかなかった。自分達の最初の秋季大会でなんと右肘靭帯部分断裂損傷をやってしまった。これからという時期に本当にやってはならないことをしてしまった。悔しいというかチームに本当に申し訳なかった。当分投げられず途方に暮れた。そこで支えになったのはチームの仲間だった。野球というのは全員野球。一丸となってこそ勝利をもぎ取れる。皆が一人一人やるべきことを考え行動してくれた。冬の練習も皆で支えあって乗り越えてきた。確かに、人それぞれ個性があり色んな方向にベクトルが向き、お互いぶつかることもあった。しかしそこはチーム皆でもう一度話し合い一つ一つ問題を解決してきた。最後の夏が近づくとつれ、意識が高まっているのがとても実感出来た。結果、僕は夏の最後の大会に完全とまではいかないが間に合うことが出来た。試合には負けたが、本当に良い試合が出来たと思う。辛い時も楽しい時も共に支え合えたこの仲間に出逢えたことに本当に感謝している。

何かをすることにおいて、必ずお互い壁にぶつかると思う。しかしそういう時は一度考え直し、何が問題なのか一つ一つ解決していくことが大切だと思う。お互いが尊敬し合える、そんな関係を目指して欲しい。そして、壁を乗り越えて、勝利へと近づいて欲しい。





H30²⁰¹⁸年卒業



主将	捕	染矢 敬太	一	出水 望己
副主将	遊	中嶋 泰至	一	冨永 真生
副主将	外	新田 陸登	外	中村 路安
			二	西村 直樹
	投	井上 透	外	林 文斗
	二	今井陸太郎	外	堀 亘希
	二	上田 郁海	外	美山 大季
	投	川上 峻平	外	森 和義
	三	木下雄一朗	外	森 竜之佑
	二	江田 寛市		
	三	嶋崎 皓太	マネージャー	中野 実咲
	三	谷本 遼太		

～ 感謝 ～ 平成30年度卒 染矢 敬太

今、高校3年間を振り返るとさまざまな思い出が蘇ってくる。一番蘇ってくるのはやはり高校野球である。

私は、1年生の夏からベンチ入りをさせていただき、1年生の秋からは捕手として試合にずっと出場させていただいた。初めはうまくいかないことの方が多く、試合に出るは先輩方の足を引っ張り、学年のリーダーであったが学年をまとめることすらもできていなかった。2年の夏、一回戦で負けてしまったが、何もすることができなかった。悔しくて申し訳ない思いでいっぱいであったが、先輩方は責めることなくありがとうと言ってくれた。その言葉を胸に新チームからは主将として頑張ろうと決意した。新チームが始まってからも苦勞する日々ではあった。辞めたくなった時もあった。感情そのままにみんなにぶつかり、嫌な思いをさせたこともあったと思う。でもみんなはついてきてくれた。尖っていた自分に対して少し恥ずかしく情けないと思った。みんなとの距離が縮まり、本音で話せるようになった時からみんなのベクトルが同じ方向を向いたと思う。春からチームは強くなったと実感することが出来た。皆が勝つことに貪欲になり、チームの為に戦っていたからだと思う。6月には全校応援もあり、一生あんなに多くの人から応援されることは無いだろうと思った。夏は県大会は逃したものの悔いはなかった。悔いよりも感謝の気持ちが一番大きかった。これまで支えてくれてついてきてくれた仲間、本気で指導してくださった先生方、どんな時でも応援してくれた両親など1人では高校野球はできなかったからこそ強く感じた。

私はこれから一生付き合っていくであろう仲間と出会えたことに感謝し、自分の道を進んでいきたいと思う。これからの自分の人生は今まで自分が多くの方々に支えられてきた分、誰かのために仲間のために、今の自分に出来ることからやっていきたいと思う。





子供たちの可能性を信じて

十七代 監督
二十四代 野球部長

林 田 忠 雄

本年度赴任してこられた江口校長先生は、精力的に日々の授業や学校行事を参観され、日々生徒理解に尽力されている。江口校長先生は本校生徒を、「こんなに純粹で真面目な生徒をこれまで見たことがない」と評価されている。私も同じ評価である。

本年度入学の一年生は、入学式後数日で宿泊体験学習、ゴールデンウィークも終わり学校生活も少し落ち着いたと思ったら卒都祭と密なスケジュールであった。しかし、先生方の指導を忠実に実現しようと努力する姿勢、日々の挨拶、感謝の表現などみんなで声を掛け合って行動する姿が印象的であった。

このような土台を持ち合わせた生徒は、森山監督のきめ細かで、厳しくもあるが愛情に満ちあふれた指導を受けた生徒がどのように成長していくだろうか？ この成長を見届けることがここ数年の私の楽しみになっている。各野球部員が持っている課題を十分に把握され、課題が改善されるまで決して諦めない。このような森山監督の姿勢は、私自身の教育活動にも大きな影響を与えている。

先日、学校行事で本校OBの小柳陽（コストコ久山倉庫店店長）が本校生徒に向けて講演をされた。その中に、勉強はしておいた方がいい、答えに到達できなくても、その過程が社会においては必要である。高校までは、テストの点数で評価されるが、社会では、点数化されず目に見えない部分、答えに到達するまでの過程で評価される。しかも、これは社会では誰も教えてくれないことだと生徒たちに熱く語っておられた。まさしくその通りだと思った。

森山監督は、この答えに到達する選択肢を十二分に準備され、自分たちで考える環境をしっかりとつくりられている。このような指導を受けた筑中生が、甲子園に出場し、社会で活躍する様子を見れる、このような教員冥利に尽きる体験を森山監督なら実現してくれると信じている。



《予祝(よしゆく)》～未来は〇〇で作られる～

二十三代 部長
十三代・十八代 監督
昭和55年卒

森 山 博 志

「やりました～～!!」「なんと!! なんと!! なんと!!」
「筑紫中央高校、夏の大会初優勝です!!」「おめでとうございます!!」
「逆転に次ぐ逆転、そして最後は大逆転でのサヨナラゲーム!」
「筑紫中央高校の選手、全校応援のスタンドは歓喜の渦に包まれています。」
「奇跡の大逆転を目の当たりにし、観客も思わず涙し拍手の大合唱を贈っています。」
これは、私がよく夢に見る優勝シーンです。
しかし現実には、こんなに都合よく行くのでしょうか?

奇跡が起こる時、心はプラスの状態です。つまり、夢が叶う時の方程式は、「目標(夢)」×「ウキウキ・ワクワク」(喜び)＝「叶う」なのです。

この喜びを作り出すのに最適なのが《予祝》です。(予祝:未来を先に喜び前祝をすることで現実を引き寄せる。)

この《予祝》をして、夢を叶えた人たちが沢山います。

歌手になるために上京した青年は夢を諦めかけて帰郷しました。その息子を見たお母さんが、なんとその場で「紅白出場おめでとう!」と祝杯をあげました。すると大ブレイクしたのです。そう、母校の先輩である武田鉄矢さんの話です。

高校野球では、夏の地方大会前に「甲子園出場おめでとう!」のビデオを作り、甲子園初出場を果たした学校。他にもフィギュアスケート金メダリストの羽生結弦選手、ソフトバンク創業者の孫正義さん、発明王エジソンも「それをすでに発明しました。」と《予祝》の技法を使っていたそうです。

「未来を言い切ることから奇跡は始まります。」

今、現役の生徒達は、感謝・素直・笑顔・元気・スピード・勇気・覚悟・挑戦・自信・加点法・いいね!など、心の状態がプラスになる取り組みを理解し、実践しています。ウキウキ・ワクワク感が出てくれば、必ず奇跡が起こる流れになってきます。難しく、誰も見たことがない、でも世の中の人が「自分にもやれるかもしれない!」と思える取り組みの一つが《予祝》です。

創部70周年を迎え、過去に甲子園出場を誇る野球部。

現役の監督として、OB諸氏や保護者、学校関係者など、今まで、ご尽力頂いた関係各位へ深甚なる敬意を表するとともに、先輩方が築かれた輝かしい歴史と伝統を未来へ繋げることが、私の使命だと思っています。

最後に《予祝》で盛大にお祝いをさせていただきます。

「福岡県立筑紫中央高等学校野球部。甲子園出場おめでとうございます!!」

～未来は想像したことと、言った言葉で作られる。～



H31 2019 年卒業



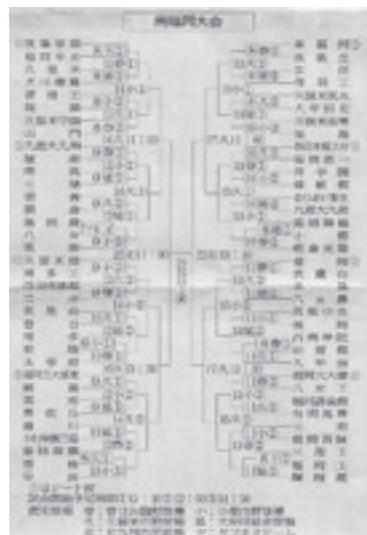
【選手紹介】

- ・主将 木村建人(一塁手)
- ・副主将 吉川拓真(遊撃手)／山川陽樹(中堅手)／矢川楓(右翼手)
阿部考太郎(左翼手)／岩崎翔馬(三塁手)／上嶋凌大(三塁手)
植野隼斗(捕手)／江口友和(二塁手)／遠藤優太(投手兼左翼手)
川崎雄大(三塁手)／木下将(右翼手)／松尾貴登(一塁手)
松永大輝(右翼手兼投手)／服部蓮音(投手)／山本陸斗(投手)
梁元丈琉(左翼手)／田中秀龍(投手兼中堅手)
- ・マネージャー 松島綾夕／村上塔子



【公式戦績】

- ・平成28年 秋 福岡地区高等学校一年生野球大会 第3回大会
二回戦 10-3 VS 西南学院／三回戦 6-5 VS 福岡西陵
準々決勝 1-6 VS 筑陽学園(ベスト8)
- ・平成29年 夏 福岡地区高等学校新人野球大会 第4回大会
二回戦 2-1 VS福岡常葉／三回戦 1-7 VS修猷館
- ・平成29年 秋 九州地区高等学校野球福岡大会 第141回大会
二回戦 2-1 VS 浮羽究真館／三回戦 5-1 VS 筑紫
四回戦 1-13 VS 春日
- ・平成30年 春 九州地区高等学校野球福岡大会 第142回大会
三回戦 2-8 VS 九産大九産
- ・平成30年 春 福岡地区高等学校野球大会 第五回大会
二回戦 1-3 VS 福岡大大濠

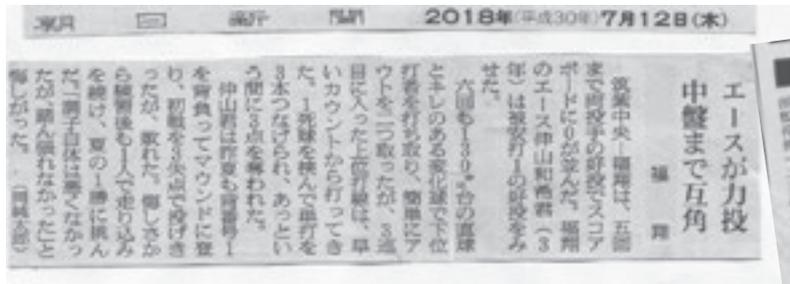


100回目の夏 球児輝け

記念大会 南北2チーム代表

第100回全国高校野球選手権福岡大会

平成30年 夏 全国高等学校野球選手権記念 南福岡大会 第100回大会
 二回戦 7-0 VS 福翔 / 三回戦 0-8 VS 大牟田



「凌 駕」



私たちは「自らを超える」「今までの先輩方を超える」という思いから「凌駕」というスローガンを掲げ、1・2年生の頃は、永松先生・折田先生・江濱先生、3年生の頃は林田先生・森山先生の元、2年半練習に励んできました。

学年が変わるとともに監督も部長も変わって、大きく体制が変化しました。

特に私たちの目標が「県大会出場」から「甲子園出場」に変わり、練習内容もより充実したものになりました。

しかし、環境が変化することによって、私たちの中で意見が合わないことが多々あり、何度も何度も話し合いを行いました。その話し合いの中で色々なことを本音で言えるような関係になり、チームの方向性が一つになりました。プレイ中でも会話が多く生まれるようになり勝利数も徐々に増えました。

最後の夏の大会では、今まで実践してきたことを存分に生かすことができ、初戦の福翔高校戦では、コールド勝ちをすることができました。次の大牟田高校戦では、力を発揮することができず惜しくも敗れてしまいました。しかしながら、この三年間の野球部の練習や試合などの活動で得たものと素晴らしい仲間たちは、人生において一生の宝物となりました。みんな、ありがとう！ 高校野球を通して学んだことを糧に、これからの人生を歩んで行きたいです。松尾 貴登(H31年3月卒71期生)



令和元年 2019 members



福岡県立筑紫中央高等学校野球部の特徴

1 活動基本方針

人に夢と希望と感動を提供できるように、日本一明るく・楽しく・「至誠・自立・識見」の精神がみなぎって、元気のよい、イキイキとした姿を、野球を通して「Team 筑中」全員で行う。

(目的)「人間形成・自立型人間の育成」／(目標)「甲子園優勝」



◎平成31年度(令和元年度)方針

- ①ABCD活動の実践
(A当たり前のことを・B馬鹿になって・Cちゃんとやる・Dできれば笑顔で)
- ②主体変容(考え方のクセを変える・敵は自分自身・限界点突破)
- ③目標達成(成功)の法則を身に付けさせる(5%の成功者になる)

④感謝の心の涵養・幸せ感の醸成
(野球をさせて頂いている、今野球が出来ることを幸せと思う)

⑤個人力のアップ(アウトプット(行動・アクション)重視)
感謝・素直・笑顔・挨拶・返事・身嗜み・掃除・後始末・
行動のメリハリ・スピードアップ(脳活性化)・加点法
(人の良い所を見て付き合う)・プラスの言動の12項目をアウトプットする。

⑥「元気」「笑顔」「スピード」の徹底による、発揮能力の涵養。
⑦ 失敗を恐れず、勇気を持って行動し、経験値を上げる。それを自信に繋げる。
※体育祭 大成功!! 「Challengers ～一歩前へ～」



【選手紹介】(3年生)



中村 光太(主将)・曾田 晃大・伊集院 聖・梅津 祐哉・大石 雄太・瓦林 敬大・清田 輝・
 楠村 康次朗・小路 哲・末永 ふき・
 瀬利 勇太・高村 純一郎・信國 流星・
 萩尾 大翔・秀嶋 晃太・房野 良樹・
 三上 祐樹・吉田 昂央(18名)



(2年生)

大島 隆乃介(主将)・有吉 海翔・小田 悠介・木村 敏宏・古賀 永祐・佐藤 駿太郎・志波 樹・杉本 陸・



曾我部 丈・八川 峻・福原 良太・南 翔太・柳瀬 雄太・
山本 啓斗(14名)

(1年生)

池田 航大・岩永 悠希・上田 海来・江上 慶泰・小川 太陽・小野 泰雅・
鎌 翔汰・川村 竜也・神田 翔温・岸和田 樹・木下 陽平・財津 亮介・

添田 幸之助・高塚 桐吾・立石 裕真・立石 悠馬・藤 蛍太郎・中尾 一郎・濱崎 聖仁・山本 颯馬(20名)

(マネージャー)

(3年生)田中 美由優・中野 寿夏

(2年生)今林 沙耶・竹下 桜

(1年生)野中 琴葉



年月	日	対戦相手	結果
4月	14日	対立大	1-0
4月	21日	対立大	1-0
4月	28日	対立大	1-0
5月	5日	対立大	1-0
5月	12日	対立大	1-0
5月	19日	対立大	1-0
5月	26日	対立大	1-0
6月	2日	対立大	1-0
6月	9日	対立大	1-0
6月	16日	対立大	1-0
6月	23日	対立大	1-0
6月	30日	対立大	1-0
7月	7日	対立大	1-0
7月	14日	対立大	1-0
7月	21日	対立大	1-0
7月	28日	対立大	1-0
8月	4日	対立大	1-0
8月	11日	対立大	1-0
8月	18日	対立大	1-0
8月	25日	対立大	1-0
8月	31日	対立大	1-0

《平成30年から取り組んだこと》

勉強(普段の授業)、貯金、ルーティンチェック表、加点法、白細胞・黒細胞、モグモグタイム、餅つき、雷山マラソン大会、アウエイ対策、勉強会、笑顔TR、「いいね!」、組織運営法、係り分担、ネームコール、二言挨拶、返事0.2秒、マイナス発言禁止、ファーストペンギン、長所伸展、センス=量、自然性と可燃性、有意識、4スタンス(泉さん)、NACS(強化食・奥田さん)、メンタルコーチング(白水先生)理論、WT、砂浜TR、KOBATR、ストレッチ指導、睡眠セミナー、データ分析、個人アップ、セイリン、ハサミ(TBT/体幹TR)、LT(測定含む)、SK(スピードノック)、走り方指導(谷先生)、ピッチング指導(宮崎先生)、トレーナー招聘(塩生・中山さん)社会人野球練習見学(西部ガス)、プロ野球選手の話(日本ハム・中島選手/DeNAベイスターズ・三嶋選手)社会人野球選手の話(ヤマハ・緒方選手/沖コンピュータ・真鍋、福岡選手他)中学生野球教室補助員、甲子園見学 などなど





70年のつながり

保護者会会長
(平成30年～令和元年)

中 村 暢 男

筑紫中央高等学校、野球部創部70周年、誠におめでとうございます。

元号が平成から令和に変わった、この節目の年に70周年を迎えられたことを大変嬉しく思っております。

そして、この記念すべき年に、筑中グラウンドで大好きな野球を思う存分できる息子たち。その姿に一喜一憂しながら、息子たちと共に『野球を楽しめる』私たち保護者は、本当に幸せ者です。

これも今まで筑中野球部で大好きな野球をやってこられた先輩方、その活動を温かく見守り支えてくださった指導者、保護者の皆様方が、脈々と受け継がれてこられた『つながり』を大切にしてこられたからだと確信しております。心から感謝申し上げます。

今年の筑中球児たちも、70年前の筑中球児たちと同じように甲子園出場をめざし、林田部長、森山監督のご指導のもと日夜練習に取り組んでまいりました。お互いに切磋琢磨しながらの毎日は、技能面の上達はもちろん、これから生きていく上で必要な行動面や考え方も鍛えていただきました。野球を通して高校卒業後、この筑中球児たちが、あらゆる分野で活躍をするための土台づくりも行っていたいただき、心身共に成長させていただきました。

この70年間続いてきた筑中野球部の、人として成長させてくれる温かい『つながり』が今後とも太く長く続きますよう、私も微力ながらお役に立ちたいと思っております。

今年度、グラウンド周囲のブロック塀が取り壊され、金網フェンスに変わって筑中球児たちが練習する姿、他校との練習試合の様子が道路からも見られるようになりました。地域の皆様や野球部OBの皆様から見られる機会も増え、筑中球児たちも視線を意識していることと思います。見られることは、筑中球児たちを成長させます。

地域の皆様、野球部OBの皆様から、一層『愛される筑中野球部』をめざして、がんばってまいりますので、今後とも温かい応援をよろしくお願いいたします。



野球部創部70周年記念誌 発刊にあたって

現 飯塚高等学校教員
平成13年卒

藤 武 裕 司

福岡県立筑紫中央高等学校野球部創部70周年記念誌が発刊されるにあたり、心よりお祝い申し上げます。また、卒部生として本誌に寄稿できることに感謝申し上げます。

平成10年4月に筑紫中央高校野球部に入部しました。当時は、渡辺監督から森山監督に変わられた時期で、さまざまな変化が起こり始めている時期でした。入学前の3月に行われた入部説明会で「現2年生は1人しかいません。辞めるなら今ですよ。しかし、チャンスはたくさんあります。覚悟して入学・入部して下さい。」と言われたことを鮮明に覚えています。15歳の少年には、少々刺激的な入部説明会でした。

私は、3月の春休みから練習に参加させてもらっていました。説明会の通り、2年生は川原豪介先輩しかいませんでした。「言っていたことは本当だった。」「俺が決めた道だからやるしかない!!」と覚悟が決まった春休みでした。5月には2年生の先輩方はポツポツ復帰され、最終的には普通に野球ができる状態となり一安心しました。私たちの年代は、選手15名、マネージャー3名でスタートしましたが、最終的には選手7名、マネージャー2名の計9名となりました。とても大変な時期であったと思います。

今となっては笑い話ですが、暑い夏に直射日光に慣れるという理由から上半身裸でランニングをしたり、キャッチー道具と剣道の籠手を着けてバント練習をしたり、KKK(くそ・根性・ノック)と呼ばれる近距離ノックをしたり、春日あんどん花火大会の音を聞きながら夜12時まで外野防球ネットを作成したり、現在のご時世では経験できない体験をすることができました。辛い、苦しい、理不尽など様々な困難なことにも逃げずに向き合い、最後までやりきることの大切さを学べたことは、私の人生の糧となっており、高校時代よりきつかったことはないと自信になっております。

卒部して「筑紫中央野球部出身です。」「森山先生に教わりました。」と何度言った事があるだろうか?と振り返る事が多々あります。私は、母校や恩師のお陰で人の縁が広がり現在に至っていると感謝しております。筑紫中央高校野球部出身ですという以上は、卒部生として、微力ながら応援していきたいと思っております。今後の筑紫中央高校野球部の発展を祈念致します。



幸運に恵まれた?春の甲子園出場& 本気で狙った夏の甲子園

昭和46年卒業 内山田 慶弘

筑紫中央高校野球部70周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。私は昭和43年に筑紫中央高校に入学と同時に野球部に入部、驚いた事に当初は同級生が1人でした。決して甲子園を目指し野球部に入部したわけではありませんが寂しい思いをした事を思い返されます。その後、10人前後の同級生が入部してきた記憶がありますが最終的に渡辺君、武末君、田中君と私の4人が残り、昭和45年春に誰も思いもしなかった春の選抜高校野球甲子園大会出場を果たす事が出来ました。

この選抜大会出場は幾つもの運に恵まれたものでした。新チームは11名の弱小チーム(中学野球部出身者は半分位?)でしたが秋の大会組み合わせは夏の甲子園大会予選の成績(県ベスト8)を基にシード校となり、九州大会は平和台球場(現存しない)での地元開催、地元の県南部から3校の出場、このような運にも恵まれ県南部予選を3位で九州大会に出場、渡辺先生の好采配で大会準優勝し昭和45年の選抜大会に出場を果たす事になりました。新チームスタート時の11名で甲子園を考えた選手は誰一人としていなかったと思います。

幸運に恵まれた春の甲子園に出場でしたが、甲子園での試合経験は自分自身に大きな自信となり夏の甲子園出場を本気で狙って練習に取り組んで行きました。今では考えられない一日250~300球、試合前で150球程度の投球練習を行っていました。おかげで一日2試合の試合も完投出来る体力となり本気で夏の甲子園大会を狙い県予選に臨みました。結果は準決勝で敗退となりましたが試合は緊迫した展開で進み終盤は一喜一憂する場面もあり私にとって高校での最高の試合として記憶に残っています。筑紫中央高校野球部に入部した時に思いも付かなかった甲子園を本気で狙い臨み、自分が持つ力を十分に発揮できた悔い無き県大会でした。

卒業後は大学、社会人野球で20年間に渡り野球に関わり社会人野球を引退後も野球で得た人との繋がりによって会社生活を送ることが出来ました。野球で長きに渡りプレーできた最大の要因は高校1年秋にアンダースロー(本音は本格派のオーバーハンドを目指していました)に変えて頂いた渡辺先生(監督)です。現役最後までアンダースローで通しました。紙面をお借りしまして渡辺先生に感謝申し上げます。『有難うございました』。

最後になりますが筑紫中央高校野球部の皆さんへ、本気で甲子園を狙って下さい。公立高校だと諦めていませんか?私が住んでいる広島県にも有力私立高校が数校ありますが公立校高校も甲子園出場を果たしています。甲子園出場を狙って日々の練習に励んでください。

甲子園

がんばれ! 筑紫中央高等学校

第42回 選抜高校野球大会郷土代表 昭和45年(1970年)3月27日から9日間



甲子園をめざして



甲子園の思い出

第六代 野球部長 嶺 知 巳

私が筑紫中央高校に赴任したのは昭和39年、東京オリンピックの年でした。それから11年間、演劇部・放送部・野球部と、クラブ活動の世話をしたが、全て全国大会に出場するという幸運に恵まれました。その中でも野球部の甲子園出場は私にとっても大変な出来事でした。同じ高校のクラブ活動の中でも「野球」は特別です。全校生徒・職員・同窓会、そして地域社会を含めての大イベントになるのです。

昭和44年野球部長の岡本先生が高野連の理事長になられたので、監督の渡辺先生の手助けをすることになりました。毎日の厳しい練習に部員はよく耐えて、めきめきと上達し、秋の九州大会に出場し準優勝した。昭和45年2月1日、高野連より九州地区代表として甲子園出場決定の通知を受けました。渡辺先生の指導と、それに耐え抜いた選手15名が甲子園出場という栄冠を勝ち得たのです。私の記憶によると、福岡地区から県立普通高校の甲子園出場は初めてのことでなかったかと思えます。その為か、OBを始め地域社会・県当局などは大変な喜びようで、出場費など予想以上に準備ができたと聞いています。

学年末考査に部員全員が合格したのを見届けて、本校OBの本田先生と選手より一足先に甲子園へ出発した。選手が到着するまで、関西地区の同窓会・県の出張所などの連絡や、練習グラウンド、応援団のチケットや宿舍の確保等で忙しい毎日でした。選手の宿舍は芦屋の竹園旅館(巨人軍の常宿)で、同じ宿に三池工業高校を優勝させた原監督の岐阜短大付属高校もやって来ました。

3月25日、組み合わせ抽選会で1回戦の相手は東京代表の堀越学園高校と決まった。沢山の部員を専用のバスで運び練習しているのに比べ、本校は部員15名、練習試合も出来ない人数で、大学生のアルバイトを雇っての練習でした。ここまで来れたのも、渡辺先生を中心に選手全員の野球に対する直向きな気持ちと努力の結果です。大会前に、高野連本部で会長の佐伯先生から「貴校のような県立高校が出場して下さって本当に嬉しい。」とおっしゃった言葉の中に高校野球の真の姿があるのではないのでしょうか。

福岡から夜行バスで駆けつけた応援団の大声援の中で試合が行われ、内山田投手の力投空しく残念ながら敗れましたが、小柄な選手がエラーをしたり、ファインプレーをしたり、グラウンド一杯に白球を追っている姿だけが30年近く経った今も目に浮かびます。NHK全国放送のタイトルになった本校の萌葱色のヘルメット、正に春の大会を象徴した色です。そのヘルメットを着けて、初々しく清々しく戦ってくれました。感動有り難う。

(福岡市中央区在住)



黒岩校長揮毫

グッと新たな「闘志」

筑紫中央高 選抜旗授与式と壮行会



第四十二回選抜高校野球大会に初出場する筑紫中央高校(黒岩武道校長)福岡県筑紫郡大野町

出している。

対する「選抜授与式」が二十八日、午前九時半から同校体育館で行われた。筑紫中央高の甲子園出場は野球部創立以来、二十年目にして初めた栄冠。それだけに体育館に集まった全校生徒、職員は喜びいっぱい。フラスコを手にして十四人の選手たちが胸を張って入場。主審側から黒岩校長へ手渡された選抜旗は渡辺キャプテンが、がっかりと受け取った。黒岩校長から「高校生らしい立派な試合をやってきてほしい」と訓諭があれば、これに代えて渡辺主将が「全力を尽くしてがんばってきませう」と決意を表明。このあと、全校生徒からの壮行会。応援団が選手たちを激励、生徒代表が「母校のためがんばって」と西明文を読みあげる。そして選手たち一人一人の紹介があった。グラウンドでは大胆不敵の球児たちも女生徒からの熱い声援にうきうきと興奮を覚えている。

筑紫中央高で応援団の結成式

ノボリ小道具もそろろう

ナインきょう甲子園へ出発

センバツ九州代表の県立筑紫中
 央高校野球部が甲子園に出発する
 前日の二十日、同校で応援団の結
 成式が行われた。ナインたちの
 練習と並行して応援練習に努めて
 きたフラスバンド部、応援部、生
 徒会はじめ、選手たちと「運命」

を共にしようという一般の生徒た
 ち合計二百四十五人が参加し、一
 体となった応援団を結成したも
 の。甲子園ではこの応援団が中核
 となって、応援合戦を展開する。
 フラスバンド部はリーダーの福
 田勉久君（二年）を中心にした
 二十八人の部員がセンバツ出場決
 定後、毎日放課後練習を繰返して
 きた。この結果、校歌や応援歌の
 ほか、マーチを主とした十曲のレ
 パトリイをこなせるようになった。
 応援部は高橋私君（一年）ら二
 十人。センバツが決定したときに
 はたった五人しかいなかったが、
 この三月に卒業した中村和久君
 （前応援部長）らが、声が大きく
 て強そうな後輩を他の体育部な
 どから次々スカウト、二十人にふ
 やした。にわか編成にもかかわらず
 ず発声も動作も堂に入ったもの。
 練習は冷たいコンクリートの床
 で素足で立ってやってきたので、
 気合ももっている。甲子園でも
 素足で応援のリードをする。

応援部は高橋私君（一年）ら二
 十人。センバツが決定したときに
 はたった五人しかいなかったが、
 この三月に卒業した中村和久君
 （前応援部長）らが、声が大きく
 て強そうな後輩を他の体育部な
 どから次々スカウト、二十人にふ
 やした。にわか編成にもかかわらず
 ず発声も動作も堂に入ったもの。
 練習は冷たいコンクリートの床
 で素足で立ってやってきたので、
 気合ももっている。甲子園でも
 素足で応援のリードをする。

る応援をしてもらいたい。それが
 選手を励ますことにもなる」とあ
 いさつした。このあと、応援部の
 リード、フラスバンド部の演奏で
 校歌と応援歌の合同練習を行な
 った。
 太宰府天満宮から贈られた「必
 勝・筑紫中央高」と大書した幅
 一丈、高さ六尺もあるノボリ四本
 や黄色の小旗などの小道具も整っ
 た。二十五日の組合わせ抽選会で
 筑紫中央高の対戦相手が決まり次
 第、応援団はバス五台をチャータ
 ーして甲子園に向かう。

てをするため、すでに先発隊が關
 西に行っており、京阪神の福岡県
 人会に動員をにかけているほか、同
 校の同窓会も二十三日大阪で同窓
 会応援団を結成する。
 選手たちは二十日午後、肩なら
 し程度に約二時間バツティング練
 習などをし、甲子園に向かうため
 の練習をすべて終わった。二十一
 日は午前八時から同校グラウンド
 で、午前九時半から国鉄博多駅で
 の筑紫中央高野球部 激励会に出
 席、午前十時十五分同駅発の特急
 「はとろ号」で甲子園に向かい、
 同夜七時すぎ神戸着、宿舎の戸屋
 市大原町、竹園旅館（電話079
 7-31-2344）にはいる。博
 多駅での激励会には亀井知事、阿
 部福岡市長、吉久県教育長も出
 席の予定。



応援団結成式後、応援練習をする生徒たち

一般生徒の有志は百七十一人、
 そのうち百五十人近くは女生徒。
 女学校の伝統が顔をのぞかせてお
 り、甲子園では応援合戦に花を添
 えるものと期待されている。この
 ほかには生徒会役員六人、カメラと
 記録を担当する視聴覚部と新聞部
 の生徒計五人、それに先生たち十
 四人が参加した。



太宰府天満宮が贈った必勝のぼり

必勝のぼりを プレゼント

本学庶務課が筑紫
 中央高野球部を激励
 甲子園出場に張りきっている筑
 紫中央高野球部は十九日午前十時
 半、筑紫郡太宰府町の太宰府天満
 宮に必勝のぼりを贈った。

宮に必勝祈願、関天連署は築紫
 坂の必勝のぼりを三本を贈って激
 励した。

選抜高校野球大会まであと八日
 —強化合宿に目標を定めたナイン
 は練習武蔵野校や善正監督、後
 援会長の中村義雄と金府町長と
 必勝を祈願、本隊ではおぼろい受
 任を感じていた。

このあと、関天連署から必勝の
 ぼりを受け取り、さっそく平和台
 球場に駆けつけ最後の練習に汗を
 流したが「チームの調子は上り坂
 で二回戦必勝を目標にコンディシ
 ョンを整えている。とにかくかん
 ぱります」と後援監督は力強く語
 っていた。



猛練習、体でおぼえろ。

20年ぶり女性上位校、から脱皮

「コーチ引受けた」 商売そっちのけで森村氏



ノックで練習をつける森村さん

1 筑紫中央高のトップ打者
 2 三塁打、打った森村氏
 3 筑紫中央高の監督

センバツ

がんばれ筑紫中央!

盛大に後援会の発会式



九州代表としてセンバツ高校野
球に出陣する筑紫中央高校野
球部の後援会発会式が十三日同校
で開かれた。筑紫郡町長会長の中
村義雄、大宰府市長会長の前田清
理博の人たちもすべて出席。野球
部サインが贈られの甲子園で思い切
りた。

選手たちの鼓手の中で開かれた
筑紫中央野球部後援会発会式

発会式には田中野郎PTA会
長、花田萬國会長ら同校のPTA
八、同校会役員六十人が出席、ま
た来賓として毎日新聞の堀山博
四郎副社長、森山幸雄大野町長、白
木義石副町長、芳原昭八大宰府
町議会議長、前校長の武井壽也さ
ん、県野球会長の古川新平筑紫
丘高校校長らが列席した。

花田同校会長が「以前には夢に
も思えられなかったセンバツ出場
がいま実現しました。みなさんの
後援をお願いしたい」と開式の辞
を述べ、田中PTA会長が、後援
会組織準備のいきまつつを説明、後
援会会長に中村大宰府町長、副会長
に筑紫郡町議会議長の森山長尾
大野町議会議長、田中PTA会長
花田同校会長の三人、前田に兼井
知重、阿部副町長、森山大野町
長ら二十一、理事に八十一人、
特別賛助会員に九州電力、西部ガ
スなど三十四社を選びたいと筑紫
会員の了承を求め、後援会が正式
にスタートすることになった。

後援会長に選ばれた中村大宰府
町長は「みなさんとともに、選手
たちを力強く助まっていきたい」
とあいさつした。
このあと岡本副議長、宮辺正
副議長に選手たちが式場に入場
し、堀山副社長が「高校
野球の魂の精神である闘気なプレ
ーをしてほしい。またセンバツに

出場するのは選手だけでなく、筑
紫中央高校全体である」とを激励
してほしい」と励ましたのをほじ
め、筑紫が「あんなに悔いを感じ
ないよう士気奮起を希望して
くまなくと優勝を遂げた。
このあと、入院中の堀山副議長
長にかわって前田副議長と岡本
副議長が「みなさんの闘争を祈に第
一、より高い地位と技術を身につ
けて甲子園に臨みます」とお礼の
言葉を述べ、後援会長の力こも
った。場内は、選手たちと観客と
で。

選手たちは七日から十五日まで
二日市の筑紫郡で第二次合宿を行
なっており、古川副議長会長の
激励は、内山副議長のパネリ
ーはしり上がり、好調、チーム・
ワークもますますよくなってきて
いるという。
選手たちは三月十日からさらに
一週間の第二次合宿、十九、二十
の両日で仕上げを行ない、二十二
日、甲子園へ出発する。

友情応援に快音ひびく

センバツ



博多高アイン（中野）の友誼参加で試合上げをする筑
紫中央の選手たち

筑紫中央の選手たちは、博多高アイン（中野）の友誼参加で試合上げをする筑紫中央の選手たち

練習手伝う博多高ナイン

合宿 筑紫中央、みっちり総仕上げ

第42回選抜高校野球大会 甲子園記念 1970

筑紫中央高等学



森松さん（中央かっぽう部）からプレゼントされたチ
ャンコ料理に舌つづみをうつつ選手たち

甲子園でスタミナを
先髪がチャンコ料理のチ
ャンコ料理に舌つづみをうつつ選手たち



がんばれ



ポイントとらえるうまさ

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日

打率チーム最高

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



がんばれ!
 がんばれ!
 がんばれ!



抜群の外野守備

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



がんばれ!
 がんばれ!
 がんばれ!

「あがりしない」…自信満々

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



確実なミート打法

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



がんばれ!
 がんばれ!
 がんばれ!



小粒ながらピリッ
 次男の中心選手
 田中 健太

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



がんばれ!
 がんばれ!
 がんばれ!

攻守のカナメ

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



がんばれ!
 がんばれ!
 がんばれ!

さえる変化球

プレート度胸も満点



【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



守備の動きもよい

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



がんばれ!
 がんばれ!
 がんばれ!



うまいライト打ち

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



がんばれ!
 がんばれ!
 がんばれ!

タマさばきもスマート

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



インコースに強い

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



がんばれ!
 がんばれ!
 がんばれ!

体力づくりに懸命

【本誌】
 10月12日
 10月13日
 10月14日
 10月15日
 10月16日
 10月17日
 10月18日
 10月19日
 10月20日
 10月21日
 10月22日
 10月23日
 10月24日
 10月25日
 10月26日
 10月27日
 10月28日
 10月29日
 10月30日
 10月31日



柔軟軽快な守備

筑紫中央高校野球部は、今年度の県大会出場を目前に控え、練習に励んでいる。中でも、守備の柔軟性と軽快さが、チームの強さを決定する重要なポイントとなっている。特に、内野手の動きが、試合の展開を大きく左右する。選手たちは、日々の練習で、足の速さと、ボールへの反応力を磨き、チーム全体の守備力を向上させている。

チャンスに強い

筑紫中央高校野球部は、今年度の県大会出場を目前に控え、練習に励んでいる。中でも、チャンスに強い打撃が、チームの強さを決定する重要なポイントとなっている。特に、打者の集中力と、投手との駆け引きが、試合の展開を大きく左右する。選手たちは、日々の練習で、打撃の技術と、メンタルを磨き、チーム全体の攻撃力を向上させている。



強肩、うまい打撃

筑紫中央高校野球部は、今年度の県大会出場を目前に控え、練習に励んでいる。中でも、強肩と、うまい打撃が、チームの強さを決定する重要なポイントとなっている。特に、打者の集中力と、投手との駆け引きが、試合の展開を大きく左右する。選手たちは、日々の練習で、打撃の技術と、メンタルを磨き、チーム全体の攻撃力を向上させている。



シンの強い女房役

筑紫中央高校野球部は、今年度の県大会出場を目前に控え、練習に励んでいる。中でも、シンの強い女房役が、チームの強さを決定する重要なポイントとなっている。特に、打者の集中力と、投手との駆け引きが、試合の展開を大きく左右する。選手たちは、日々の練習で、打撃の技術と、メンタルを磨き、チーム全体の攻撃力を向上させている。



基本に忠実、が信条

筑紫中央高校野球部は、今年度の県大会出場を目前に控え、練習に励んでいる。中でも、基本に忠実、が信条が、チームの強さを決定する重要なポイントとなっている。特に、打者の集中力と、投手との駆け引きが、試合の展開を大きく左右する。選手たちは、日々の練習で、打撃の技術と、メンタルを磨き、チーム全体の攻撃力を向上させている。



バッティングがよい

筑紫中央高校野球部は、今年度の県大会出場を目前に控え、練習に励んでいる。中でも、バッティングがよいが、チームの強さを決定する重要なポイントとなっている。特に、打者の集中力と、投手との駆け引きが、試合の展開を大きく左右する。選手たちは、日々の練習で、打撃の技術と、メンタルを磨き、チーム全体の攻撃力を向上させている。



がんばれ!

筑紫中央高校野球部は、今年度の県大会出場を目前に控え、練習に励んでいる。中でも、がんばれ!が、チームの強さを決定する重要なポイントとなっている。特に、打者の集中力と、投手との駆け引きが、試合の展開を大きく左右する。選手たちは、日々の練習で、打撃の技術と、メンタルを磨き、チーム全体の攻撃力を向上させている。

九州大会で3割マーク

筑紫中央高校野球部は、今年度の九州大会で3割マークを達成した。これは、チームの強さを決定する重要なポイントとなっている。特に、打者の集中力と、投手との駆け引きが、試合の展開を大きく左右する。選手たちは、日々の練習で、打撃の技術と、メンタルを磨き、チーム全体の攻撃力を向上させている。



「甲子園球場」をバックにスタラムを組む筑紫中央アイン



俊敏、内野の中心

筑紫中央高校野球部は、今年度の県大会出場を目前に控え、練習に励んでいる。中でも、俊敏、内野の中心が、チームの強さを決定する重要なポイントとなっている。特に、打者の集中力と、投手との駆け引きが、試合の展開を大きく左右する。選手たちは、日々の練習で、打撃の技術と、メンタルを磨き、チーム全体の攻撃力を向上させている。

相手を引っかきまわす

筑紫中央高校野球部は、今年度の県大会出場を目前に控え、練習に励んでいる。中でも、相手を引っかきまわすのが、チームの強さを決定する重要なポイントとなっている。特に、打者の集中力と、投手との駆け引きが、試合の展開を大きく左右する。選手たちは、日々の練習で、打撃の技術と、メンタルを磨き、チーム全体の攻撃力を向上させている。



選手たち(左上)

左投手の応援

東福岡高校野球部 昭和45年卒
平野寿一



昭和44年の夏、筑紫中央高校野球部が県大会出場する時に練習のお手伝いさせてもらった一人として、投稿させていただきます。

思えば今から約30年前、私も東福岡高校野球部左腕投手として3年間連日、夜遅くまで練習をしていました。昭和44年の地区予選で、香椎花園横の香椎球場で筑紫中央高校と対戦し3対0の完封負け、初戦敗退し悔しかった思い出があります。

高校3年の夏で高校野球生活も終わりホッと息ついていたら、筑紫中央高の野球部監督渡辺先生より「県大会出場に対戦する九州工業高校の投手が左なので、左投手を想定した打撃練習の手伝いをしてほしいか」との相談があり、複雑な気持ちで引き受けたのを思い出します。

その成果があったか分かりませんが、九州工業に2対1で勝利しベスト8まで進めたと記憶しています。その年の秋、九州大会県予選で三位、九州大会準優勝の立派な成績を挙げて、昭和45年春の選抜高校野球大会で憧れの甲子園に初出場されました。

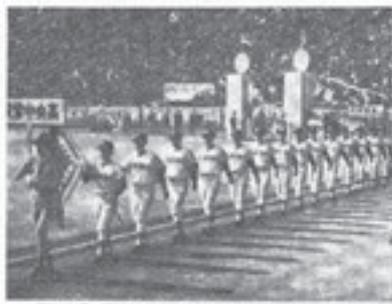
どうぞ今後も筑紫中央高校野球部の伝統と特色を活かされ益々ご発展されますよう心からお祈りします。

(大野城市役所)

氏名	学年	投	打	身長	体重	プロフィール
監督	関本 利吉					信条・「おぼりにおぼれ」「健康第一」
監督	渡辺 正					キャッチャー・モテラー重視。基本に忠実であれ。
投手	内山田 弘三	右	右	175	65	女の子に話すのが上手なほかにろくや。
投手	利勝	右	右	165	67	歌謡曲を聴くのが趣味。好きな言葉は愛は世は。
一塁	武家 真	右	右	176	69	映画観賞が好きで月に二、三回は見に行く。
二塁	朝利 隆行	右	右	170	60	おとなしくて何をいわれても怒らない。
三塁	古賀 健行	右	右	168	59	彼を懐かせば抜刺。小学生の時から何度も入賞。
遊撃	内野 幸	右	左	158	48	尊敬するのは父。野球を教えてくれたから。
右翼	高田 博	右	右	171	59	五月にフォークギターを買い、日々練習中。
中堅	高田 健彦	右	右	169	61	スポーツは万能選手。五人兄弟の末っ子。
右翼	松尾 雅文	右	右	174	66	クラシック音楽の鑑賞が趣味。キャッチャー健康第一。
捕	武末 福則	右	左	172	60	生活心得は他人に迷惑をかけぬこと。数学が得意。
捕	斎藤 浩司	右	右	173	60	明るい性格。みんなを笑わせるチームの人気者。
捕	香野三紀雄	左	左	171	59	数年連続、日記をつけている。趣味はレコード鑑賞。
捕	藤枝浩志郎	右	右	165	54	音楽を聴くのは目が痛くなるほど良い。
捕	早島 聖雄	右	右	166	58	一つの目標に迷わず突き進むのがキャッチャー。

所在地=福岡県筑紫郡大野町下大利 学校長=黒岩武雄 ©印は主幹

いま踏みしめる 甲子園の土



野にまで見た甲子園の土を踏みしめ、人垣を行く選手たち



ほお染め堂々と 晴姿に感激のあらし

夏の甲子園大会、選手たちは、晴姿に感激のあらしを浴びながら、甲子園の土を踏みしめる。選手たちは、晴姿に感激のあらしを浴びながら、甲子園の土を踏みしめる。選手たちは、晴姿に感激のあらしを浴びながら、甲子園の土を踏みしめる。



調子は上げ潮 気力も十分

試合に 応援体制もガッツリ

打撃強化にカギ

基本技から着実な伸び



スライム・アレーの練習に打ち熱中甲子園選手

筑紫中央

甲子園の躍動

5

夏の甲子園大会、選手たちは、晴姿に感激のあらしを浴びながら、甲子園の土を踏みしめる。選手たちは、晴姿に感激のあらしを浴びながら、甲子園の土を踏みしめる。選手たちは、晴姿に感激のあらしを浴びながら、甲子園の土を踏みしめる。

無念 頼みの守備乱る

監督の心配的中

いい動き 出直し誓うナイン



反撃及ばず

敗れて悔いなし 筑紫中央

「応援団も泣いた」

最終回の根性夏に期待



終回の反撃及ばず

筑紫中央 エラーで自滅



反撃及ばず

夏の甲子園大会、選手たちは、晴姿に感激のあらしを浴びながら、甲子園の土を踏みしめる。選手たちは、晴姿に感激のあらしを浴びながら、甲子園の土を踏みしめる。選手たちは、晴姿に感激のあらしを浴びながら、甲子園の土を踏みしめる。

甲子園の思い出

46年卒主将 渡辺利勝

渡辺監督の厳しい練習に耐えて長い1年間が過ぎ、2年の時に夏の甲子園に向けて県大会出場を決めた。筑紫中央強しの印象を県内に広げ、秋からは私連の新チームとして秋の九州大会県予選を3位で勝ち進み九州大会の出場権を取った。1回戦が強豪飯塚商業でしたが、真逆の勝利で学校応援団やOBの方も吃驚でした。調子に乗った筑紫中央は、2回戦、3回戦と勝ち進み遂に決勝戦。惜しくも決勝戦では負けはしたものの夢にまで見た選抜大会に出場できる有力校として名を挙げた。

翌年の2月、学校の校内放送で「筑紫中央高校の甲子園出場が決定した」との放送が入り学校中が燃えた1日でした。然し私は甲子園は、テレビで見るものと思っていたので全身の力が抜けるようでした。

渡辺監督が鬼のようになり猛練習、まず10キロのランニングそして長いキャッチボール、トスバッティング・フリーバッティング・シートノックそれが終われば個人ノック・連携プレーと毎日ボールが見えなくなるまでの練習。芦屋旅館では、巨人軍の選手と風呂に入ったり、サインを買った。

開会式、入場行進は、今でもテレビを見ると当時の感動を思い出します。2時間余りの試合内容は詳しくは覚えませんが、記憶にあるのは私が2塁に暴投した事、観衆の余りの多さと今迄に経験したことのない緊張感でした。試合には負けたが多くの経験を積んだ気持ちで、私達の最後の夏の大会が終わるまで心が切れる事なく野球が出来た。これも大勢の方々のご支援のお陰と心から感謝します。最後に「第42回選抜高校野球大会」に出場し夢の甲子園球場でプレー出来た事は私の誇りであり人生の支えでもある気がします。ありがとうございました。

(大倉紙パルプ商事(株))



私の高校野球

46年卒 田中 博

野球部創立50周年お目出とうございます。

いつ迄も若いと思っていましたが、あれから28年余り頭も白髪頭になっている今日この頃です。

私の野球部入部の動機は、少し変わっています。当時バレー部に入部予定でしたが、中学時代の友人「内山田君」より野球部に入部するようになっていると云われ、バレー部の入部を決めていましたので、野球部の部

室へ行って断りに行きました。当時の先輩はとても恐ろしそうな感じで、とても断ることが出来ず、ボロボロのユニホームとスパイクを渡されその儘3年間ズルズルと・・・。

しかしこの事が私の運命を変えることになるとは。〈憧れの甲子園出場〉

有り難う!! 内山田君、今でも大変感謝しています。甲子園の思い出は、2死満塁でエラーをしたこと。守っていたとき鼻血ボタボタ、相当緊張していたと思う。案の定痛恨のエラー。

外野席から罵声を浴びたことを覚えています。しかしこの汚名を何とか挽回したいと思い、そのチャンスは9回表にやってきた。1死最後の打席、何とかヒットを打たしてくれと神に祈ったものだ。サードゴロ、しまったと思ったが、サード前でイレギュラー、幸運にもレフト前ヒット、執念のヒットだ。その後、高田君、松尾君のヒットで初得点、6対1で敗れわたしたが五角形のホームベースを踏んだのは、50年の歴史の中で私だけです。大変誇りに思っています。

最後に私がここ迄野球をやれたのは、仲間達そして、渡辺監督のお陰と思っています。よく我慢して使って頂いた事、そして絶え間ない情熱を注いでくれたこと。

色々語り尽くせない事が沢山ありますが、筑紫中央高校野球部益々のご発展をお祈り申し上げます。

(日本生命保険相互(株))



福岡大会

第41回 全国高校野球

昭和34年【初出場】

東 一 男【3年 中堅手 19打数2安打 0.105】

2回戦泰星高戦、4回二死満塁での左への2塁打が光る。安打は少ないがこれ1本で充分という快打だった。

中 島 国 明【3年 左翼手 20打数3安打 0.150】

好打者の割には、予選は不調をきわめた。しかし三池工戦5回、一死2・3塁での1塁前への絶妙のスライズは光った。

竹 藤 剛【3年 三塁手 21打数7安打 0.333】

さすが県大会出場チームの主軸打者としての活躍だった。守備でも5試合通して無失策と抜群の活躍だった。三池工戦9回の決勝打が光る、いぶし銀的好プレイヤーの一人。

草 野 友 勝【3年 遊撃手 18打数7安打 0.388】

チーム打撃のけん引者、南筑高戦での中越大3塁打といい、小倉戦では3安打のかため打といい、さすがに県を代表するプレイヤーに選ばれるだけの選手の一人だった。又、小倉戦での2塁ランナーとして送りバントによるホームイン？は見事だったが……。

藤 尾 一 馬【3年 投手 19打数2安打 0.105】

163cm 53kgと恵まれた体から繰り出すアウトローへの超スローボールが印象的だった。46¹/3イニングを1人で投げ抜き被る安打22は立派だった。勿論県発表の優秀投手の1人。

横 溝 征一郎【2年 一塁手 18打数1安打 0.055】（永眠）

1・2回戦の4番バッター。3回戦以降3番・4番が良くランナーに出ただけにこの辺で1本出ておればというチャンスは何回もあったが……。しかし对小倉戦、延長10回無死1・2塁からの3塁への送りバントは見事だった。長打力だけでなく、小細工の効くところも見たが……。

小 沢 重 宏【1年 二塁手 18打数3安打 0.166】

県予選直前からのレギュラー。ミートのうまさには目を見張るものがあった。守備でも右前、左中間の浅いフライをよく追い好捕したのは見事だった。2回戦泰星高戦での2安打が光る。

国 武 博 志【1年 捕手 15打数2安打 0.133】

強肩、強打の好捕手として、入学早々からのレギュラー。打の方はともかく、三池工戦で、盗塁を6個許したのはビックリだった。通算5試合で11盗塁を許したが……。三池工戦5回表、同点のきっかけをつかった左前安打は見事だった。

牧 山 邦 美（旧姓 淵上）【2年 右翼手 13打数2安打 0.153】

3歩前進5歩バック、結果は右オーバーの3塁打。しかしこれも今となっては思い出の一つとなった。選球眼が良く、四球を選んで上位についでいたのが目を引いた。県予選直前にセカンドからのコンバートという事を考えれば急造外野手としては良くやったと思う。

（順番は小倉高戦打順です）

心に刻み込めよう県大会

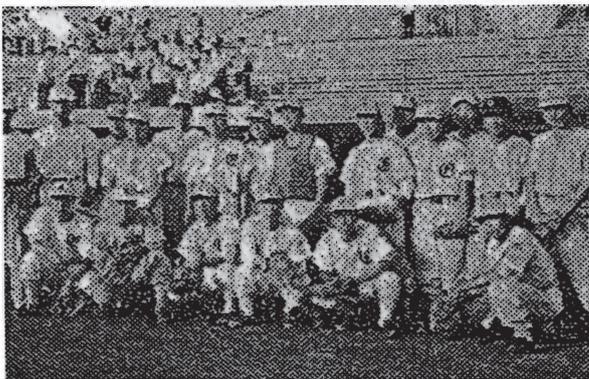
昭和三十三年卒業
國武博志

筑紫中央勝ち進む

県内ではバントに強経
わせた。シートノックの
多し三池工に敗れ、その三池工
が福岡勢のワークホース筑紫中央
に敗れた。筑紫中央は戦後参加の
チームで県大会へは初出場だ。

甲子園への栄冠は何校に？

最後の関門「福岡大会」を語る



【筑紫中央】（筑紫郡大野町）10勝18敗2分、異はよくないが、右投のエース藤尾がいるので各校も油断はできない。藤尾は体力がないのが惜しいが、カーブ、

変化球にさえ
る藤尾投手

順位	学校	打数	安打	打点	得点	盗塁	犠打	犠飛	併打	失点	失誤	投手	打点
第1	筑紫中央	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	藤尾	0
第2	三池工	29	3	0	0	0	0	0	0	0	0	三池	0
第3	小倉	29	7	0	0	0	0	0	0	0	0	竹藤	0
第4	泰星	29	2	0	0	0	0	0	0	0	0	東	0
第5	南筑	29	7	0	0	0	0	0	0	0	0	草野	0
第6	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第7	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第8	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第9	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第10	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第11	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第12	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第13	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第14	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第15	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第16	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第17	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第18	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第19	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第20	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第21	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第22	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第23	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第24	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第25	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第26	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第27	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第28	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第29	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0
第30	併打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	併打	0

技巧派投手藤尾

選球眼がよい打線



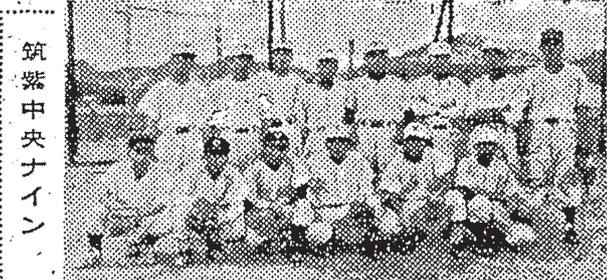
中央商業
昨晩まで練習していた「藤尾」が、この試合で活躍の場を大いに演出した。打線の中心人物として、大活躍した。山田の打撃力も、この試合で活躍の場を大いに演出した。

この試合で活躍の場を大いに演出した。打線の中心人物として、大活躍した。山田の打撃力も、この試合で活躍の場を大いに演出した。

三池工も破る

筑紫中央、堂々県大会へ

試合	結果	投手	打者
筑紫中央 vs 三池工	筑紫中央 勝利	藤尾	三池工
筑紫中央 vs 九回	筑紫中央 勝利	藤尾	九回
筑紫中央 vs 二死	筑紫中央 勝利	藤尾	二死
筑紫中央 vs 三塁	筑紫中央 勝利	藤尾	三塁



筑紫中央ナイン

【評】小倉は筑紫中央の藤尾投手の好投で苦戦に陥ってしまった。得点の機会は一、四回であったが、藤尾投手の外角をくぐり、プ、スライダに手を焼き、十回まで三振、得点に結びつけることができなかった。決勝は十一回この回の先頭打者三塁手が、第一球目を右翼のフェンスにたたきつけ三塁打、これで勝ちを確としたのか、三塁手に代わって渡部が代走に立った。つぎの橋本は、一、二のあとさきさアナルでね

【評】小倉は筑紫中央の藤尾投手の好投で苦戦に陥ってしまった。得点の機会は一、四回であったが、藤尾投手の外角をくぐり、プ、スライダに手を焼き、十回まで三振、得点に結びつけることができなかった。決勝は十一回この回の先頭打者三塁手が、第一球目を右翼のフェンスにたたきつけ三塁打、これで勝ちを確としたのか、三塁手に代わって渡部が代走に立った。つぎの橋本は、一、二のあとさきさアナルでね

そしていよいよ県大会!!

国武 博志



初戦、北部代表、小倉高校との対戦！
今、思い起こすとこれが同じ高校生かと目を疑う様な体格の小倉高ナイン、しかし、試合は接戦の連続、ピンチになれば藤尾投手を中心に、内、外野手が自然と集まり、激励し合いながら回を重ねて延長10回、初回から相譲らず、スコアボードは上下に0が仲良く並んだ。
この回、先頭の草野遊撃手がヒットで出塁、藤尾投手が四球で無死1、2塁、横溝1塁手の送りバントで2・3塁に進めたが守備のもたつきを草野遊撃手が見逃す筈がなく、そのまま本校のお家芸とも言われるバントエンドランでそのまま本塁へ!! 足に自信有りて悠々とホームベースを走り抜けた。瞬間、本校ベンチは勿論、バックネット裏等の応援団は球場を揺るがす程に熱狂したが、数秒後、予期もしない、そして全体が水を打った様な静けさのシーンが展開した。走り抜けた草野選手に小倉高の捕手がボールをタ

ッチしてアピール。この瞬間主審のK球審（この名前は決して忘れない）のアウトのコール、この場面を思い起こせば次打者は小沢選手で、バント処理のバットを走者の為に払い除け、目の前で走り込んで来た草野選手のホームタッチを確認し、私も近くで判然と確認した。でも本校のアピールは受け入れられず試合は続行、延長11回裏3塁打と外野フライでサヨナラ。然し捕手の私はベースをしっかりとブロックしていたのでミットに納ったボールのままどい程、相手走者にタッチしてアピール、そして竹藤3塁手に返球し離タッチのアピールをしたが受け入れられず試合終了で無念の涙を飲んだ。バックネット裏は大変な騒ぎで本校先生の1人がネットによじ登り、ゆさぶっておられたシーンが思い出される。試合終了の挨拶もお互いの健闘を握手で交わり翌朝の全新聞が我が校を称えてくれていた。県北部方面の新聞では問題のシーンが写真付きで「これでもアウトか?」の見出しで掲載されたと聞きました。どの新聞を見ても、本校の清々しい戦い振りが掲載されていたのがせめてもの慰めでした。

(九配工業(株))



「30年前の夏」

平山 啓治

昭和44年7月26日平和台球場にて第51回全国高校野球福岡県大会が始まり我が筑紫中央高校も10年ぶりに2回目の出場することが出来た。

予選大会ではシード校となり、初戦の東福岡に3-0で勝った後からは、2回戦南筑1-0、3回戦八女工4-3といずれも延長戦となり僅差にて勝って県大会へ出場する事ができました。

当時のメンバーは1番セカンド北崎、2番キャッチャー弓削、3番私で4番ファースト伊藤、5番サード堺、6番ライト渡辺、7番ショート内山田、8番センター武末、9番レフト小館でベンチには翌年甲子園に行ったメンバーがいた。

この年の春の選抜には福岡からは、博多工（岩崎-今久留主のバッテリー）と小倉高（九州NO.1の捕手-楠木）が出場しており当然のことながら優勝候補であったが26日には博多工が負け、27日の2試合目では小倉が破れると言う波乱となり、私達は27日の第4試合目で九州工と対戦、試合は又しても1点を争う予選大会と同じ様な試合展開となり2-1

で勝利を得た。強豪だけに毎回苦しいピッチングでした。後日談として、大学の野球部に1年後輩で九州工出身の捕手が入部していたのでこの試合の事が話題になると後輩はよく「筑紫中央など全く眼中になく次の試合の事を考えていましたよ」と強がりを書いておりました。しかし県大会の1回戦を突破し優勝候補も負け、俺達にもチャンスあるのではと、遙か遠い甲子園を夢見たものでした。しかし現実はその様な甘い物ではなく、翌日の飯塚商業との対戦では、前日の疲れがあったのか、思うように球が走らず、1回には1アウト満塁になりました。しかし、ネクストバッターをピッチャーゴロに打ち取りベンチに引き上げた時、指に違和感を感じ、見ると中指のつめが割れ血が滲んでいた。渡辺先生から「もう投げるな」と言われ、交代を言われた後の試合内容は殆ど覚えなく、試合は大差で負けてしまい応援団の前に整列した時、ただ「もう終わったんだ」と思った事だけが記憶にあります。

練習で毎日の様にノックバットを振り指導して頂き、またこの様な素晴らしい思い出を作ってくれた岡本先生、渡辺先生に、あの時言えなかった御礼を、この場をお借りして申し上げます。「ありがとうございました。」

後輩諸君、今後の活躍を期待致しています。

(日新興業(株))

CHIKUSHI

県大会出場は二度目。初出場はちょうど十年前、一回戦で小倉とぶつかり延長十一回の末1-0で負けた。「こんどはここでやれるかわからないが全力でぶつかると渡辺部長はいつている。

平山投手は一回戦対東福岡でノーヒットノーランを記録するなど好調だが、打線が弱い。一回戦対南筑は延長十回で1-0、三回戦対八女工も延長十回4-3と、小差で勝つ

筑紫中央

対八女工戦では北崎、伊藤が三塁打を打つなど上り調子だが、平山が九州工に大暴投を許したりすると、かなり苦しい試合になりそうだが、だが持前のねほり強さが物ぞいつかもしれない。内野を中心とする守備は堅く、三試合を通じて無失策。▽平均打率 二割一分一厘。

部長、渡辺正、監督 村上恵一
3333333333222222111111
則正治朗均勝弘昌仁美彦行博行
赤松俊徳 利廣 克敏信信 信
崎削山藤 辺山末館川田寛中利
北平伊藤渡内武小市高古田瀬

④②①③③③③③③③③

平山、四球一個の好投

九州工 00000100001
筑紫中央 000100100×2

④「四番センター森中君」
「アナウンス嬢の音がグラウンドを流れた。八回裏の九州工の攻撃は二死満塁、森中の一打で逆転というケース。神頼みでもするかの様に九州工応援団が小倉名物の祇園太鼓を打ちならすなか、森中のバットが空を切り、筑紫中央の平山投手に軍配があがった。

「ひやひやして、見ちゃおれなかった」と筑紫中央の村上監督。そして「あそこが簡単にとって敵

次のヤマ場だった。それにしても平山はよく投げてくれました」。平山は登三振九と好調だった。七本のヒットを打たれたが、与えた四球はわずか一個。外角いっぱい球がよく決った。九州工に同点に追いつかれてからは、九州工ペースかと懸われたが、七回に押しだしてあげた一点が、決勝点になった。

五回途中から登板した九州工市橋投手の速球に筑紫工打線は、手が届かなかっただけに、四球で一点をとったのは幸運だった。

筑紫中央 00210020005
山門 000000000000

【評】筑紫中央が安定した試合運びをみせ、十一安打で五点をあげ、内山田投手が、山門打線を三安打、一死球に抑える好投で快勝した。

筑紫中央は三回、先頭の瀬利が右前打、渡辺の送りバントと捕逸で三進、二死後、松尾が中前タイムリ、まず一点をあげた。さらに松尾も二盗に成功、田中が右前打して二点目。四回には遊撃内野安打した武末が二、三盗、捕手の悪送球を誘い一点を追加した。七回にも三安打、一四球、一敵失でタイム押しの二点をあげ、試合を決めた。

山門は内山田のコーナーに散らす速球とカーブに手が出ず、二、七回を除いては三者凡退を重ね、二試合逆転勝ちのジंकスも筑紫中央の前には通じなかった。



【筑紫中】	打	安	点
③武末	4	1	0
④瀬利	4	1	0
②内山田	4	3	0
①松尾	4	2	2
⑦田中	4	2	2
H R	7	0	0
⑧市平	0	0	0
⑤古内	0	0	0
⑥	0	0	0
計	35	11	4

【山門】	打	安	点
④合	4	0	0
⑧金	4	1	0
⑦江	4	1	0
②口市	2	1	0
①水	2	0	0
③大	2	0	0
⑨田	3	0	0
③中	2	0	0
③野	1	3	0
⑤手	0	0	0
計	28	3	0

筑	2	6	2	5	0	11
山	6	1	1	0	4	3

▽準決勝第二試合

筑紫中央 2000000001
博多工 2000000001

0013
014

(延長十一回)

【評】点を取られると、すかさず取返す博多のねばりが、幸運なサヨナラ勝ちにつながった。3-3で迎えた十一回、博多先頭打者

古賀健の一打は二塁手前への猛ゴロ。これを野手瀬利が後逸した。中堅、右翼手がともに追った。このとき右中間に猛烈な砂じんが巻き上がった。打球はその中へ…。外野手二人がボールを見失いマゴツている間に、打った古賀健は一挙に生還してサヨナラ勝ち。筑紫にとっては不運な一打ではあったが、一面、負けてもやむを得ないようなゲーム運びはどうしたことだろう。1点リードで迎えた九回最後の守り。ちょっとした心のスキで同点に持込まれた。先頭、梶原の捕前バントを捕手が一塁へ悪

闘志みせる両監督

決勝進出を決めた九州工、博多工とも延長戦の末の辛勝。後攻めの強味を發揮した。それだけに決勝の一点をあげた瞬間、サイン、応援団とも優勝のような喜びよう。甲子園まであと一歩「ここまできれば満足。決勝戦ではいい試合を心がけるだけ」(九州工・岸之上監督)「センバツで四度、甲子園の土を踏んだが、夏は一回もない。チャンスをいかし、悔いのない試合をする」(博多工・佐藤監督)と闘志をみせていた。

四番の重責果たす

「公式戦では初めてです。足の遅いほうがランニングホームランを記録するなんて」――延長十五回裏、決勝打を放った、九州工・

中村選手は息をはずませた。四番打者の重責を見事はたしたわけだ。「真ん中高めの直球だった。これまでいい当たりが出ていないので、なんとかヒットを」と思っ

甲子園目指しかく戦う

16チーム監督にひとこと



好調の打線に期待して

筑紫中央・渡辺正監督 犠打の失敗が多かった。が、ここまでやってくれるとは……。身上は守りの野球だが、打線が好調なので期待している。

◇南部戦績
11-2宗像▽5-2福島▽10-9九産大九州



西短付など強豪順当に

23日から北九州市民球場で

16強出そろそろ

<北部>

- 松 筑西工倉磐
- 若東八幡
- 八幡小常
- 九国大付
- 鞍手

<南部>

- 筑陽学園
- 西短大付
- 福岡工川
- 柳川
- 筑紫中央
- 東福岡
- 東海大五
- 福大大濠

東筑、2回に一挙4点

筑紫中央は好機生かせず



▽5回戦 (北九州市民球場)
東筑 0000101016
筑紫中央 00000001016

①東筑は二回、打撃木調で今大会、五番から六番に下げられた吉田が左中間二塁打、星野の四球後、元木らの3安打で4点を先取った。筑紫中央は先頭打者が

八回、東筑・吉田選手に投げた球目のカーブが高めに浮いた。はじき返され、翼席を、じつと見つめ、グラブを始めた左腕で顔の汗をぬぐった。タイムアウト。をゆっくと一悶する走者が、目もくれずに。

技巧派 小柄な体で力投

筑紫中央 平島投手

身長一六六センチ。筑紫中央のレギュラーの中では一番の小柄。下手投げだが、時折スリクオーターでも投げる投手派だ。昨日、二塁手から投手になった。変化球はカーブと増やすことで、対応するつ

筑紫中央 1-6 東筑

(北九州市民球場)

田島 欽平

東筑とは、普通の試合をして、普通に負けた。べつに、劇的な逆転も緊迫した攻防もなかった。ただ、全校生徒の大応援の中で、プラスバンドは僕らの希望通りに、打席に立つ選手一人一人に向けて演奏を続けてくれていた。



●筑紫中央・田中弘樹主将 試合前、楽しくもどきどきとみんな話した。やっぱり悔しいし、もっと長くと野球をやりたいかったけど、どこまで行っても十分です。

MAX

筑紫中央・渡辺正監督 「勢いがあつたので、先取点が欲しかった。相手投手の調子が良く、打てなかったのが原因。選手たちはよく戦ってくれた」

○筑紫中央の応援席では合宿中の一年生を除いた二、三年生約九百人が大声援を送った。午前中に一時間の課外授業を済ませた生徒たちは十九台のバスに分かれて球場入り。補欠の野球部員がリーダーとなり、声をかりして選手を励ました。元野球部長の田中義明校長も「応援団の数では地元の東筑に負けていない」と汗びっしょり。

【東筑】

安	0	1	0	0	1	0	1	2	1	6
打	0	1	2	0	1	1	2	1	1	1
中	4	4	4	4	3	3	3	3	3	2
野	4	4	4	4	3	3	3	3	3	2
木	4	4	4	4	3	3	3	3	3	2
田	4	4	4	4	3	3	3	3	3	2
残	4	4	4	4	3	3	3	3	3	2

【筑紫中央】

安	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1
打	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2
中	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2
野	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2
木	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2
田	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2
残	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2

【投手】

安	5	
回	9	
打	9	11
右		
平		
島		

将来の夢

- 田中 少年野球のガンとく
- 平島 世界征服
- 三苦 平凡なサラリーマン
- 不老 フロ野球選手で幸せな家庭を築く
- 野村 ハゲないこと
- 八尋 結婚
- 児島 世界一のロリータマニアになる
- 田島 常に何かをクリエイイトし続けるクリエイター
- 秋根 幸せな家庭をつくる
- 白水 ボクサー
- 桑本 先生になる
- 小沢 日本語教師になってアメリカに住む
- 後藤 保母さん 幸せな家庭を築く

きょうの試合

▽5回戦 (北九州市民)

福岡大々大 一八 幡工 (10時)

小倉一西日本短大村 (0時半)

福岡工一若松 (3時)

熱球ダイヤル

北九州地区 093-883-5592

南部地区 092-262-5592

北九州 093-661-5589

福岡 092-661-5589

(午前10時~午後8時)



福岡大会

第84回 全国高校野球

平成14年(6回目)



戦績

地区大会1回戦	4-3	対古賀
2回戦	8-2	対中村三陽
3回戦	6-4	対玄界
4回戦	3-1	対福翔
県大会 5回戦	1-5	対九州産業

「16強」の頭ぶれ

◆南部	付園川	第一	中央	島業	湊
西短大	筑陽	大	中	産大	工大
筑柳南	筑紫	九州	大	倉畑	大
筑糸	筑大	北	倉畑	国大	付
九福	北	倉畑	由	ケ	丘
◆北部	小戸	九	八	東	筑
	自	東	筑	紫	学
	東	筑	紫	学	園

筑紫中央ミラクル



筑紫中央は、この試合で、投手の素質を発揮し、一連の失点を抑え、11回までリードを保持した。三塁打を打たれ、追いつかれたものの、投手の素質を発揮し、この試合で、投手の素質を発揮し、一連の失点を抑え、11回までリードを保持した。

その間、筑紫中央の一塁スタンドに座っていた約3000人の大団員はゲームセットを祝福した。九回無死ランナーなし。玄界のリーフ上中東亮投手も後半に投じた5球目、日暮久保田の打席、玄界の打者が一塁に倒れ、玄界は、その間、筑紫中央の一塁スタンドに座っていた約3000人の大団員はゲームセットを祝福した。

九回二死から起死回生

筑紫中央 運命決めた振り逃げ

どでけい強豪のランナー、筑紫中央の山崎一歩平(6年)は、この試合、三振に振り、サオウラを奪った。通称は「十一回秀、またも久保田が今度こそ勝負で出陣。パナソニックの投手、玄界から山崎が投げた打者はレフトスタンドへ。無難な決勝打となった。筑紫中央は、そのトレーニングで精進を遂げた。4月の世界杯は連年優勝で4強に勝ち進んだ。体育心を燃やしていった。筑紫中央の「死にたいチーム」に、玄界のランナー、山崎一歩平が、この試合で、どでけい強豪のランナー、筑紫中央の山崎一歩平(6年)は、この試合、三振に振り、サオウラを奪った。

筑紫中央の投手、玄界の打者、この試合、三振に振り、サオウラを奪った。

筑紫中央	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
玄界	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
筑紫中央	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
玄界	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

筑紫中央

この試合で、投手の素質を発揮し、一連の失点を抑え、11回までリードを保持した。



《 MAKE MIRACLE 》

感動をありがとう 筑紫中央対玄界 観戦記

灼熱の太陽の下、うだるような暑さのなかを、全校生徒は校門を出て春日公園球場へ向かった。決して意気軒昂とは言え、何でこんなに暑い中、いけないかとかな。授業よりはましかも知れんけど・・・」こんな言葉の飛びかう中、のろのろと行列は歩を進めた。午後一時過ぎのことであった。この時から5時間後、生徒たちを感動の嵐に巻き込むドラマが待っているとは、誰が予想したことだろうか。

試合開始直後、先発深井は大観衆を背に受けて、明らかに気負っていた。全校生徒千三百人の大声を受けて、気負うなど言うのが無理な面かもしれないが、死球をきっかりに二点を取った。三回にも1点を失い、普段の力を発揮できずに、4回から山本の救援をおおくことになった。その山本も、6回にやらざるがなの1点を失った。私はこの4点目が、ゲームを決することになるだろうと覚悟した。7回ようやく玄界高校の先発投手から、得意の攻撃で2点を返し、一筋の光明を射したように思われた。ところが、玄界高校は8回から、エースナンバーの投手が登板し、勝利の方程式モードに入ってしまったように思われた。不安は的中し、9回も2死となり、8番打者久保田も早々に追いつまれ、万事休した感が際立った。棄てた5球目を空振り、ゲームセットと誰もが思った刹那、玄界高校の捕手が後逸し、振り逃げとなり一塁に生きた。これからは、私が一番感動した場面になるのである。9番打者は内野安打を打っているとはいえ、あまり期待できるとは思っていなかった。しかし、この場面での後は明らかに違っていた。何か呪迫といったものが私には感じられた。「最後の打者にはならないぞ、絶対次につくぞ」そういった気持ちが打席から伝わってくるように、私には思われた。結果は安打となり、捕は一塁ベース上で小さなガッツポーズをとったのを私は見て、非常な感動を覚えた。この瞬間から試合の命運は、わが筑紫中央高に傾いたと感じた。あとは、周知の如く、連打が生まれ、倉富の中前打で、橋は欣喜の同点ホームを踏むことになった。10回裏二死満塁のピンチも山本投手の力投で切り抜け、11回表二死二塁からの山本の本塁打で、劇的な勝利となった。数々の好プレーを目的あたりにして、スタンドは欣喜の渦に巻き込まれたことは言うまでもない。生徒たちは、我を忘れてお互いに喜びを分かち合っていたのである。日頃のたゆみない練習を厭わない者だけが、得られる感動をわたしたちにも、分け与えてくれた野球部諸君に感謝すると共に、新なる前進を折って観戦記を終わりとしたい。ガンバレ！筑紫中央野球部

試合結果表 (野球部)

投手	回	先発	継投	救援
深井	1-6	山本	山本	山本
山本	7-9	山本	山本	山本

先発	深井	9	3	2
継投	山本	4	1	1
救援	山本	2	1	1
合計	15	5	4	4

先発	山本	5	2	1
継投	山本	2	1	1
救援	山本	1	1	1
合計	8	4	3	3

試合結果: 筑紫中央 10-7 玄界高校

全国高校野球福岡大会 5回戦

北九州市民球場 劣勢で迎えた九回の表、一死一・三塁から田中君のタイムリーができた瞬間、全校応援でやってきた応援団の声援は最高潮に達しました。その後の一死満塁となったときは、あの九回の応援団をも上回る大声援が北九州市民球場を包み込みました。結果は残念でしたが、みんなの心が一つになった素晴らしい瞬間だったと思います。

逆転奇跡 あと一歩

逆転奇跡 筑紫中央高が、全国高校野球福岡大会 5回戦で玄界高校と対戦。九回の表、一死一・三塁から田中君のタイムリーができた瞬間、全校応援でやってきた応援団の声援は最高潮に達しました。その後の一死満塁となったときは、あの九回の応援団をも上回る大声援が北九州市民球場を包み込みました。結果は残念でしたが、みんなの心が一つになった素晴らしい瞬間だったと思います。



逆転奇跡 筑紫中央高が、全国高校野球福岡大会 5回戦で玄界高校と対戦。九回の表、一死一・三塁から田中君のタイムリーができた瞬間、全校応援でやってきた応援団の声援は最高潮に達しました。その後の一死満塁となったときは、あの九回の応援団をも上回る大声援が北九州市民球場を包み込みました。結果は残念でしたが、みんなの心が一つになった素晴らしい瞬間だったと思います。

逆転奇跡 筑紫中央高が、全国高校野球福岡大会 5回戦で玄界高校と対戦。九回の表、一死一・三塁から田中君のタイムリーができた瞬間、全校応援でやってきた応援団の声援は最高潮に達しました。その後の一死満塁となったときは、あの九回の応援団をも上回る大声援が北九州市民球場を包み込みました。結果は残念でしたが、みんなの心が一つになった素晴らしい瞬間だったと思います。

「心が変われば、行動が変わる。」
「行動が変われば、習慣が変わる。」
「習慣が変われば、人格が変わる。」
「人格が変われば、運命が変わる。」

歴代校長・部長・副部長・コーチ・監督・主将一覧

卒業年(3月)		校長	部長	副部長・コーチ	監督	主将
1952	昭和27	都築貞枝	小田茂生	福島恒春	小田茂生	大岡隼人
1953	28	//	//	//	//	井上 憲
1954	29	//	//	//	//	吉田博幸
1955	30	//	//	//	//	福元良治
1956	31	井口義男	財部利夫		財部利夫	池内増男
1957	32	//	//		//	大庭茂義
1958	33	//	//		//	山本 徳
1959	34	入江 弘	岡本利彦		浅田和俊	榊 秀
1960	35	//	//		//	東 一男
1961	36	//	//		岡本利彦	横溝征一郎
1962	37	//	//		//	小沢重宏
1963	38	幾貝保茂	井上正秀		//	森村隆弘
1964	39	//	岡本利彦		//	大川重信
1965	40	武井清見	//		//	岩本護美
1966	41	//	//		渡邊 正	村上 恵一
1967	42	//	//	大貝哲雄	//	村田秀三
1968	43	黒岩武道	//	//	//	嶋 晴一
1969	44	//	//		//	久永正範
1970	45	//	嶺 知巳	コーチ森村隆弘	//	弓削裕正
1971	46	吉岡啓至	//	岡本利彦	//	渡辺利勝
				コーチ森村隆弘		
1972	47	//	//	//	//	高田信彦
1973	48	//	//		//	長野徹郎
1974	49	//	//		//	林 敏行
1975	50	//	//		//	大廣申一
1976	51	山田定彦	伴 昭彦		//	藤渡登志郎
1977	52	//	//		//	八木政成
1978	53	//	野口峰夫		//	安永 豊
1979	54	//	桑野正夫		小山一廣	永川良文
1980	55	各務 章	//		//	森山博志
1981	56	//	//	田中義明	//	山口輝昭
1982	57	//	小山一廣		牛嶋洋二	田代博文
1983	58	小川 智	//		//	森口 宏
1984	59	//	//	田中義明	//	成田康文(旧姓橋本)
1985	60	西山憲治	田中義明	黒木浩一郎	//	蓑輪雅裕
1986	61	//	//	廣松友聖	//	橋口親一
1987	62	//	//	真子幸和	住吉正史	坂田裕之
1988	63	//	//	長瀬泰信	荒木勝也	森田英雄
				真子幸和		
				コーチ安西克彦		

卒業年(3月)		校 長	部 長	副部長・コーチ	監 督	主 将
1989	平成元	合 原 正 登	//	長 瀬 泰 信	渡 邊 正	吉 次 則 政
1990	2	//	//	//	//	石 井 和 男
1991	3	渡 辺 國 弘	長 瀬 泰 信	高 橋 洋 一	//	島 添 貞 美
1992	4	渡 辺 国 弘	//	吉 村 成 登	//	籾 秀 人
1993	5	齊 藤 稔	//	//	//	小 林 進 也
1994	6	//	//	伊 藤 修	//	原 口 和 弘
					吉 村 成 登	
1995	7	//	//	//	渡 邊 正	黒 田 豊 紀
1996	8	田 中 義 明	伊 藤 修	野 見 山 一 義	//	酒 井 栄 治
				コ ー チ 武 末 亘		
1997	9	//	野 見 山 一 義	永 里 竜 一	//	田 中 弘 樹
				コ ー チ 武 末 亘		
1998	10	//	永 里 竜 一	渡 邊 正	森 山 博 志	村 津 卓 二
1999	11	今 村 八 洋	//	松 隈 史 郎	//	平 島 道 雄
				寺 田 晋		
2000	12	//	//	松 隈 史 郎	//	川 原 豪 介
2001	13	梶 谷 剛 士	松 隈 史 郎		//	藤 武 裕 司
2002	14	//	永 里 竜 一	安 森 健 治	//	西 村 英 樹
2003	15	伊 藤 謙 治	片 山 英 和		//	塚 本 祐 次
2004	16	//	吉 岡 利 治	矢 加 部 彰	片 山 英 和	緒 方 賢 治
				野 田 猛		
				コ ー チ 村 上 竜 太		
2005	17	加 野 毅	//	大 橋 祥 克	粉 井 泰 之	吉 武 賢 司
2006	18	//	//	//	//	松 崎 俊 大
2007	19	濱 本 隆	平 山 篤	//	//	松 瀬 健 吾
				コ ー チ 村 上 竜 太		
2008	20	//	//	コ ー チ 山 本 秀 明	//	山 田 貴 大
2009	21	石 橋 和 博	//	コ ー チ 山 本 秀 明	//	福 元 貴 大
2010	22	//	田 村 聡 弥	宮 本 直 久	//	田 中 壮 史
				コ ー チ 山 本 秀 明		
2011	23	橋 本 武 志	//	コ ー チ 山 本 秀 明	//	水 落 光 哉
2012	24	//	//	折 田 隆 志	//	岩 見 亮 平
2013	25	//	//	//	//	高 橋 亮 丞
2014	26	吉 永 雅 弘	//	//	//	高 木 駿
2015	27	//	//	//	//	石 垣 智 聖
				江 濱 義 博		
2016	28	早 野 裕 子	折 田 隆 志	田 村 聡 弥	永 松 義 文	荒 川 大 地
				江 濱 義 博		
2017	29	平 塚 健 士	//	下 山 一 弘	//	伊 賀 上 誠 司
				江 濱 義 博		
2018	30	//	//	林 田 忠 雄	//	染 矢 啓 太
2019	31	中 村 茂 喜	森山博志(4月~7月)	古 江 秀 崇	林田忠雄(4~7月)	木 村 健 人
			林田忠雄(7月~)	コ ー チ 青 柳 遼(7月~)	森山博志(7月~)	
2020	令和2	江 口 也 文	//	古 江 秀 崇	//	中 村 洸 太
				足 立 英 郎		
				向 井 矢 子		

筑紫中央高校野球部70年のあゆみ

元	年	月	あ	ゆ	み
昭和	24	4	福岡県立筑紫中央高等学校と改称、男女共学となり男子150名が初めて入学してくる学区制がしかれた。		
		5	特に施設の中でも運動場が狭く、野球部が創設されたが練習場所がなく、他の運動部の練習が終わってから遅くまで練習。		
		7	野球部員40名 当初予算5万円 全国高等学校野球選手大会福岡県南部地区予選は初出場(春日原野球場) 全員1年生、久留米商高にコールド負け 森本鉄之助校長以下全校生徒による大応援を受ける。		
		9	校章制定		
		10	校歌制定(若草萌ゆる筑紫野を…)		
	25		校舎、校地の狭隘から逃れるべく、校地移転請願運動の年であったようだ。 都築貞枝校長を先頭に、職員も一丸となって取り組んでいた。		
		7	全国選手権大会 初戦突破 大牟田南 3-7 筑紫中央 2回戦 三池 1-0 筑紫中央		
		春	九州大会福岡地区予選準々決勝まで進出		
	26	春	前年の校地移転請願が結実し、念願の移転が決定、下大利時代が始まる。		
		7	招待試合(香椎球場)甲子園選抜大会出場校長崎東と善戦1-2で惜敗 全国選手権大会 伝習館 11-5 筑紫中央		
27	7	創立以来40年にわたる住み慣れた雑餉隈校舎から、新校舎(下大利)へ移転した。広々とした田圃の中に2階建ての校舎が完成した。運動場の面積は明らかではない。 全国選手権大会 伝習館 9-3 筑紫中央 (卒業生)投手大坪寿雄 九大合格 野球部で活躍			
28	7	PTAが講堂を建てて県に寄付しようとのことで、早速建築にとりかかった。水産課程が併置された。 全国選手権大会 泰星 2-5 筑紫中央 (卒業生)大和文哉 九大合格 野球部で活躍			
29	7	全国選手権大会 柳川商業 1-2 筑紫中央 (優勝候補を破り、大物喰い始まる)			
	10	10月2日、父母教師会の寄付による講堂落成、然し運動場は狭く、外での部活動はかなり制約をうけていた。10月10日火災が発生、一夜にして新校舎は灰尽と化す。そして再び12月16日火災が発生、それが原因によって、校友会は解散した。 (卒業生)岡部隆太郎			
30	7	全国選手権大会 三池工業 10-2 筑紫中央 (卒業生)渡辺 正 昭和42年選抜高校野球大会に本校監督とし、甲子園出場			
31	1	本館第1期工事の予算通過西鉄側へ校地買収拡張			
	7	全国選手権大会 大牟田南 11-0 筑紫中央			
32	7	全国選手権大会 香椎 7-6 筑紫中央 (卒業生)山本 徳 (卒業生)金堂 守 (卒業生)篠原 俊之			
33	7	本館及び運動場拡張工事が完了した。 全国選手権大会 大川 8-3 筑紫中央 岡本部長・浅田監督コンビ生まれる。 (卒業生)大村幸彦			

元	年	月	あ	ゆ	み
昭和	34	4	当時の体育部は、陸上、野球、排球、バスケット、ハンドボール、ソフト、庭球、卓球、柔道、剣道、山岳の各部となっている。予算総額は683,500円で、校友会総予算額の68%となった。		
		春	福岡市長杯 福岡工業 2-0 筑紫中央		
		7	全国選手権大会福岡県大会(初出場) 小倉高 1-0 筑紫中央(延長11回) 第42回全国大会福岡県予選福岡県南部代表として名門小倉高と対戦、 延長11回 1-0 で敗れ甲子園の夢は敗れたが善戦が光っている。		
		8	岡本部長宅で10日間合宿、浅田監督の特訓はじまる。		
		11	福岡市長杯善戦 準決勝 福岡工業 2-0 筑紫中央 惜敗		
35	4	野球部員数23名			
		7	全国選手権大会2回戦 大牟田南 3-2 筑紫中央		
		9	野球部は昨年活躍したのを機会に「後援会」が発足した。 発起人は田中弥四郎、三条康昭氏県議 大野町町長山上高太郎氏ら30数名の地元有志		
36		体育館建設の請願書が県教育委員会へ提出された。			
	7	全国選手権大会2回戦 福岡工業 5-3 筑紫中央 (卒業生)信国征八郎			
37		創立45周年記念行事が開催			
	7	全国選手権大会2回戦 久留米商業 4-1 筑紫中央			
38	7	全国選手権大会 三池農業 2-1 筑紫中央			
	秋	第31回九州大会福岡県南部予選準決勝進出(初)博多工業 1-0 筑紫中央 (3位決定戦)大川 8-2 筑紫中央 主将の大川内野手が県高校選抜チームに選ばれて沖縄に遠征			
39	7	全国選手権大会 三池農業 2-0 筑紫中央			
40	7	全国選手権大会2回戦 古賀 3-2 筑紫中央 岡本部長・渡辺監督コンビ生まれる 初代OB会長 大岡隼人(27年卒)			
41	7	全国選手権大会2回戦 大濠 5-1 筑紫中央 (卒業生)今林勝英			
42	5	学校創立50周年の年にあたり、盛大な記念行事が開催 創立50年史発刊			
	7	全国選手権大会3回戦 三池工業 4-1 筑紫中央(3回戦出場は初)			
43	7	全国選手権大会 南筑 9-0 筑紫中央			
		福岡市長杯決勝トーナメント出場			
	秋	第43回九州大会福岡県南部予選準々決勝進出 三池工業 5-1 筑紫中央			
44	春	第44回九州大会福岡県南部予選準々決勝 大牟田 5-0 筑紫中央			
	7	全国選手権大会福岡県大会出場(2回目) 準々決勝 飯塚商業 9-0 筑紫中央			
	秋	第45回九州大会福岡県南部予選 3位決定戦 三池 0-2 筑紫中央(平和台球場での九州大会出場決定) 第45回九州大会(平和台) 決勝戦 八代東 1-0 筑紫中央(準優勝となる) (卒業生)北崎恭則			

元	年	月	あ	ゆ	み
昭和	45	2	選抜高等学校野球第42回大会出場決定(2月2日)		
		3	選抜高等学校野球選抜旗授与式・壮行会(3月18日)／応援団結成(3月20日) 野球部選手団出発 激励会(3月21日)／応援団出発(バス3台)(3月28日) 堀越高校と対戦6-1で惜敗(3月29日) 第42回選抜高等学校野球大会に出場が決定、念願の甲子園大会へ出場した。 1回戦名門の堀越高校と対戦、6-1で敗れはしたが善戦し、筑紫中央高校の校名を全国に知らしめた。また応援団はバス3台で出発。応援部の演技と応援内容は大好評を拍した。		
		4	野球部は前年度の実績から九州大会(宮崎)へ出場 九州地区高校野球大会 海星 1-0 筑紫中央		
		5	近県高校招待試合 対長崎二高校・早鞆高校(5月17日) 福岡市長杯決勝戦		
		6	長崎に遠征(6月27日)		
		7	全国選手権大会福岡県大会出場(3回目) 準決勝 博多工業 4-3 筑紫中央(大谷球場)		
		46	7	全国選手権大会3回戦 博多工業 7-4 筑紫中央	
47	4	1年生14学級600名が入学、男子が多く体育部活動には活気づいたが、練習場所が狭くなった。			
	7	全国選手権大会2回戦 大濠 6-5 筑紫中央			
48	7	全国選手権大会 香椎 8-3 筑紫中央			
49	4	第54回九州大会福岡県南部予選2回戦 博多工業 5-3 筑紫中央			
	7	全国選手権大会 宗像 6-4 筑紫中央			
50	4	第56回九州大会福岡県南部予選2回戦 伝習館 4-2 筑紫中央			
	7	全国選手権大会福岡県大会出場(4回目) 小倉南 6-2 筑紫中央(惜敗)			
51	4	第58回九州大会福岡県南部予選4回戦 東海大五 7-3 筑紫中央			
	5	福岡市長杯優勝 筑紫中央 2-1 東福岡			
	6	同窓会館落成			
	7	全国選手権大会4回戦出場 福岡 3-0 筑紫中央			
	秋	九州大会福岡県南部予選2回戦 筑紫工業 2-1 筑紫中央			
52	4	九州大会福岡県南部予選2回戦 久留米商業 6-2 筑紫中央			
	7	全国選手権大会4回戦出場 福岡工業 4-3 筑紫中央			
	秋	九州大会福岡県南部予選3回戦 伝習館 13-0 筑紫中央			
53	7	全国選手権大会2回戦 大川 7-0 筑紫中央			
	秋	九州大会福岡県南部予選2回戦 福岡工業 5-0 筑紫中央			
54	4	九州大会福岡県南部予選2回戦 大川工業 8-0 筑紫中央			
	5	創立60周年、防音校舎改築落成記念式典			
	7	全国選手権大会 明善 8-6 筑紫中央			

元	年	月	あ	ゆ	み
昭和	55	7	全国選手権大会 福岡工業大学付属 5-4 筑紫中央		
		秋	九州大会県南予選2回戦 伝習館 6-1 筑紫中央		
	56	6	新応援歌発表「勝利の歌」 作詞 各務章校長 作曲 池田嘉彦教諭 「燃ゆる闘魂」 作詞 木原昭三教諭 作曲 池田嘉彦教諭 「炎のごとく」 作詞 平田 炎、内田一治 作曲 池田嘉彦教諭		
		7	全国選手権大会2回戦 伝習館 5-4 筑紫中央		
	57	4	九州大会福岡県南部予選2回戦 伝習館 9-8 筑紫中央		
		7	全国選手権大会2回戦 福岡中央 11-7 筑紫中央		
	58	7	全国選手権大会 武蔵台 9-1 筑紫中央		
	59	4	九州大会福岡県南部予選3回戦 大牟田 13-1 筑紫中央		
		7	全国選手権大会 東海大五 5-3 筑紫中央		
		秋	九州大会福岡県南部予選2回戦 東海大五 12-2 筑紫中央		
60	4	九州大会福岡県南部予選2回戦 修猷館 10-6 筑紫中央			
	7	全国選手権大会2回戦 福岡 3-1 筑紫中央			
	秋	九州大会福岡県南部予選2回戦 福岡商業 6-2 筑紫中央			
61	7	全国選手権大会 久留米 3-2 筑紫中央			
	秋	九州大会福岡県南部予選準決勝戦に進出 柳川 8-1 筑紫中央			
62	4	九州大会福岡県南部予選2回戦 久留米工業大学付属 3-2 筑紫中央			
	7	全国選手権大会2回戦 福岡 3-2 筑紫中央 学校創立70周年記念誌(若草もゆる)発行			
	10	27年卒 大岡隼人「母校の思い出」記念講演			
63	4	九州大会福岡県南部予選2回戦 筑紫丘 5-1 筑紫中央			
	7	全国選手権大会2回戦 香椎工業 2-1 筑紫中央			
平成	元	7	全国選手権大会 早良 8-4 筑紫中央		
		秋	九州大会福岡県南部予選2回戦 糸島 7-3 筑紫中央		
	2	4	九州大会福岡県南部予選2回戦 柳川 9-1 筑紫中央		
		7	全国選手権大会2回戦 新宮 3-2 筑紫中央		
	3	5	第88回九州大会福岡県南部予選4回戦 東海大五高 13-3 筑紫中央		
		7	全国選手権大会 沖学園 6-4 筑紫中央		
	4	4	福岡市長杯2回戦 博多工業 3-0 筑紫中央 野球部「父母の会」結成 会長今村勝之介		
		7	全国選手権大会 南筑 6-4 筑紫中央		
		8	夏季福岡市長杯3回戦 玄界 2-1 筑紫中央 決勝トーナメント 筑紫丘 7-0 筑紫中央		
		9	九州大会福岡県南部予選4回戦 九州産業大学付属九州産業 6-2 筑紫中央		

元	年	月	あ	ゆ	み
平成	5	4	春季福岡市長2回戦 玄海 7-6 筑紫中央		
		7	全国選手権大会2回戦 筑紫丘 2-1 筑紫中央		
		8	福岡地区公立高校野球大会3回戦 春日 4-1 筑紫中央 夏季福岡市長杯決勝トーナメント 春日 4-2 筑紫中央		
	6	4	九州大会福岡県南部予選3回戦 久留米商業 7-0 筑紫中央		
		7	全国選手権大会2回戦 柳川 3-0 筑紫中央		
		8	福岡地区公立高校野球大会 優勝 筑紫中央 5-4 福岡工業 夏季福岡市長杯決勝トーナメント 早良 6-5 筑紫中央		
		10	第2代OB会会長 石川三雄(27年卒)		
	7	3	九州大会福岡県南部予選3回戦 西日本短期大学付属 11-0 筑紫中央		
		7	全国選手権大会2回戦 柳川 3-1 筑紫中央		
		8	福岡地区公立高校野球大会 筑紫中央 5-0 春日 夏季福岡市長杯四回戦 東海大五 8-7 筑紫中央 会長黒田 野球部父母の会会長 黒田知邦 応援団旗作成		
	8	3	九州大会福岡県南部予選2回戦 柳川 14-3 筑紫中央		
		7	全国選手権大会福岡県大会出場(5回目) 東筑 6-1 筑紫中央 ※東筑高が甲子園大会に出場		
		8	第3回福岡地区公立高校野球大会 準優勝 福岡 5-1 筑紫中央 夏季福岡市長杯決勝トーナメント 九州産業大学付属九州産業 5-1 筑紫中央		
		9	九州大会福岡県南部予選 糸島 8-5 筑紫中央		
	9	3	九州大会福岡県南部予選 久留米商業 6-3 筑紫中央		
		4	春季福岡市長杯 筑陽学園 11-0 筑紫中央 創立80周年記念誌(筑紫中央)発行		
		7	全国選手権大会2回戦 西日本短期大学付属 3-0 筑紫中央		
		8	春季福岡市長杯決勝トーナメント 東福岡 17-3 筑紫中央 第4回福岡地区公立高校野球大会 武蔵台 14-11 筑紫中央		
		秋	61年卒橋口晋伊智氏がバックネット裏に簡易スタンドを贈呈		
		9	九州大会福岡県南部予選 福岡第一 11-1 筑紫中央		
	10	3	九州大会福岡県南部予選2回戦 南筑 7-5 筑紫中央		
		4	春季福岡市長杯3回戦 宇美商業 3-2 筑紫中央		
		7	全国選手権大会 久留米筑水 5-4 筑紫中央		
		8	夏季福岡市長杯 第5回福岡地区公立高校野球大会		
		9	九州大会福岡県南部予選		
		11	第3代OB会会長 今田敬輔(27年卒)平成10年11月27日就任		
		12	野球部50年誌第1回編集委員会(12月26日)		

元	年	月	あ	ゆ	み
平成	11	1	野球部創部50周年記念事業事務局開設(同総会館)(1月12日)		
		3	九州大会福岡県南部予選	回戦	- 筑紫中央
		7	全国選手権大会2回戦 朝倉 4-3 筑紫中央		
		8	筑紫中央高校野球部創部50周年記念式典開催(8月28日) 記念誌「甲子園への道」(50年のあゆみ)500部発刊 野球部創部50周年記念式典挙行(のがみ会館)		
		秋	九州大会福岡県南部予選	回戦	- 筑紫中央
	12	3	九州大会福岡県南部予選2回戦 粕屋 2-1 筑紫中央		
		7	全国選手権大会1回戦 福岡工業大学付属 16-1 筑紫中央		
		秋	九州大会福岡県南部予選準々決勝戦 福岡工業大学付属 8-1 筑紫中央		
	13	3	九州大会福岡県南部予選 福岡工業大学付属城東 7-2 筑紫中央		
		7	全国選手権大会3回戦 福岡工業大学付属城東 9-2 筑紫中央		
		秋	九州大会福岡県南部予選2回戦 福岡舞鶴 5-4 筑紫中央		
	14	3	九州大会福岡県南部予選2回戦 八女 3-1 筑紫中央		
		7	全国選手権大会福岡県大会出場(6回目)5回戦 九州産業大学九州産業 5-1 筑紫中央		
		秋	九州大会福岡県南部予選2回戦 光陵 5-4 筑紫中央		
	15	3	九州大会福岡県南部予選4回戦 福岡大学付属大濠 8-1 筑紫中央		
		7	全国選手権大会2回戦 糸島 4-2 筑紫中央		
		秋	九州大会福岡県南部予選2回戦 九州産業大学付属九州 7-0 筑紫中央		
	16	3	九州大会福岡県南部予選2回戦 東海大五 5-1 筑紫中央		
		7	全国選手権大会3回戦 福岡第一 2-0 筑紫中央		
		秋	九州大会福岡県南部予選 伝習館 6-3 筑紫中央		
17	3	九州大会福岡県南部予選3回戦 西日本短期大学付属 7-5 筑紫中央			
	7	全国選手権大会1回戦 筑陽学園 7-0 筑紫中央			
	秋	九州大会福岡県南部予選3回戦 久留米商業 10-0 筑紫中央			
18	3	九州大会福岡県南部予選4回戦 筑陽学園 7-0 筑紫中央			
	6	第4代OB会長 村上 恵一(昭和41年卒)就任			
	7	全国選手権大会1回戦 福翔 6-3 筑紫中央			
	秋	九州大会福岡県南部予選2回戦 大牟田 3-2 筑紫中央			
19	3	九州大会福岡県南部予選 明善 9-6 筑紫中央			
	7	全国選手権大会2回戦 久留米筑水 4-3 筑紫中央			
	秋	九州大会福岡県南部予選3回戦 筑紫台 8-0 筑紫中央			

元	年	月	あ	ゆ	み
平成	20	3	九州大会福岡県南部予選3回戦	三池工業	6-5 筑紫中央
		7	全国選手権大会1回戦	久留米学園	4-3 筑紫中央
		秋	九州大会福岡県南部予選2回戦	福岡魁誠	5-2 筑紫中央
	21	3	九州大会福岡県南部予選2回戦	武蔵台	6-4 筑紫中央
		7	全国選手権大会2回戦	東福岡	4-1 筑紫中央
		秋	九州大会福岡県南部予選2回戦	福岡工業大学附属城東	7-0 筑紫中央
	22	3	九州大会福岡県南部予選2回戦	玄界	8-0 筑紫中央
		7	全国選手権大会2回戦	福岡工業大学附属城東	8-0 筑紫中央
		秋	九州大会福岡県南部予選2回戦	中村三陽	7-1 筑紫中央
	23	3	九州大会福岡県南部予選	柳川	10-3 筑紫中央
		4	福岡市長杯争奪高等学校野球大会	筑前	5-3 筑紫中央
		7	全国選手権大会1回戦	福岡魁誠	5-1 筑紫中央
		秋	九州大会福岡県南部予選2回戦	西南学院	8-1 筑紫中央
	24	3	九州大会福岡県南部予選3回戦	福岡工業大学附属城東	4-3 筑紫中央
		7	全国選手権大会1回戦	柳川	1-0 筑紫中央
		8	福岡市長杯争奪高等学校野球大会	宗像	10-0 筑紫中央
		秋	九州大会福岡県南部予選3回戦	古賀竟成館	3-2 筑紫中央
		10	福岡地区高等学校1年生野球大会	筑前	7-0 筑紫中央
	25	3	九州大会福岡県南部予選2回戦	春日	9-1 筑紫中央
		6	第5代OB会長	伊藤 徳明(昭和45年卒)	就任
		7	全国選手権大会2回戦	博多	3-0 筑紫中央
秋		九州大会福岡県南部予選	純真	4-2 筑紫中央	
26	3	九州大会福岡県南部予選3回戦	柏陵	8-7 筑紫中央	
	7	全国選手権大会4回戦	久留米学園	4-1 筑紫中央	
	8	福岡地区高等学校新人野球大会	香椎	9-0 筑紫中央	
	秋	九州大会福岡県南部予選3回戦	沖学園	11-2 筑紫中央	
	10	福岡地区高等学校1年生野球大会2回戦	福岡工業	14-3 筑紫中央	

元	年	月	あ	ゆ	み
平成	27	3	九州大会福岡県南部予選3回戦	玄洋	6-1 筑紫中央
		4	福岡市長杯争奪高等学校野球大会2回戦	福岡	7-0 筑紫中央
		7	全国選手権大会2回戦	筑紫	11-10 筑紫中央
		8	福岡地区高等学校新人野球大会2回戦	春日	11-9 筑紫中央
		秋	九州大会福岡県南部予選2回戦	明善	6-2 筑紫中央
		10	福岡地区高等学校1年生野球大会	福岡大学附属大濠	11-1 筑紫中央
		11	バッティングゲージ設置(保護者会からの支援を受けOB会から学校へ寄付)		
28	3	九州大会福岡県南部予選2回戦	久留米高専	14-0 筑紫中央	
		福岡地区高等学校野球大会	修猷館	6-4 筑紫中央	
		全国選手権大会2回戦	福岡中央	6-3 筑紫中央	
		福岡地区高等学校新人野球大会3回戦	筑陽学園	10-7 筑紫中央	
		秋	九州大会福岡県南部予選	九州産業大学附属九州産業	10-3 筑紫中央
		10	福岡地区高等学校1年生野球大会準々決勝	筑陽学園	6-1 筑紫中央
29	3	九州大会福岡県南部予選4回戦	西日本短期大学附属	2-0 筑紫中央	
		福岡地区高等学校野球大会3回戦	東福岡	7-0 筑紫中央	
		全国選手権大会4回戦	筑陽学園	6-2 筑紫中央	
		福岡地区高等学校新人野球大会3回戦	修猷館	7-1 筑紫中央	
		秋	九州大会福岡県南部予選4回戦	春日	13-1 筑紫中央
		10	福岡地区高等学校1年生野球大会	福岡	9-7 筑紫中央
30	3	九州大会福岡県南部予選	九州産業大学附属九州産業	8-2 筑紫中央	
		第42回選抜高校野球大会出場記念石碑設置(OB会から学校へ寄附)			
		福岡地区高等学校大会2回戦	福岡大学附属大濠	3-1 筑紫中央	
		全国選手権大会2回戦	大牟田	8-0 筑紫中央	
		福岡地区高等学校新人野球大会2回戦	博多	8-7 筑紫中央	
		秋	九州大会福岡県南部予選	博多	2-1 筑紫中央
31	3	第144回九州地区高等学校野球福岡大会3回戦	福工大城東	5-0 筑紫中央	
		第6回福岡地区高等学校野球大会2回戦	西南学院	3-1 筑紫中央	
令和	元	7	第101回全国高等学校野球選手権福岡大会	1回戦 久留米商業	11-2 筑紫中央
		8	第6回福岡地区高等学校新人野球大会	準々決勝 九産大附属九州	5-2 筑紫中央
		秋	第145回九州地区高等学校野球福岡大会	3回戦 福大大濠	5-0 筑紫中央
		11	筑紫中央高校野球部創部570周年記念式典開催(11月10日) 記念誌「甲子園への道」(70年のあゆみ)1,000部発刊		

福岡県立筑紫中央高等学校野球部OB会規約

第1章 名称及び本部

第1条 本会は、筑紫中央高等学校野球部OB会と称する。

第2条 本会の本部を筑紫中央高等学校野球部（以下「野球部」と言う。）に置く。

第2章 目的及び事業

第3条 本会は、野球部を後援指導し、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第4条 本会は、この目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 野球部に対する後援並びに指導。
2. 諸行事、諸会合の開催。
3. その他、必要な事業。

第3章 会員及び会費

第5条 本会の会員は次のとおりとする。

1. 野球部に在籍した者、並びに野球部関係者。
2. 本会の目的、事業に賛同する者。

第6条 本会の会員は、原則として一口1,000円、年間三口3,000円以上の会費を負担する。ただし、新規卒業者については、OB会入会金として10,000円を負担し、卒業後4年間または学生（専門学校を含む）については会費の納入を免除する。

第4章 役員

第7条 本会に次の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 副会長 2名
3. 常任理事 10名以上
4. 監査 2名
5. 会計 1名
6. 事務局 2名
7. 支部を設ける場合は、支部長、副支部長及び監事1名を置くことができる。
8. 以上の他、必要に応じ名誉会長、顧問等を置くことができる。

第8条 会長は、常任理事会で選任され、本会を代表して会務を統括する。副会長は、常任理事会で選任され、会長を補佐する。

第9条 常任理事は、会員より選出され、常任理事会を構成する。常任理事の任期は1年とする。ただし、留任は妨げない。

第10条 監査は会員より選任され、会計の監査に当たる。

第11条 理事会は次の事項に当たる。

1. 事業計画及び予算の作成
2. 会費の徴収
3. 事業報告及び決算
4. 諸行事及び諸会合の開催
5. 通信、連絡等に関する事務
6. その他必要な事業

第5章 会議

第12条 総会は、年1回の通常総会及び臨時総会とする。

第13条 次の事業は、総会の議決を経ることを必要とする。

1. 事業計画及び報告に関する事。
2. 役員を選任及び解任に関する事。
3. 規約の改正に関する事。

第14条 総会の議決を経ねばならない事項で、緊急を要するものは、常任理事会の議決により専決処分することができる。ただし、この場合は、次の総会において承認を得ることを要す。

第6章 会計

第15条 本会の経費は、入会金・会費・寄付金をもって賄う。

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

第7章 附則

1. 本規約の施行に関する細則は、常任理事会により定める。
2. 本規約は、平成9年11月15日から施行する。
3. 平成15年3月1日一部改正
4. 平成22年6月26日一部改正
5. 平成25年6月29日一部改正

筑紫中央高等学校OB会役員一覧

会 長	伊 藤 德 明	昭和45年卒
副 会 長	武 末 亘	昭和46年卒
	渡 辺 利 勝	昭和46年卒
	西 藤 興 治	昭和57年卒
監 査	納 富 洋 祐	昭和58年卒
	四 枝 浩 和	昭和59年卒
会 計	吉 川 真 司	平成11年卒
事 務 局	中 嶋 稔 郎	平成 2年卒
	村 津 卓 二	平成10年卒
常 任 理 事	安河内 重 光	昭和33年卒
	的 野 福 實	昭和41年卒
	瀬 利 信 行	昭和47年卒
	古 賀 洋 一	昭和55年卒
	松 尾 幸 一	昭和55年卒
	小 倉 德 浩	昭和56年卒
	内 田 勇 人	昭和57年卒
	財 津 隆 浩	昭和58年卒
	宮 本 貴 彰	平成 8年卒
	秋 根 弘 道	平成 9年卒

野球部OB会名簿

昭和27年卒業

氏名
大岡隼人
瀧口隼生
石川三雄
今田敬輔
大寺章弘
下川順一
武末尚文
田添栄一
河波土弥
鹿児島康裕
酒井浩
村島洋一

昭和28年卒業

氏名
井上 憲
大坪寿雄
伊藤昌平
井上義教

昭和29年卒業

氏名
吉田博幸
井上 隆
月原一雄
永田季雄
大和文哉
岡本 稔

昭和30年卒業

氏名
福元良治
岡部隆太郎

大野貞俊
江登正宣
松雪敏夫
高野整一
桑野範久

昭和31年卒業

氏名
池内増男
伊藤 光
渡邊 正
井手 孜

昭和32年卒業

氏名
大庭茂義
古沢誠吾
徳重合太郎
満生 護
原 陽三
大神柳太郎
岡部忠広

昭和33年卒業

氏名
山本 徳
小林義光
篠原俊之
金堂 守
川辺勝幸
永田三吉
吉田 功
安河内重光
乙藤和義

山岸弘幸

昭和34年卒業

氏名
榊 透
半田了資
大村幸彦
野中邦彦
篠原 彰
友池忠義

昭和35年卒業

氏名
東 一男
草野友勝
竹藤 剛
藤尾一馬
中島国明
嶋野 久

昭和36年卒業

氏名
横溝征一郎
宗野文雄
井上英治
志賀圭介
<small>(旧姓 洲上)</small> 牧山那美

昭和37年卒業

氏名
小澤重宏
国武博志
内場高広
<small>(旧姓 白水)</small> 信国征八郎
早稻田邦重

進藤泰清
松田勇機

昭和38年卒業

氏名
森村隆弘
宮森勝基
渡辺国廣
東 国昭
古賀勝也
太田嘉昭
草野仁一
広田宣昭

昭和39年卒業

氏名
大川重信
加藤 勲
緒方則明
和田敏雄
中島喜三

昭和40年卒業

氏名
岩本護美
伊藤秀一
永田雅雄
本田健善
佐藤研二
永利有二

昭和41年卒業

氏名
村上恵一
安川明夫

川瀬克志
の野福實

昭和42年卒業

氏名
村田秀三
今林勝英
鹿野正治
田辺博司
酒井信男
鴛海量雅
岡部一利

昭和43年卒業

氏名
嶋晴一
村上順治
大藪丈幸
木庭敬一郎
佐藤良三

昭和44年卒業

氏名
久永正範
小松孝行
北橋正広
今村光英
井上芳博
中野高幸
白壁秀敏
宮原勝美

昭和45年卒業

氏名
弓削裕正
平山啓治

伊藤徳明
北崎恭則
小館克仁
堺均

昭和46年卒業

氏名
渡辺利勝
武末亘
内山田慶弘
田中博

昭和47年卒業

氏名
高田信彦
瀬利信行
斉藤浩司
藤渡雄志郎
松尾雅文
平島聖治
内川孝
古賀信行
<small>(旧姓 春野)</small> 橋辺三紀雄
武末義則

昭和48年卒業

氏名
長野徹郎
入佐一博
中村健二
木庭英二

昭和49年卒業

氏名
林敏行
泉宏之

天野弘基
上野清海
今泉貞雄
田中淳一

昭和50年卒業

氏名
大廣申一
前田展宏
有吉周策
龍田修二
富永輝夫
樋口清隆

昭和51年卒業

氏名
藤渡登志郎
永井確
<small>(旧姓 住永)</small> 矢崎信之
土橋美佐子
松井司

昭和52年卒業

氏名
八木政成
大久保善盛
岡部昇
山下正則
高橋和幸

昭和53年卒業

氏名
安永豊
藤井徳浩
中嶋光健
沢村真左夫

松崎浩治
清水勝喜
造士聖一

昭和54年卒業

氏名
永川良文
天野敏哉
高山透
大石修

昭和55年卒業

氏名
森山博志
<small>(旧姓 村上)</small> 下川茂隆
古賀洋一
松尾幸一
長沢和幸
三谷信也
淵上浩
鐘ヶ江文子

昭和56年卒業

氏名
山口輝昭
執行淳一
元木伸久
伊藤幸一
<small>(旧姓 中村)</small> 黒田典子
小倉徳浩

昭和57年卒業

氏名
田代博文
西藤興治

後藤浩一
内田勇人

昭和58年卒業

氏名
森口宏
納富洋祐
山田泰史
財津隆浩
国武公一
松浦良一
白浜司
山本英一郎
武藤啓介
小田一人
鐘ヶ江聖
古野真也
<small>(旧姓 大部)</small> 立木由美子

昭和59年卒業

氏名
<small>(旧姓 樺木)</small> 成田康文
江渕治彦
四枝浩和

昭和60年卒業

氏名
蓑輪雅治
中村聡
荒木勝也
木村昌二
田中典夫
後藤修至
広田繁孝
杉本勝久

浜辺康久
仲晋介
川路誠治
中尾秀治
小泉清子

昭和61年卒業

氏名
橋口親一
松野秀樹
木村慶太
小川弘樹
今村勝尚
安西克彦
大塚健治
児玉貴彦

昭和62年卒業

氏名
坂田裕之
首藤雄一
富永孝男
中野貞之
真崎浩一
松岡慎太郎
吉岡幹登
川上正美
豊増一子

昭和63年卒業

氏名
森田英雄
渡辺順司
園元秀人
高野雄一郎

深田克征
藤田秀行
石貫豊三郎
隈本英生
古賀祥一郎
大山清敬
新倉勝也
牟田恭司
<small>(旧姓 杉森)</small> 吉富直子
<small>(旧姓 柳堂)</small> 荻山美和

平成1年卒業

氏名
吉次則政
渕脇裕志
<small>(旧姓 下川)</small> 青山寛子

平成2年卒業

氏名
石井和男
鍋田稔
田中真
谷水城
中嶋稔郎
吉田和広
菊武直樹
長崎剛
西澤英治
清水信也
福島薫

平成3年卒業

氏名
島添貞美
陶山正夫

勝本俊二
武藤勝喜
井上淳二
平野智子

平成4年卒業

氏名
藤秀人
北里憲章
日永田収
蒲原敬人
松本貴紀
荒木秀明
今村泰介
田中恵美

平成5年卒業

氏名
小林進也
上野浩二
牟田和志
安武清市
山内慎吾
尾崎信幸
武石尚久
皆川崇
平山順一
村山健次
井上暢子
井上和亮

平成6年卒業

氏名
原口和弘
寺尾剛

信 国 真 一
安 西 浩 二
山 川 周 作
野 間 与 史
吉 原 清 彦
石 井 涉
吉 田 謙 太 郎
有 吉 幸 司
池 田 健 一 郎
田 島 敦 子
<small>(旧姓 藤井)</small> 坂 東 純 子

平成7年卒業

氏 名
黒 田 豊 紀
行 徳 正 保
山 田 智 之
上 揚 亮
小 沢 雅 之
新 飼 孝 文
碓 順 也
木 村 聖 一
田 中 司
日 高 裕 敬
前 田 圭
<small>(旧姓 大穂)</small> 森 川 恵 己
小 川 亮 子
<small>(旧姓 浦原)</small> 野 田 智 子

平成8年卒業

氏 名
酒 井 栄 司
江 島 和 雄
波 呂 英 明

松 下 智 昭
宮 本 貴 彰
木 戸 大 輔
大 山 春 樹
岡 圭 一
林 田 直 之
今 橋 俊 裕
野 上 達 雄

平成9年卒業

氏 名
田 中 弘 樹
八 尋 康 一
田 島 欽 平
不 老 雅 揮
秋 根 弘 道
桑 本 敦 海
白 水 陽 三
児 嶋 潤 一
平 島 慎 也
野 村 武
三 苫 賢 治
小 沢 亜 由 美
後 藤 聡 子

平成10年卒業

氏 名
村 津 卓 二
大 賀 崇 之
中 原 洋 介
井 手 辰 哉
池 永 修 久
小 山 徹
永 池 健 治

春 高 慎 二
山 田 健
前 田 耕 平
上 揚 圭
天 前 進 矢
山 崎 大
江 濱 沙 也 香
松 元 亜 希 子
嶋 津 真 季 子

平成11年卒業

氏 名
平 島 道 雄
小 部 智 徳
井 上 進
扇 和 彌
田 中 一 行
高 木 威 史
金 子 久 志
木 本 聡 一 郎
城 戸 啓 行
吉 川 真 司
林 田 洋 樹
柳 迫 茂
渡 辺 千 明
山 野 奈 緒

平成12年卒業

氏 名
川 原 豪 介
枝 松 祥 弘
松 本 雅 史
福 田 真 治
玉 城 洋 明

米 俊 太 郎
吉 岡 誠 司
江 島 賢 二
春 木 裕 久
岡 崎 誠 司
村 山 友
吉 良 恵 一

平成13年卒業

氏 名
藤 武 裕 司
粟 田 哲 郎
大 川 内 貴 信
穴 栗 俊 太
高 橋 裕 一
矢 野 賢 治
<small>(旧姓 松田)</small> 上 川 英 一 郎
<small>(旧姓 加藤)</small> 正 田 和 美
<small>(旧姓 中村)</small> 田 村 優 希

平成14年卒業

氏 名
西 村 英 樹
平 井 渡
荒 川 雄 太
石 井 誠
金 尾 直 樹
田 中 慎 二
平 山 隆 司
元 村 隆 秀
圓 福 淳 一
深 水 良 彦
菊 池 剛 史
<small>(旧姓 今長谷)</small> 田 中 幸 代

平成15年卒業

氏名
塚本 祐次
山本 崇了
田中 恵
朝野 洵
伊藤 まこと
上田 勇介
岡 慎太郎
岡 泰宏
小澤 憲
楠 祐一郎
倉富 弘和
前田 和寛
松原 誠司
三丸 翔
本山 直樹
山村 匡史
松木 恵理

平成16年卒業

氏名
緒方 賢治
平田 泰久
石橋 賢
黒木 貴博
中西 遼平
長野 文也
服部 勇太
古川 真也
吉富 寛史
柴崎 啓太
迫田 浩太
松尾 祐輔

末竹 康二
関口 雄三
高橋 龍範
西森 大和
深水 崇弘
土山 力也

平成17年卒業

氏名
吉武 賢司
辻 栄作
今長谷 僚一
平井 幸太郎
戸祭 圭策
川島 達也
後藤 真一郎
平川 貴大
久保田 勇氣
畑中 謙亮
才原 渡
橋本 康孝
内田 達也
今村 公哉
木原 由雄
井手 麻貴
松永 紳一郎
<small>(旧姓 井本)</small> 松田 奈々子
<small>(旧姓 大石)</small> 岩谷 早夏

平成18年卒業

氏名
松崎 俊大
諫山 拓
清村 大樹

小野 健太
黒瀬 将太
酒見 翔太
草場 惇也
園田 竜也
角田 英洋
野口 智弘
花田 雄太郎
日高 翔悟
藤澤 祐二
牧瀬 康明
巻田 隼人
松本 尚之
松本 良弘
満生 博和
八尋 浩太
八尋 亮介
山中 啓資
山根 浩紀
伊藤 利采
<small>(旧姓 浦川)</small> 佐藤 真子
<small>(旧姓 笠原)</small> 藤井 さゆり

平成19年卒業

氏名
松瀬 健吾
児玉 寛
桧垣 亨
阿部 将幸
田中 健人
河野 祐輝
宮崎 貴大
竹川 幸佑

西原 大祐
木屋 翔太
森 嘉彦
高村 郁子

平成20年卒業

氏名
山田 貴大
森山 洋光
中嶋 佳晃
植田 新
加藤 慎也
黒木 教太郎
原田 潤
渡辺 雄大
小園 一真
矢野 健史
中元 恭平
橋野 克也
中山 裕美子

平成21年卒業

氏名
福元 貴大
畠中 勇輔
古賀 亮佑
篠原 康太
岩谷 侑
新内 雄一朗
藤木 聖也
入江 洋一
福田 雄貴
高野 公平
都留崎 勇希

永岡佑樹
福田由樹
古賀貴之
竹崎大貴
二宮大樹
横田大悟

平成22年卒業

氏名
田中壮史
増田雄太
深川大樹
中村大希
桑原智紀
齊藤一馬
松本大志
田島一輝
中田賢志
渋谷典幸
霜出健太
瀬尾和明
前川慎太郎
秋山誠
馬越一喜
井上哲也
上里龍平
池田勇気
牛崎翔太
福田大貴
木下貴恵
植田実央

平成23年卒業

氏名
水落光哉
井崎悠介
岡部誠
川元崇志
木村正彦
吉柳諒一
久保俊哉
仲尾優作
花田健史郎
福永達也
山口滉樹

平成24年卒業

氏名
岩見亮平
秋吉賢和
久保山智弘
須藤一弥
中村健太郎
福永健司
村山健太
山下仁

平成25年卒業

氏名
高橋亮丞
霜出直人
高倉匡平
福盛湧基
牛島直紀
小出勝也
村上雄馬

中島佑大
堤田光一
岡部真也
鐘江勇介
加隈卓人
兼安健太
松本優大
大部隆二
福山愛梨

平成26年卒業

氏名
高木駿
川崎壺生
宇都宮勇氣
阿部秀平
神代晟治
能丸楓矢
重松孝季
山田歩
國分康稔
吉村勝
川山凌平
飯田紗彩

平成27年卒業

氏名
石垣智聖
岡部隼太
柴田聖矢
稲田雄太郎
大岡篤司
木下大輔
坂本博庸

島優之
徳永一真
永田恭平
西村祐輔
野崎隼介
本田悠斗
松尾健吾
松木航
宮崎力汰郎
宮本賢成
山崎哲
横山拓也
池江杏奈

平成28年卒業

氏名
荒川大地
柿本大地
金子大真
坂本溪
佐藤諒平
清水宏基
高田健太
武本雅大
津山史也
中谷仁
古立幸大
町田和生
松本和也
水谷竜也
森真斗
山下将吾
松尾かおり

平成29年卒業

氏名
伊賀上 誠 司
五十嵐 駿 牙
池 口 健 人
市 山 哲 史
伊 藤 巧
今 田 祐 貴
上 田 倅 生
緒 方 清 悟
貝 田 功 輝
片 田 虎 秀
久保内 健 太
近 藤 諒
佐 藤 僚 大
杉 本 尚 己
中 村 燎
渡 祐 基
三 浦 功 大
毛 利 海 斗
森 山 晃 瑠
吉 積 洵 平
小 川 春 奈

平成30年卒業

氏名
染 谷 敬 太
井 上 透
今 井 陸太郎
上 田 郁 海
川 上 竣 平
木 下 雄一朗
江 田 寛 市

嶋 崎 皓 太
谷 本 遼 太
出 水 望 巳
富 永 真 生
中 嶋 泰 至
中 村 路 安
西 村 直 樹
新 田 陸 登
林 文 斗
堀 亘 紀
美 山 大 季
森 和 義
森 竜之佑
中 野 実 咲

平成31年卒業

氏名
木 村 健 人
矢 川 楓
山 川 陽 樹
吉 川 拓 真
阿 部 孝太郎
岩 崎 翔 馬
上 嶋 凌 大
植 野 隼 斗
江 口 友 和
遠 藤 優 太
川 崎 雄 大
木 下 将
田 中 秀 龍
服 部 蓮 音
松 尾 貴 登
松 永 大 輝

梁 元 丈 琉
山 本 陸 斗
松 島 綾 夕
村 上 塔 子



第42回 選抜高校野球大会出場記念石碑設置

筑紫中央高等学校創立100周年記念に関連し、野球部OB会では、第42回選抜高校野球大会出場記念石碑の設置を行いました。なお、除幕式の概要は次の通りでした。

- 除幕式／平成30年3月25日(日) 12時～
- 場 所／石碑設置場所(母校体育館と講堂の間)
- 出席者／来賓

県 議／井上 順吾	同窓会長／鬼塚 春光
校 長／平塚 健士	同窓会副会長／高橋 裕司
副校長／中神 智文	副会長／関井 利夫
教 頭／井上 英一郎	事務局／梶谷 裕子
事務長／嘉村 知久	保護者会長／植野 雄一
	同窓会大野城支部／藤 嘉昭 萩原 恵二郎 井福 大昌
	OB／大岡 隼人初代会長 他30名

石碑の概要

高さ=1350mm 幅=1500mm 材質=白御影石

石碑には、表面に第42回選抜高校野球大会出場記念の文字を入れ、裏面には、出場当時の、監督コーチ及び出場選手全員の自筆署名を入れた皿の焼き物を転写している。



除幕式の様子 石碑はバックネットを向いている



来賓の皆様



OBの皆様



井上順吾県議



平塚健士校長



鬼塚春光同窓会長

除幕式終了後、同窓会館において簡単な祝賀会を行いました。当時全国から選抜された強豪校の選手の中で、一番身長が低かった内川内野手が、なぜ当時のユニフォームを持っているか、そのユニフォームがグリーンを基調とし、カラー放送向きとの理由でテレビ取材を受けた話等の思い出話で盛り上がりました。



甲子園出場メンバー

福岡県立筑紫中央高等学校

野球部創部50周年記念式典・祝賀会



平成11年8月28日 於 のがみプレジデントホール筑紫

野球部創部50周年記念OB戦



平成11年8月28日 於 筑紫中央高校



福岡県立筑紫中央高等学校
野球部創部70周年



福岡県立筑紫中央高等学校同窓会
鳳雛会

祝

福岡県立筑紫中央高等学校・野球部
創部70周年おめでとうございます。

換気・空調・衛生設備・住宅機器・水道施設・設計 施工 販売



株式会社丸藤産業

代表取締役 佐藤章成 (高39回生)

〒816-0901 福岡県大野城市乙金東1丁目6-27

TEL 092-503-2911 FAX 092-503-0901

URL <https://www.marufujisangyo.com>

筑紫中央野球部を応援しています



あなたの街の
ガス屋さん



プロパン・ガス器具・住宅機器販売

藤井液化ガス株式会社

〒816-0923 大野城市雑餉隈町2-5-5

☎ (092) 581-1278 FAX (092) 572-2704

祝

筑紫中央高等学校野球部創部70周年



株式会社

清進工業

専務取締役

本多 一男

〒819-0165 福岡市西区今津5413-12

TEL 092-806-8346 FAX 092-806-8347

携帯 090-3602-0452

E-mail: seishin-tekkin@nifty.com

70周年誌

発刊おめでとうございます

大道印刷株式会社

代表取締役 今 村 由紀男

昭和58年卒 納 富 洋 祐

〒816-0873 春日市日の出町6丁目23番地

TEL.092-582-0927 FAX.092-573-1718

<http://www.daido-printing.co.jp>

筑紫中央高校野球部諸君の 益々のご健闘を祈念致します



昭和27年卒

大岡隼人

筑紫中央高校野球部 初代主将
筑紫中央高校野球部 初代OB会会長
筑紫中央高校野球部 五十周年誌編集委員長

イラスト：昭和27年卒 坂口 道弘 作

さらなる高みへ がんばれ筑紫中央高校野球部

昭和58年卒 OB一同

森口 宏 財津隆浩 山田泰史 国武公一
松浦良一 山本英一郎 白浜 司 武藤啓介
小田一人 納富洋祐 鐘ヶ江 聖 古野真也
(旧姓 大部)
立木由美子

祝創部70周年

心よりお祝い申し上げますと共に益々のご発展をお祈り申し上げます。



CHIKUSHI SHOKAI

株式会社 筑紫商会



□本社

〒816-0943

福岡県大野城市白木原4丁目5番11号

TEL : 092-581-0386 FAX : 092-593-0030

□工事部

〒818-0131

福岡県太宰府市水城3丁目24番7号

TEL : 092-921-1155 FAX : 092-921-4376

水廻りのことは何でもご相談下さい。

祝 野球部創部70周年

総合スポーツ用品

関スポーツ

TEL 504-2375

大野城市大池1-15-13(大野東小学校前)

頑張れ！筑紫中央野球部



株式会社 包研

代表取締役社長

昭和57年卒

西藤 興治

KOJI SAITO



〒812-0064 福岡市東区松田1丁目10番16号
TEL(092)611-5600 FAX(092)611-5933
URL <http://www.pack-bosken.co.jp>

記念誌発刊おめでとうございます

高砂商事株式会社

執行役員 室長

昭和58年卒 金子善親

〒810-0011 福岡市中央区高砂2丁目6-2 ニチエイ高砂ビル4F
TEL 092-531-9126 FAX 092-531-9127

上下水道資材・住宅衛生設備機器販売



株式会社 フクスイ

本社 福岡市博多区金の隈3丁目14番15号
TEL : (092) 587-0505(代) FAX : (092) 587-0500
西営業所 福岡市早良区田隈2丁目24番35号
TEL : (092) 866-1331(代) FAX : (092) 865-9999
HP : <http://www/fuku-sui.co.jp>



七輪炭火焼
まるし

春日市須玖北1-56 ☎092-574-2211

昭和56年卒 執行 淳一

筑紫中央野球部を応援しています

目指すは100年企業

社員の熱意と情報発信を通じて
世界を幸せにする会社になります



エスエス産業株式会社

代表取締役社長

昭和57年卒

西藤興治

KOJI SAITO



〒812-0064 福岡市東区松田1丁目10番16号

TEL.(092)621-6531 FAX(092)611-5770

URL <http://www.ss-sangyo.co.jp>



祝 創部70周年

福岡県立筑紫中央高等学校野球部
～大野城市から甲子園を目指せ～

株式会社 筑水ビル

代表 井上孫紹

筑紫中央高等学校・野球部
創部70周年おめでとうございます。

昭和57年卒 OB一同

田代博文 西藤興治 後藤浩一 内田勇人

創部70周年
おめでとうございます。

山田鉄工株式会社

昭和55年卒 古賀洋一

祝 創部70周年
後輩の健闘をお祈りします!

55年卒一同

松尾幸一 森山博志 長沢和幸 村上茂隆
三谷信也 淵上 浩 古賀洋一 鐘ヶ江文子

羽ばたけ筑紫中央ナイン 緑会

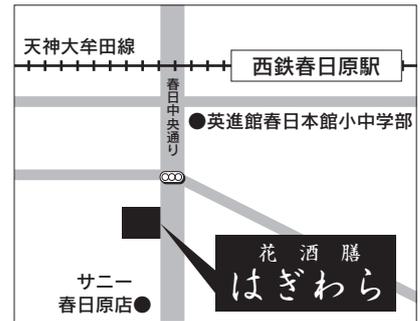
代表 納富洋祐

松尾幸一 長沢和幸 小倉徳浩 四枝浩和
山崎豊明 古賀洋一 財津隆浩 中嶋稔郎

花 酒 膳

はぎわら

春日市春日原北町2丁目26-2 (西鉄春日原駅徒歩2分)
営業時間/17:30~23:00 TEL/092-582-7976



配管用資材・衛生設備資材・冷暖房資材・住宅設備機器

岡田機材株式会社

〒812-0893 福岡市博多区那珂3丁目13番7号
TEL092-441-6112(代表) FAX092-441-6113

祝 野球部創部70周年

やきとり・鍋・活魚
大小宴会

相撲鳥

春日原朝市横 ☎571-4280



株式会社 一新工業

代表取締役 井筒 康人 (昭和48年卒)

本 社 〒818-0041 福岡県筑紫野市上古賀四丁目8番8号 TEL092-922-8111 FAX092-922-2401 e-mail issin-c@etude.ocn.ne.jp
支 店 〒830-0048 福岡県久留米市梅満町三ノ江1567 TEL0942-32-1716 FAX0942-32-1798 e-mail issin-k@hyu.bbiq.jp
営業所 〒818-0122 福岡県太宰府市高雄六丁目2番24号 TEL092-921-1550 FAX092-922-2401



祝70周年
おめでとうございます

平成11年卒一同

筑紫中央高等学校・野球部創部70周年おめでとうございます。



有限
会社 **タバール**
福岡県経営革新計画承認企業

遮熱塗料で快適生活!
塗装のことなら

代表取締役 **田原孝浩** (昭和57年卒)
TABARU TAKAHIRO

Paints
&
Painting

〒816-0821 春日市若葉台東3丁目31
TEL 092-591-7697(代) FAX 092-591-7636
<http://tabaru-paint.jp/>

創部70周年おめでとうございます

筑紫中央高等学校硬式野球部
保護者会



福岡市南区大楠1-27-1F TEL 092-522-4711

定休日:日曜日と第2・4月曜日

平成14年卒 **田中 幸代**
(旧姓 今長谷)

株式会社

 **ライブスポーツ**

〒814-0165

福岡市早良区次郎丸4丁目6番8号

TEL (092) 863-7860

FAX (092) 863-7868

E-mail: livesports@bridge.ocn.ne.jp

～たこやきBAR～

What's Up

福岡市南区大橋2丁目11-12 江川ビル1F

TEL 092-512-5515

昼から飲めます!!

平成14年卒 **平嶋 克崇**

<p>有限会社 中谷プラント設計</p> <p>代表取締役 中谷雅志</p> <p>〒816-0846 春日市下白水南7丁目26番</p>	 <p>セブン-イレブン 博多立花寺店</p> <p>オーナー</p> <p>平成9年卒業 秋根弘道</p> <p>〒812-0862 福岡県福岡市博多区立花寺2丁目1-1 電話 092(504)2505</p>
<p>55会</p> <p>代表 松尾幸一</p> <p>祝 70周年 野球部を応援しています</p>	<p>祝 筑紫中央高校野球部70周年</p> <p>筑紫中央高校野球部</p> <p>平成2年卒業生 一同</p>
<p>祝 野球部創部70周年</p> <p>水道施設・給排水・衛生・空調設備</p> <p>株式会社 共和設備工業</p> <p>代表取締役 山本 正吉</p> <p>〒816-0943 大野城市白木原1丁目7番45号 TEL 581-8121・FAX 581-8154</p>	 <p>Mercedes-Benz</p> <p>はぶ 土生茂章 代表取締役社長</p> <p>メルセデス・ベンツ正規販売店 株式会社シュテルン福岡 〒813-0034 福岡市東区多の津3-9-22 電話：092-623-3131(代) ファックス：092-623-3135 メルセデス・ベンツ福岡東 ☎092-623-3131 メルセデス・ベンツ小倉北 ☎093-583-3481 春日サーティファイドカーセンター ☎092-595-7855</p> <p>http://www.mercedes-benz-fukuokahigashi.jp E-mail:s-habu@idex.co.jp</p>
<p>株式会社コーワ化成</p> <p>取締役常務</p> <p>宮本 貴彰 (平成8年卒)</p> <p>〒811-1254 福岡県那珂川市道善3丁目11-1 電話 (092)953-1138 携帯電話 090-8223-0035 ファックス (092)953-1285 E-mail kowakasei@violin.ocn.ne.jp</p>	<p>フェニックス防除株式会社</p> <p>建築物ねずみ昆虫等防除業登録 登録番号:福岡県26ね第349号</p> <p>代表取締役</p> <p>江島 和雄 (平成8年卒)</p> <p>[所有資格]・ベストコントロール1級技術者・防除作業監督者・しるあり防除施工士</p> <p>〒816-0849 福岡県春日市星ヶ丘3-148 TEL:092-596-8178 携帯:090-1510-8120 FAX:092-981-2488 E-mail:k.ejima@phoenixboujo.com</p>
<p>祝 創部70周年</p> <p>◇◇◇応援しています◇◇◇</p> <p>福岡県立筑紫中央高等学校野球部</p> <p>(有)九州印刷機材 大野城市瓦田4-11-17 代表 小野 道夫 092-587-2977</p>	 <p>三笠木工</p> <p>代表取締役 原田 康男</p> <p>株式会社 三笠木工 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑4-3-7 TEL(092)502-6200 FAX(092)502-6234</p>

賛助者ご芳名

城 戸 敬 子 (S27年卒)

森 田 和 子 (S27年卒)

仰 木 寿美子 (S32年卒)

藤 嘉 昭 (S40年卒)

高 橋 裕 司 (S44年卒)

宇 野 龍 一 (S45年卒)

今 村 敏 勝 (S49年卒)

河 野 隆 介 (S55年卒)

～野球部創部70周年を記念して～

祝白寿 藤 智 恵 先生

ご協賛・ご協力、ありがとうございました。
おかげさまで無事、発刊することができました。
今後とも、筑紫中央高等学校野球部へ
ご支援・ご指導、宜しくお願い致します。

筑紫中央高等学校野球部 OB会一同

福岡県立筑紫中央高等学校 野球部創部70周年記念事業実行委員会

相談役	大岡 隼人	初代OB会長(創部時メンバー)	実行委員	吉武 賢司	平成17年卒
〃	今田 敬輔	第三代OB会長(創部時メンバー)	〃	松崎 俊大	平成18年卒
〃	滝口 隼生	創部時メンバー	〃	西原 大祐	平成19年卒
〃	村上 恵一	第四代OB会長(昭和41年卒)	〃	山田 貴大	平成20年卒
実行委員長	伊藤 徳明	OB会長(第5代OB会長 昭和45年卒)	〃	福元 貴大	平成21年卒
副実行委員長	武末 亘	OB会副会長(昭和46年卒)	〃	田中 壮史	平成22年卒
〃	西藤 興治	OB会副会長(昭和57年卒)	〃	仲尾 優作	平成23年卒
〃	渡辺 利勝	第42回選抜高野球大会出場時主将	〃	岩見 亮平	平成24年卒
〃	森山 博志	昭和55年卒(現筑紫中央高校野球部監督)	〃	村上 雄馬	平成25年卒
実行委員	瀬利 信行	昭和47年卒	〃	高木 駿	平成26年卒
〃	古賀 洋一	昭和55年卒	〃	石垣 智聖	平成27年卒
〃	内田 勇人	昭和57年卒	〃	古立 幸大	平成28年卒
〃	財津 隆浩	昭和58年卒	〃	三浦 功大	平成29年卒
〃	納富 洋祐	昭和58年卒	〃	染矢 敬太	平成30年卒
〃	四枝 浩和	昭和59年卒	〃	木村 健人	平成31年卒
〃	江島 賢二	平成12年卒	監 査	安河内重光	昭和33年卒
〃	藤武 裕司	平成13年卒	〃	秋根 弘道	平成9年卒
〃	西村 英樹	平成14年卒	事務局	中嶋 稔郎	平成2年卒
〃	塚本 祐次	平成15年卒	〃	村津 卓二	平成10年卒
〃	緒方 賢治	平成16年卒	会 計	吉川 真司	平成11年卒

本編は1999年に編集、発行された記念誌「甲子園への道」(50年のあゆみ)より、一部流用、レイアウトなどを参考に再編集させていただきました。

当時の編集・実行委員の方々のご苦勞を肌で感じつつ、本編の制作にご尽力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

次号は90年記念誌・100年記念誌を目標に、新たな準備を始めていただきたいと思います。
筑紫中央高等学校野球部のこれからのあゆみも、我々OBは見守って参ります。

福岡県立筑紫中央高等学校 野球部創部70周年記念誌

発行 令和元年11月1日
発行者 福岡県立筑紫中央高等学校 野球部OB会
学校所在地 大野城市中央2丁目12番1号 〒816-0942
TEL092-581-1470 FAX092-581-1584
印刷会社 大道印刷株式会社
春日市日の出町6丁目23番地 〒816-0873
TEL092-582-0927
編集・制作 カルタデザイン
協力 糸島市二丈深江945-2 〒819-1601
TEL092-325-2929

甲子園への道

—七十年のあゆみ—
筑業中央高校野球部誌

福岡県立筑業中央高等学校
野球部OB会

